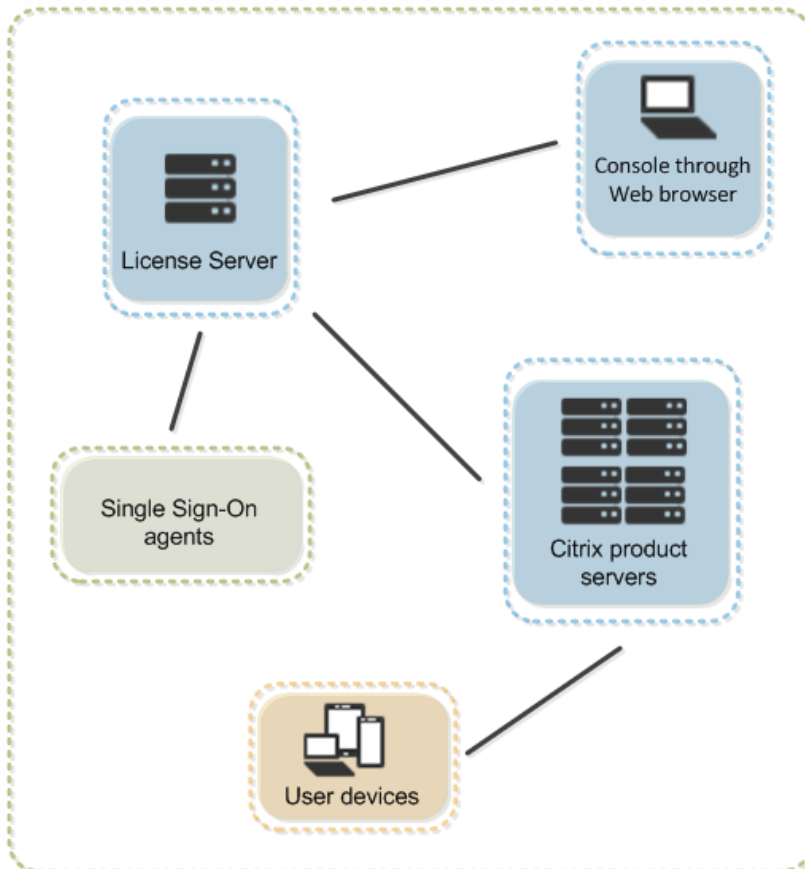


# ライセンス11.14.0.1

Feb 26, 2018

シトリックス製品の各環境では、少なくとも1つのライセンスサーバーが動作している必要があります。ライセンスサーバーとは、ライセンスの格納および管理を行うコンピューターを指し、ほかの機能と兼用したり、ライセンスサーバー専用として動作したりできます。シトリックス製品にユーザーが接続を試みると、製品がライセンスサーバーにライセンスを要求します。

シトリックス製品が動作するサーバーがライセンスサーバーと通信し、必要なライセンスを取得します。



ユーザーがシトリックス製品に接続すると、ライセンスサーバーからライセンスが取得されます。つまり、シトリックス製品がユーザーやクライアントデバイスからの接続を受け入れるためのライセンスを、ライセンスサーバーに要求します。ライセンスサーバーからライセンスが正しくチェックアウトされると、ユーザーの接続が受け入れられ、シトリックス製品を使用できるようになります。

製品の展開環境の規模により、ライセンスサーバーとほかの製品サーバーを1つのコンピューターで兼用したり、専用のライセンスサーバーや複数のライセンスサーバーを運用したりできます。

ライセンスファイルは、ライセンスする製品に関連したライセンスサーバーに必要です。製品はその特定のライセンスサーバーと通信できるよう構成する必要があります。Citrix Licensing Managerおよびライセンス管理コンソールは、ライセンスサーバー上のライセンスを管理し、監視するためのユーザーインターフェイスです。この管理コンソールでは、ライセンスの使用状況やアラートを確認したり、ライセンスファイルをインポートしたり、使用履歴レポートを作成したり、ライセン

スサーバーの設定を管理したりできます。

## 最新リリース：11.14

Citrixライセンスサーバーの過去のリリースについて詳しくは、次のドキュメントを参照してください。

- [ライセンスサーバー11.13.1](#)
- [ライセンスサーバー11.12.1](#)

# 新機能

Feb 26, 2018

ビルド23101の新機能または強化された機能は次のとおりです。

**Citrix Licensing Managerの強化。**すべての製品、すべてのライセンスモデル、すべてのカスタマーサクセスサービス (Subscription Advantage) の日付を選択できるため、データを簡単にエクスポートできます。以前は、特定の製品、モデル、カスタマーサービスの日付範囲を選択する必要がありました。

**強化されたuadmin.exeのレポート出力。**uadmin.exeの出力で、ユーザー/デバイスのライセンス使用に関するレポート機能と表示機能が向上しています。CSVファイル形式での出力は、その一例です。詳しくは、「[ライセンスコマンド](#)」を参照してください。

ビルド22103の新機能または強化された機能は次のとおりです。

- **Citrix Licensing Managerの強化。**これらの機能強化により、次のことが可能になります。
  - 追加猶予期間を有効または無効にします。
  - 以下のポートを変更します。
    - ライセンスサーバー (デフォルトは27000)
    - ベンダーデーモン (デフォルト2729)
    - Web Services For Licensing (デフォルトは8083)
  - 使用状況履歴の保有期間を設定します。
  - ライセンスサーバーのバージョン、ホスト名、イーサネットアドレス、IPVアドレスを画面の上部バーに表示します。

ビルド21103の新機能または強化された機能は次のとおりです。

- **Citrix Licensing Managerの強化。**ライセンスアクセスコードまたはダウンロードファイルを使用してインストールしたライセンスの詳細が表示されるようになりました。

ビルド20104の新機能または強化された機能は次のとおりです。

- **Citrix Licensing Managerの強化。**次の機能強化がCitrix Licensing Managerに追加されました。
  - ライセンスのインストールに、ライセンスアクセスコードを使用するかライセンスファイル (.lic) を使用するかを選択できるようになりました。
  - Citrixへのアップロードに失敗した使用状況の統計情報を再試行できるようになりました。
  - サーバーの構成画面に前回のアップロード情報が表示されるようになりました。

ビルド19005の新機能または強化された機能は次のとおりです。

- **プロキシ設定。**外部向けのWeb通信が必要なコンポーネントで、Windows自動プロキシ検出が有効になっています。ライセンスサーバーが、その環境内にあるプロキシを自動で検出し、指定の受信先と通信します。手動による操作は必要ありません。

- **Citrix Licensing Managerの強化。** Subscription Advantage更新ライセンスの有無を確認し、その結果を通知したり、自動的にライセンスをインストールしたりできます。

Citrixカスタマーエクスペリエンス (CEIP) と Call Homeの構成がいつでも可能になりました。この構成は、インストール時やアップグレード時に設定できます。Call Homeは、基本的な使用状況および統計上のコレクションです。詳しくは、「[Citrixライセンスサーバーカスタマーエクスペリエンス向上プログラム \(CEIP\) およびCall Home](#)」を参照してください。

ビルド17005の新機能または強化された機能は次のとおりです。

- **Citrixライセンス管理サービス。** このサービスは、ライセンスの管理およびサポートに役立ちます。
  - Citrix Insight Servicesに関連付けて、ライセンス管理コンソールを提供します。
  - ライセンス環境についてCitrixからより適切なサポートを受けられます。
  - 組織の成長とともに、ライセンス環境を把握および制御するために不可欠な情報を提供します。

詳しくは、「[Citrixライセンス管理サービス](#)」を参照してください。

- **データベースストレージ-** データベースは使用状況履歴データを保存およびエクスポートし、パフォーマンスを向上させます。

この新機能は、ライセンスサーバーVPXビルド19800で利用できます。

- **ライセンスサーバーVPXを使用したActive Directory、Citrix Licensing Manager、Studio、Directorの統合サポート。** ライセンスサーバーVPXは、Active DirectoryとCitrix Licensing Manager、Studio、Directorの統合をサポートします。ライセンス管理コンソールを使用してユーザーを管理します。構成済みのActive Directoryユーザーは、ライセンス管理コンソールおよびCitrix Licensing Managerにログオンできます。

ビルド17000の新機能または強化された機能は次のとおりです。

- **CitrixライセンスサーバーVPXの新しいバージョンLinuxベースの自己完結型仮想アプライアンスで、これを使用すればCitrix環境にライセンスシステムを展開できます。**

ビルド16100の新機能または強化された機能は次のとおりです。

- **CitrixライセンスサーバーVPXの新しいバージョンLinuxベースの自己完結型仮想アプライアンスで、これを使用すればCitrix環境にライセンスシステムを展開できます。** ライセンスサーバーVPXには、ライセンスやデータをエクスポートおよびインポートして、VPXリリース間で移動できるスクリプトが含まれています。次の作業を行うことで、アプライアンスをオンラインにすることができます。
  - アプライアンスをホストまたはホストプールにインポートする。
  - IPアドレス、ホスト名、そのほかのネットワーク情報など、基本的なネットワーク設定を構成する。
  - ライセンス管理コンソールを使用してホストにライセンスをアップロードする。
- **Call Home。** Call Home機能が拡張され、Citrix Service Providerライセンスを検出し、製品使用状況をCitrixに報告します。詳しくは、「[CitrixライセンスサーバーCustomer Experience Improvement Program \(CEIP\) およびCall Home](#)」を参照して

ください。

# 既知の問題と解決された問題

Feb 26, 2018

このアーティクルの内容：

[インストールの問題](#)

[そのほかの既知の問題](#)

[そのほかの既知の問題と注意事項 - ライセンスサーバーVPXのみ](#)

[ライセンスファイルの問題](#)

[解決された問題](#)

## 既知の問題

- Windowsファイアウォールが有効（Windows Server 2008でのデフォルト設定）なクラスター環境にライセンスサーバーをインストールする場合、フェールオーバーの発生後にライセンス管理コンソールへのリモートからのアクセスやライセンスのチェックアウトがブロックされます。Windows Server 2008では、ライセンスサーバーやSimple License Serviceのインストール時にCITRIX.exeおよびlmadmin.exe用の例外規則が作成されますが、クラスターフェールオーバーによりこれらの規則が動作しなくなります。この問題を回避するには、各クラスターノードのWindowsファイアウォールで、ライセンスコンポーネント用の例外を作成してください。管理コンソールWebサービスポート（デフォルトで8082）、ライセンスサーバーマネージャーポート（デフォルトで27000）、Simple License Serviceポート（デフォルトで8083）、およびベンダーデーモンポート（デフォルトで7279）について例外を作成します。この問題は、Windows Server 2008（32ビットおよび64ビット）、Windows Server 2008 R2、およびWindows Server 2012で発生します。詳しくは、<http://support.microsoft.com/kb/2568645>を参照してください。[#232365]
- インストールウィザードでは、[構成] ページが開きます。ここでライセンスサーバーを構成しなくても、後で構成することができます。これを行うには、ライセンスサーバーのインストーラーを再度実行するか、ライセンスサーバー設定ツールを使用します。このツールを起動するには、C:\Program Files\Citrix\Licensing\LS\resource\Licensing.Configuration.Tool.exeをダブルクリックします。何らかの理由でライセンスサーバー設定ツールでの構成に失敗した場合は、ライセンスサーバーをアンインストールしてから再インストールしてください。
- インストールパスに英語以外の文字が含まれる場合、インストールに失敗する可能性があります。デフォルトのインストールパスを使用するか、ASCII文字のみを使用してください。[#229456]
- 製品側でライセンスサーバーの名前を指定するときに、「localhost」を使用しないでください。FQDNの代わりにホスト名やIPアドレスを指定することもできますが、FQDNを使用することをお勧めします。[#165986]
- ローカライズされた言語によっては、ユーザー名の大文字と小文字が区別されるものがあります。Citrix Licensing Managerにログオンするには、非ASCII文字が含まれている場合、大文字でドメイン名\ユーザー名を設定します。[#595621]

- クラスター環境で既存のライセンスサーバーをVersion 11.12.1にアップグレードするときに、「このインストールドライブは、選択したクラスターグループの一部ではありません。正しいクラスターグループを選択するか、選択したグループにこのドライブを追加してください」という内容のメッセージが表示されることがあります。Version 11.12.1の新しいクラスター機能を使用するには、既存のバージョンのライセンスサーバーをアンインストールしてください。古いバージョンのライセンスサーバーは、Microsoft社の最新のクラスターガイドラインに準拠していません。
- ライセンス管理コンソールやCitrix Licensing ManagerのWebページインターフェイスを開いたときに、空白のページが表示されることがあります。この問題は、Internet Explorerセキュリティ強化の構成が有効になっていて、ライセンス管理コンソールやCitrix Licensing ManagerのWebページインターフェイスが信頼済みサイトに追加されていない場合に発生します。  
回避策：Internet Explorerセキュリティ強化の構成を無効にしてください。[#382429]
- インストール後、[スタート]メニューから初めてCitrix Licensing Managerにアクセスする時、FirefoxとChromeのWebブラウザではエラーメッセージが表示される場合があります。[#LIC-195]
- このバージョンのライセンスサーバーを使用する環境で以前のバージョンのDesktop Studio (XenDesktop 7 Studioよりも古いもの)を使用すると、[ライセンス]ノードにライセンス情報が表示されず、ライセンスサーバーを管理できません。新しいバージョンのライセンスサーバーは、既存のXenDesktop環境やほかのシトリックス製品環境でも正しく動作します。古いバージョンのDesktop Studioを継続使用する場合は、ライセンスサーバーに付属のライセンス管理コンソールを使ってライセンスの使用状況を表示したり、ライセンス管理者を管理したり、ライセンスをアップロードしたりできます。XenDesktop 7よりも古いバージョンのXenDesktopを使用する環境でWindows上のCitrixライセンスサーバーをVersion 11.11.1または11.12.1にアップグレードすると、以下の警告メッセージが表示されることがあります。  
警告：この更新をインストールすると、Licensing Configuration Serviceが削除されます。これにより、このリリースよりも古いStudioでは一部のライセンス情報が提供されなくなります。
- 非英語版プラットフォームのクラスターノード上でライセンスサーバーをインストールするときに、[構成]ページの「クラスターグループ」の一覧にシステムデフォルトのクラスターグループが表示されることがあります。この問題が発生し、場合は、デフォルトではないクラスターグループを選択してインストールを続行してください。[#497524]
- CEIPのアップロードに失敗した後、Citrix Licensing Managerに表示されるエラーメッセージにログファイルの場所が表示されません。ログファイルの場所は/opt/citrix/licensing/LS/logs/log\_ctxuploader.txtです。[#LIC-396]
- Active Directoryとの統合に何度か失敗した後、統合が成功した場合、ライセンスサーバーVPXの初期構成時にLDAPエラーが発生することがあります。  
  
回避策：resetsettings.shを実行し、詳細を再入力します。
- Chromeブラウザから初めてCitrix Licensing Managerにアクセスすると、ネットワークエラーが表示されることがあります。  
  
回避策：ページを更新してください。
- Citrix Licensing Managerに参加しているドメイン外からCitrix Licensing Managerにアクセスすると、資格情報の入力を複数回要求されることがあります。ブラウザの設定の変更が必要な場合があります。詳しくは、<https://techsupport.citrix.com/Troubleshooting/KB/KB01223>を参照してください。
- Citrix Licensing Managerページに表示されるログオンユーザーのユーザー名は、「ドメイン\ユーザー」の形式です。Windows用ライセンスサーバーのCitrix Licensing Managerでは、ユーザー名が「ユーザー@ドメイン」の形式で表示されません。

- XenDesktop 7.0~7.13またはXenApp 7.5~7.13を構成するときは、PowerShellコマンドレットSet-Configsiteを実行してライセンスサーバーVPXを指定してください。新規インストールを行う場合は、XenDesktopまたはXenAppをインストーラーの手順に従ってインストールおよび構成し、さらにPowerShellを使用してライセンスサーバーVPXを指定します。  
Set-ConfigSite -LicenseServerName -LicenseServerPort
- ポート1から1024はオペレーティングシステムによって予約されています。VPXのポートを構成するときは、1024より大きいポートを使用してください。デフォルトでは、VPXはSSLにポート8082を使用します。これはファイアウォールで開いています。SSLのためにほかのポートを選択する場合は、iptablesでファイアウォールを再構成します。
- ライセンスサーバーVPXのアップグレードはサポートされません。
- 一部の種類のライセンスは、Citrix Subscription Advantageの対象外です。そのため、ライセンス管理コンソールのダッシュボードビューにCitrix Subscription Advantageが失効しているというアラートが表示されます。Citrix Subscription Advantageの対象外であるライセンスについては、このようなアラートは無視してかまいません。対象外のライセンスに含まれるのは、評価版ライセンス、再販禁止ライセンス、初期リリースライセンス、およびテクノロジープレビューライセンスです。これらの種類のライセンスにはCitrix Subscription Advantageは不要であり、Citrix Subscription Advantageが失効してもシトリックス製品は機能し続けます。アラートが表示されたライセンスの状態は、ダッシュボードビューでライセンスをクリックして確認できます。ライセンス情報が展開され、ライセンスの種類（テクノロジープレビューなど）、ライセンスの有効期限、Citrix Subscription Advantageの有効期限が表示されます。[#231847]
- 複数行でHOSTNAME=パラメータが指定されているライセンスファイルは、ライセンスサーバーによって無視されます。そのようなファイルのライセンスはチェックアウトできません。この問題は、複数の異なるライセンスサーバーに関連付けられているライセンスを同じライセンスファイルにダウンロードした場合に発生します。この場合、ライセンス管理コンソールに「...Error List Returned...Unknown Host. (...エラーリストが返されました...不明なホストです)」というエラーメッセージが表示されます。  
この問題を解決するには、異なるライセンスサーバーに関連付けられている各シトリックス製品のライセンスを、ライセンスサーバー単位で分割して再ダウンロードしてください。
- ライセンスサーバー上の評価版ライセンスファイルを新しいライセンスファイルに置き換えても、ユーザーがシトリックス製品にログオンするときに、ライセンスの有効期間が切れたことを示す次のエラーメッセージが表示され続けることがあります。「警告：次のシトリックス製品では評価版ライセンスが使用されています。このライセンスは、あと...日で試用期限が切れます。」  
この問題を解決するには、次の手順に従います。
  1. 古い評価版のライセンスファイルをライセンスサーバーから削除します（Citrixドキュメントの「ライセンスファイルの削除」を参照）。
  2. ライセンスサーバーのCitrix Licensingサービスを再起動します。
  3. ライセンスの検証が必要なシトリックス製品が動作するサーバーで架空のライセンスサーバーを参照する設定に変更し、それから実際のライセンスサーバーを参照する設定に戻します。これらの設定の変更については詳しくは、各製品のドキュメントを参照してください。
  4. 問題が解決しない場合は、製品サーバー（Delivery Controllerなど）を再起動します。

## 解決された問題

VPXビルド23101で解決された問題



- 使用履歴レポートにインストールされたライセンスの正しくない情報が表示されます。[#LIC-405]
- Opensslは1.0.2から1.0.2nにアップグレードされ、セキュリティ上の修正が加えられました。[#LIC-404]

#### VPXビルド19800で解決された問題

- CitrixライセンスサーバーVPX、ビルド17000。https://FQDN:8082を使用してライセンス管理コンソールにアクセスすると、CITRIXベンダーデーモンが終了することがあります。回復するには、ライセンスサーバーを再起動します。[#LIC-313]
- ライセンス管理コンソールのライセンスサーバー構成で、ライセンスサーバーマネージャーの[デフォルトのポート]を選択してからCitrix Licensingサービスを再起動しないでください。このオプションを選択すると、ライセンスサーバーにアクセスできなくなります。[#LIC-180]
- Studioでは、ライセンスの使用状況を表示したりライセンスサーバーを管理したりすることはできません。ライセンスの使用状況を表示したり、ライセンス管理者を管理したり、ライセンスをアップロードしたりするには、ライセンスサーバーに付属のライセンス管理コンソールを使用してください。
- ライセンスサーバーVPXでは、Active Directoryがサポートされません。

#### ビルド22103で解決された問題

- Citrixライセンス管理コンソールのバージョン21103で、v11.14.1.1という間違ったバージョン番号が表示されます。正しい番号は11.14.0.1です。
- Citrix Licensing Managerを使用して別のライセンスをインストールすると、画面の右側に表示されるインストールされたライセンス情報が歪んで表示されることがあります。[#LIC-282]
- Citrix Licensing Manager Serverの [Configuration] ページで言語をフランス語またはドイツ語に変更すると、エラーが発生することがあります。このエラーが発生すると、 [Historical Usage] ドロップダウンメニューは何も表示しなくなります。[#LIC-317]

#### ビルド20104で解決された問題

- Citrix Licensing Managerを起動する場合にデフォルトのブラウザがFirefoxであれば、Citrix Licensing Managerにアクセスできず、Firefoxは一般的なエラーメッセージを表示します。[#LIC-107]
- Citrix Licensing Managerのアップロードに失敗した通知が、CEIPとCall Homeを無効にしても削除されません。[#LIC-188]

#### ビルド18001で解決された問題

- Citrixライセンス管理コンソールで不正な文字が表示される問題が解決されました。[#LC5354]

#### ビルド17005で解決された問題

- 種類がIPv6のアドレスを返す必要がある場合、Imhostidの応答は空白になります。[#621679]

#### ビルド17000で解決された問題

- udadminコマンドを使用しても、デバイス名にアポストロフィが含まれる場合ライセンスが削除されません。[#LIC-142]
- ビジー状態のポートをベンダーデーモンまたはライセンス管理コンソールに割り当てると、ベンダーデーモンがダウンするか、ライセンス管理コンソールにアクセスできなくなります。[#LIC-65]

- **Windows** - サービスを再開したことでビジー状態になっているポートを使用してベンダーデーモンポートを更新するとベンダーデーモンがダウンします。ライセンス管理コンソールにアクセスし、再開に続いて有効なフリーポートを使用してベンダーデーモンポートを更新し、ライセンスサーバーを復元します。
- **VPX** - この場合は、サポートへの連絡が必要です。

# サードパーティ製品についての通知

May 22, 2017

Citrix Licensing 11.14には、次のドキュメントで定義された条件の下でライセンスが有効になったサードパーティのソフトウェアが含まれている可能性があります。

-  [Non-Commercial Software Disclosures For FlexNet Publisher 2016 R1 \(11.14.0.0\)](#)
-  [FLEXnet Publisher Documentation Supplement Third PartyおよびFlexNet Publisher 11.14.0で使用されるオープンソースソフトウェア](#)

# 必要なシステム - Citrixライセンスサーバー

Feb 26, 2018

ライセンスサーバーを使用するために必要なハードウェアは、各オペレーティングシステムでのハードウェア要件と同じです。ハードウェアを追加する必要はありません。

## 注意

- ライセンスサーバーは、マルチホームサーバー（複数のネットワークカードで異なるネットワークに接続するサーバー）上で使用することはできません。
- ライセンスサーバーを管理するには、そのサーバー上にインストールした「ライセンス管理コンソール」を使用します。ライセンス管理コンソールでリモートおよびサードパーティのライセンスサーバーを管理することはできません。Citrix Licensing Managerを使用する場合も、Citrix Licensing Managerが動作するライセンスサーバー上にのみライセンスをインストールできます。ライセンスサーバーは、サーバーオペレーティングシステムにのみインストールすることを推奨します。Webブラウザを使用すれば、任意のサーバーオペレーティングシステムまたはクライアントオペレーティングシステムからコンソールにアクセスできます。ライセンスサーバー間での通信はできません。

オペレーティングシステム	<p>ライセンスサーバーは、以下のWindowsオペレーティングシステムが動作するサーバーにインストールできます。Microsoftの最新のService Packと更新プログラムをインストールすることをお勧めします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Windows Server 2016ファミリー</li> <li>• Windows Server 2012 R2ファミリー</li> <li>• Windows Server 2012ファミリー</li> <li>• Windows Server 2008 R2ファミリー</li> <li>• Windows 10 (32ビットおよび64ビット) (ビルド18001以降ではサポートされません)</li> <li>• Windows 8.1 (32ビットおよび64ビット) (ビルド18001以降ではサポートされません)</li> <li>• Windows 8 (32ビットおよび64ビット) (ビルド18001以降ではサポートされません)</li> <li>• Windows 7 (32ビットおよび64ビット) (ビルド18001以降ではサポートされません)</li> </ul>
ディスクスペースの要件	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ライセンスコンポーネントに161MB</li> <li>• ユーザー/デバイスライセンスに2GB</li> </ul>
Microsoft.NET Frameworkの要件	Microsoft.NET Framework 3.5 SP1以降が必要です。
クラスターのプラットフォーム	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Windows Server 2016ファミリー</li> <li>• Windows Server 2012 R2ファミリー</li> <li>• Windows Server 2008 R2ファミリー</li> </ul>
Webブラウザ	<p>以下のブラウザはテスト済みです。そのほかのブラウザも機能する可能性はありますが、すべての機能を実行できない可能性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Internet Explorerバージョン11</li> <li>• Microsoft Edge</li> <li>• Mozilla Firefox</li> <li>• Chrome</li> <li>• Safari</li> </ul>

次の表は、XenServer上のライセンスサーバーVPXで必要なリソース要件を示しています。

メモリ	512MB。500のCitrixサーバーおよび約50,000ライセンスに最適。操作の過程で、さらにメモリーが必要かを確認してください。大規模な環境では、より多くのメモリーを割り当てることをお勧めします。
XenServerのバージョン	XenServer 7.0、7.1、7.2、7.3。
ストレージ	XenServerプール内のデフォルトのストレージリポジトリ上に8GB必要です。
仮想CPU (VCPU)	1つの仮想CPU。大規模環境またはユーザー/デバイスライセンスを使用する環境では、仮想CPUを2つにすることを検討してください。
Webブラウザ	以下のブラウザはテスト済みです。そのほかのブラウザも機能する可能性はありますが、すべての機能を実行できない可能性があります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Internet Explorerバージョン11</li> <li>• Microsoft Edge</li> <li>• Mozilla Firefox</li> <li>• Chrome</li> <li>• Safari</li> </ul>
Active Directoryの統合とCitrix Licensing Manager	Active DirectoryとVPXの統合には、keytabファイルが必須であり、Windows Server OS上でのみ作成できます。Active Directoryが構成され、keytabファイルが正しくインストールされるまで、Citrix Licensing Managerは使用できません。

# 製品の技術概要

Feb 26, 2018

シトリックス製品を使用するには、Citrixライセンスサーバーをインストールする必要があります。Citrixライセンスサーバーのシステムは、以下のコンポーネントで構成されます。

**ライセンスサーバー。** ネットワークを介したライセンスの共有を可能にするシステムです。

**ライセンスファイル。** 製品のライセンスを有効にするためのファイルです。ライセンスファイルは、ライセンスサーバー上に格納されます。

**Citrix Licensing Manager。** 次を有効にします。

**最新のビルド：**

- すべての製品、すべてのライセンスモデル、すべてのカスタマーサクセスサービス (Subscription Advantage) の日付を選択できるため、データを簡単にエクスポートできます。以前は、特定の製品、モデル、カスタマーサービスの日付範囲を選択する必要がありました。

**以前のビルド：**

- 追加猶予期間を有効または無効にします。
- 以下のポートを変更します。
  - ライセンスサーバー (デフォルトは27000)
  - ベンダーデーモン (デフォルト2729)
  - Web Services For Licensing (デフォルト8083)
- 使用状況履歴の保有期間を設定します。
- ライセンスアクセスコードまたはダウンロードファイルからインストールしたライセンスの詳細を表示。 - ビルド21103
- GUIインターフェイスを使用して、ライセンスサーバーにライセンスファイルを割り当ておよびインストール。
- ライセンスアクセスコードまたはライセンスファイル (.lic) によるライセンスのインストール。
- カスタマーエクスペリエンス向上プログラム (CEIP) およびCall Homeの構成。
- Citrixへのアップロードに失敗した使用状況の統計情報を再試行できるようになりました。
- カスタマーサクセスサービス更新ライセンスを自動または手動で確認し、ライセンスが見つかったと通知またはインストール。
- ライセンスサーバーの使用状況履歴レポートの作成およびエクスポート、および履歴データの保持の構成。デフォルトのデータ保持期間は180日。
- 次のライセンスサーバーの状態を通知。起動ライセンスの不足、時間の問題、アップローダの失敗。

**ライセンス管理コンソール。** ライセンスファイルおよびライセンスサーバーを管理するためのインターフェイスです。

**Web Services for Licensing。** Studio、Director、ライセンス管理PowerShellスナップインを有効にして、次のことを可能にします。

- ライセンスサーバーと通信し、ユーザーを管理。
- ライセンスを割り当ててインストール。
- ライセンスサーバーの正常性、ライセンスの使用状況、他のアラートメッセージを表示する

**Citrixライセンス管理サービス。** Citrix Insight Servicesのライセンス管理コンソール経由で、ライセンス環境を管理できます。このサービスは、ライセンスの管理およびサポートに役立ちます。

- ライセンスの最大値を超えそうな場合に新しいライセンスを割り当てる
- アップグレード後に以前のライセンスを破棄する
- 障害回復 (DR : Disaster Recovery) 環境で重複ライセンスを管理する

シトリックス製品側でのライセンスサーバー設定 :製品とライセンスサーバーを関連付けます。

詳しくは、「[ライセンスサーバーの要素](#)」および「[サービス](#)」を参照してください。

通常、ユーザーがシトリックス製品への初回接続を試みると、製品からライセンスサーバーにライセンスが要求されます。ライセンスサーバーで要求が許可されると、そのシトリックス製品を使用するためのライセンスが付与されます。これを、ライセンスのチェックアウトと呼びます。製品サーバーからユーザーがログオフすると、製品がライセンスサーバーにライセンスを戻します。これを、ライセンスのチェックインと呼びます。一部のシトリックス製品では、ユーザーが接続した瞬間にライセンスがチェックアウトされ、一定の期間チェックアウト状態が保持されます。

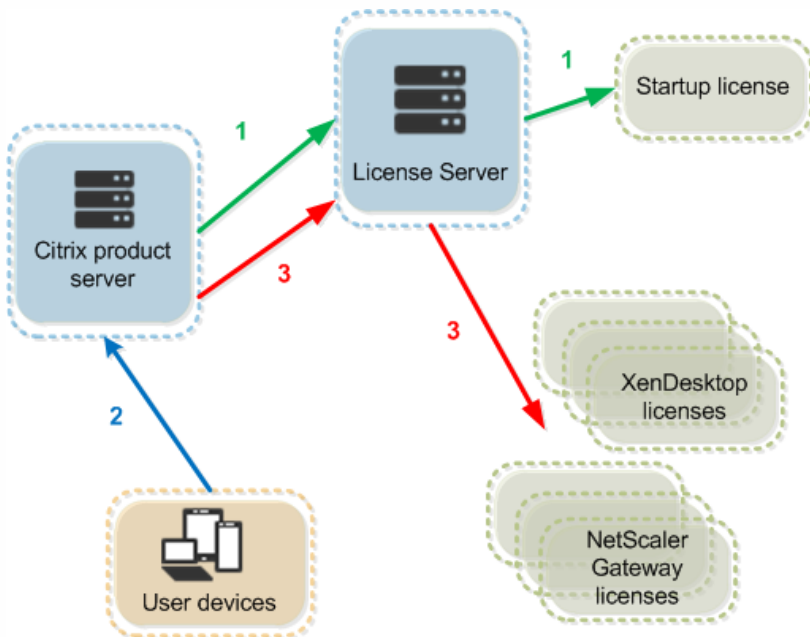
シトリックス製品は、起動時にスタートアップライセンスをチェックアウトします。これによりライセンスサーバーへの接続が開かれます。このスタートアップライセンスはシトリックスのシステムファイルであり、これによりシトリックス製品とライセンスサーバーとの接続が維持されます。次の図は、各シトリックス製品がライセンスサーバーへの接続を維持していることを示しています。

シトリックスでは、単一のライセンスサーバーのスケラビリティを、最大約34万個の同時接続ライセンス (32ビットバージョンのCITRIXプロセスがメモリ不足になるまでの最大数) と100万個のユーザー/デバイスライセンスまでテストします。

たとえば、XenDesktopがライセンスを要求すると、データストアからライセンスサーバーの名前とポート番号を取得します。そして、適切なライセンスを取得するために、接続を確立します。

ライセンスのチェックアウトプロセスには、3つの段階があります。

□





シトリックス製品は、以下の3つの段階を経てライセンスをチェックアウトします。

1. シトリックス製品が起動すると、その製品が動作するサーバーがスタートアップライセンスをチェックアウトします。
2. クライアントデバイスが製品サーバーに接続します。
3. シトリックス製品が、ライセンスサーバーにライセンスを要求します。

XenDesktopなどのシトリックス製品では、ライセンスサーバーからのライセンス情報（ライセンス数やライセンスの種類）の複製がローカルに保持されます。シトリックス製品サーバーとライセンスサーバーとの接続が失われたりライセンスサーバーが正しく応答しなくなったりすると、製品が猶予期間に入ります。この間、ローカルに保持されているライセンス情報に基づいて製品の使用が許可されます。シトリックス製品は、この情報を1時間ごとに更新します。

## 猶予期間

シトリックス製品サーバーとライセンスサーバーとの接続が失われても、ユーザーおよび製品は猶予期間により保護されます。猶予期間中の製品は、ライセンスサーバーとの接続が保持されているときと同じように動作します。シトリックス製品が起動してスタートアップライセンスをチェックアウトすると、シトリックス製品とライセンスサーバーが5分ごとに「ハートビート」メッセージを交換します。このメッセージにより、両者が正しく動作しており、接続が維持されていることが確認されます。シトリックス製品またはライセンスサーバー側でハートビートメッセージを送信しないと、製品がライセンス猶予期間に入り、ローカルに保持されているライセンス情報に基づいた動作を開始します。

Citrixは猶予期間を設定します。通常は30日間ですが、製品により異なる場合があります。シトリックス製品が猶予期間に入ると、猶予期間の残り時間の情報と共にWindowsのイベントログに記録され、製品上でメッセージが表示されます。猶予期間が終了すると、シトリックス製品がユーザー接続の受け入れを停止します。シトリックス製品とライセンスサーバーとの接続が回復すると、猶予期間の残り時間はリセットされます。

シトリックス製品が猶予期間に入るためには、ライセンスサーバーとの接続が少なくとも1回確立されている必要があります。

### 猶予期間の例 - ライセンスサーバーを共有する2つのサイトの場合

サイト1とライセンスサーバーとの接続が失われると、サイト1が猶予期間に入り、処理および接続が引き続き許可されます。同時接続ライセンスの場合は、インストールされている同時接続ライセンスの最大数まで接続が許可されます。ユーザー/デバイスライセンスの場合は、接続数に制限はありません。サイト1とライセンスサーバーとの接続が回復すると、通常時のライセンスで許可される数になるまで新しい接続は拒否されます。この間、サイト2は通常どおり機能します。

ライセンスサーバーが停止すると、両方のサイトが猶予期間に入ります。各サイトでは、インストールされているライセンスの最大数まで接続が許可されます。この場合も、ユーザー/デバイスライセンスでは接続数に制限はありません。

## 追加猶予期間

追加猶予期間は、XenApp 7.6およびXenDesktop 7.6以降でサポートされます。

すべてのライセンスが使用されると、追加猶予期間により無制限のアクセスが許可され、その間に管理者は問題の把握と解決に専念できます。追加猶予期間は、15日経過するまで、または他の製品版ライセンスを追加するまで継続します。どちらか一方が発生した時点で終了します。追加猶予期間が開始したら、警告状態を取り消すためにライセンスを即座に追加するのではなく猶予期間を利用することをお勧めします。

追加有効期間が終了したら、通常の接続制限が適用されます。ユーザーが強制的に切断されることはありませんが、ユーザー側で切断した場合、ライセンスレベルが通常の状態に戻るまで新しい接続は拒否されます。

終了した追加有効期間が自動的に再度有効になることはありません。追加有効期間を再度有効にするには、別の製品版ライセンスをインストールしてください。通常のライセンス制限が適用されます。別の製品版ライセンスをインストールして追加有効期間を再度有効化した場合、次に使用ライセンス数が超過したときに再び15日の追加猶予期間が開始します。

## 注意

追加猶予期間中にライセンスをインストールすると、ライセンスサーバーが追加猶予期間を終了します。追加猶予期間の理由を決定する前に追加猶予期間を再度有効化すると、別ライセンスのインストール後に追加猶予期間が再度発生する可能性があります。

追加猶予期間は、製品のバージョンおよびエディションに応じて付与され、対象は製品版ライセンスのみです。最初にライセンスをインストールする際、追加猶予期間は、デフォルトで有効になっています。追加猶予期間を無効にするには、CITRIX.optファイルに次の行を追加して、Citrixライセンスサービスを再起動してください。

```
#CITRIX SGPOFF
```

### 追加猶予期間の例：

インストール済みのライセンス数が上限の1000個に達している状態で、新たに接続を実行すると（最大数+1）、追加猶予期間が開始します。15日の期間が一時的に付与され、予期せぬ容量の問題に対応するための容量が追加されます。

## Important

- 追加猶予期間とライセンスの超過使用保護は、2つの異なる機能です。追加猶予期間は、製品とライセンスサーバーの機能です。ライセンスの超過使用保護は、ライセンスの機能です。ライセンスの超過使用保護について詳しくは、「[ライセンスの超過使用保護](#)」を参照してください。
- ライセンスサーバーVPXはライセンスサーバーの補足猶予期間をサポートしません。

## 関連情報

[Licensing elements](#)

[License files](#)

[Citrix Licensing Manager](#)

[License Administration Console](#)

[Services](#)

# ライセンスサーバーの要素

Feb 26, 2018

Citrixライセンスサーバーは、以下の要素で構成されています。

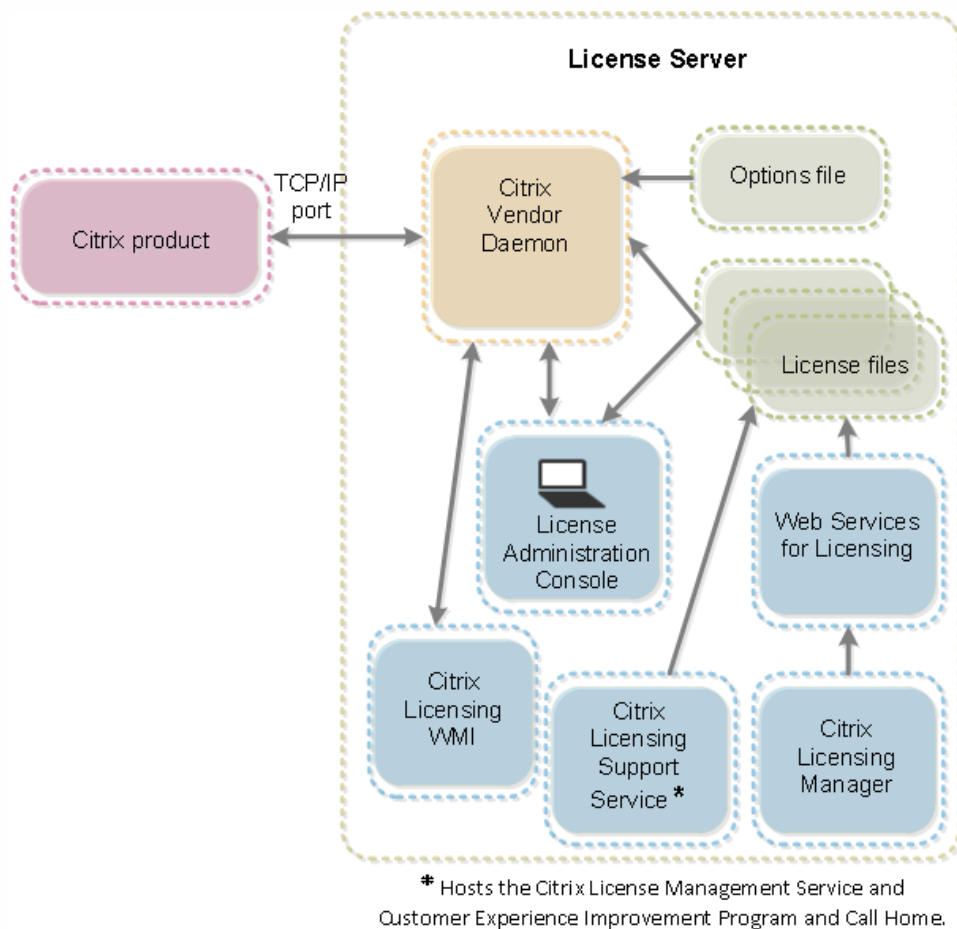
[Citrixベンダーデーモン](#)

[オプション構成ファイル](#)

[CitrixライセンスサーバーCustomer Experience Improvement Program \(CEIP\) およびCall Home](#)

[ライセンスの要求プロセス](#)

次の図は、TCP/IPポートを介してライセンスサーバーと通信するシトリックス製品を示しています。



シトリックス製品のライセンスは、ライセンスサーバー上で動作するCitrixベンダーデーモン (CITRIX) により付与されます。Citrixベンダーデーモンは、チェックアウトされたライセンスの数と、どのシトリックス製品がライセンスを使用しているかを追跡します。Citrixベンダーデーモンとシトリックス製品との通信はTCP/IPにより行われ、デフォルトでTCP/IPポート7279が使用されます。

オプションファイル (Citrix.opt) は、Citrixベンダーデーモンの起動時、およびファイルの再読み込みコマンドの実行時に読み込まれるサーバー設定ファイルです。この設定ファイルにより、製品サーバーが使用できるライセンス数、システムログの場所、ログレベル、そのほかのカスタマイズ情報などのライセンスの動作が定義されます。カスタマーエクスペリエンス向上プログラム (CEIP) およびCall Homeの構成は、このファイルに保存されます。

## Important

Flexeraは、ライセンスの使用を制御、維持、または制限するためにオプションファイルを編集する方法を提供しますが、Citrixライセンスとは互換性がありません。そのため、Citrixはこうした編集オプションをサポートしていません。

Citrix Licensing CEIPおよびCall Homeの使用状況および分析プログラムは、製品に関するエクスペリエンスを向上させるために設計され、お客様の許可によってデータを収集するプログラムです。ライセンスサーバーをインストールした後、プログラムに匿名で参加したり、記名方式で参加したりできます。インターネットにアクセスする必要があります。プロキシサーバーの構成について詳しくは、「[ライセンスサーバーの開始、インストール、構成](#)」の「Citrix Licensing Manager、Customer Experience Improvement Program (CEIP)、およびCall Homeで使用するプロキシサーバーの構成」を参照してください。

ライセンスサーバーのインストール中に、CEIPはデフォルトで有効になります。プログラムの参加は、Citrix Licensing Managerを使用していつでも変更できます。

## Important

Citrix Service Providerプログラムでは、CEIPとCall Homeが必須です。Citrix Service Providerライセンスをインストールしている場合、設定の変更はできますが、CEIPとCall Homeを無効にすることはできません。ライセンスサーバーは、Citrix Service Providerライセンスを検出すると、日次のアップロードを適用します。

コマンドラインでのライセンスのインストール時に、オプションのパラメーターにより、CEILOPTINでCEIPまたはCall Homeに参加するかしないか、する場合はその方法を指定できます。デフォルトはCEIPです。

診断 - Call Home

匿名 - CEIP

なし

コマンドラインによるインストールについて詳しくは、[Windows用ライセンスコンポーネントのインストール](#)の「コマンドラインの使用法」セクションを参照してください。

CITRIX.optファイルを編集して、インストール時の選択を変更できます。

**#CITRIX CEIP 値**

ここでvalueは、DIAG、ANON、またはNONEです。

VPXでは、CITRIX.optファイルを変更しないでください。rootとして、次のコマンドを実行し、CEIPを選択します[1.DIAG 2.ANON 3.NONE]。

**# reset\_ceip.sh**

## CitrixライセンスサーバーCustomer Experience Improvement Program (CEIP)

CEIPへのご参加は任意です。このプログラムにご参加いただくと、シトリックス製品で動作するCEIPサービスにより展開環境の構成および利用状況データが匿名で収集されます。収集したデータは、サービスの開始時刻に応じて、週に1回Citrixに自動的に送信されます。CEIPは次のクラスのデータを収集します：

- 構成データ
- パフォーマンスおよび信頼性のデータ

プライバシーの保護方式：

- Citrixはいずれの個人に関わるデータについては収集しません。
- インストール時にIDがランダムに作成され、時間をかけてデータ転送を追跡します。
- CitrixはIPアドレス、サーバー名、またはドメイン名などの情報を記録しません。
- すべてのデータはHTTPSを使って直接Citrixサーバーに送信されます。サードパーティのデータホストサービスには送信されません。
- すべてのデータはCitrixサーバー上で安全に保護され、承認を受けた人物のみがアクセスできます。

## Citrix Call Home

Call Homeへの参加は任意です。このプログラムに参加すると、Citrix Call Homeによりシステムや製品の構成、パフォーマンス、エラーなどの情報を定期的に収集されます。データにより、顧客として識別されます。この情報は、サービスの開始時刻に応じて、週に1回Citrix Insight Servicesに送信されます。Citrixのサポートチームと製品チームが、収集された情報を利用して積極的に問題解決を図ります。

シトリックス製品がライセンスサーバーにライセンスを要求すると、Citrixベンダーデーモンがその要求をチェックして、ライセンスが使用可能かどうかを確認します。

ライセンスの要求プロセスには、製品の起動時とユーザーの接続時の2つの局面があります。

### 製品の起動時

- シトリックス製品が起動すると、ライセンスサーバーの場所の情報をデータストアから取得します。
- シトリックス製品がCitrixベンダーデーモンに接続します。
- シトリックス製品がスタートアップライセンスをチェックアウトします。

### ユーザーの接続時

- シトリックス製品が動作するコンピューターにユーザーが接続します。
- シトリックス製品がライセンスサーバーにライセンスを要求します。
- Citrixベンダーデーモンが、ライセンスが使用可能かどうかを確認し、要求を許可または拒否します。
- Citrixベンダーデーモンからの応答に基づいて、シトリックス製品側のライセンスモジュールが製品の使用を許可または拒否します。

# ライセンスの種類

Nov 27, 2017

Citrix製品では、以下のいずれかの種類のライセンスが使用されます（一部の製品では複数の種類のライセンスを選択できます）。組織が購入したライセンスの種類と使用状況を把握して、ライセンスが不足しないように気を付けてください。また、ライセンスファイルの機能としてライセンスの超過使用保護も提供しています。この記事の最後にあるライセンスの超過使用保護の説明を参照してください。

ライセンスの種類は以下のとおりです。

XenDesktop 5 Service Pack 1以降およびXenApp 6.5以降では、ユーザーまたはデバイスにライセンスを割り当て、ライセンスの使用状況を監視できます。ライセンスをユーザーに割り当てると、そのユーザーは複数のデバイスからアクセスできるようになります。ライセンスをデバイスに割り当てると、そのデバイスから複数のユーザーがアクセスできるようになります。

ライセンスが割り当てられたデバイスは一意のデバイスIDを必要とし、XenDesktopインスタンスへの任意のユーザーによるアクセスが許可されます。学校や病院などの共有デバイスでは、この種類のライセンスを使用します。

ライセンスが割り当てられたユーザーは、Active Directoryエントリなど一意のユーザーIDを必要とします。ライセンスが割り当てられたユーザーは、複数のデバイスを使ってデスクトップやアプリケーションに接続できます。たとえば、デスクトップコンピューター、ノートブックコンピューター、ネットブック、スマートフォン、またはシンクライアントなどのデバイスです。この場合、1人のユーザーがXenDesktopの複数のインスタンスに同時に接続することができます。

ユーザーまたはデバイスがアプリケーションまたはデスクトップに接続すると、ライセンスが1つ消費され、90日間割り当てられます。割り当て期間は、接続したときから開始します。この期間は、接続されている間90日満期で更新されます。有効期限切れ（再割り当ての許可）は、最後の接続が終了（ログオフまたは切断）してから、90日後です。90日の期限前に手動でライセンスの割り当てを終了する場合は、udadminコマンドラインツールを使用します。これは、ライセンスを使用している従業員が退職した場合などです。

## 最適化

ライセンスサーバーの最適化処理により、使用中のライセンスおよびライセンスサーバーへの接続に基づいてライセンス消費を最小化する方法が決定されます。この最適化は5秒間隔で実行され、個別の接続数が5000になるまで継続されます。個別の接続数が5000になると、最適化は5分ごとになります。このため、管理コンソールに表示されるライセンス使用量が更新されるまでに時間がかかる場合があります。

個別の接続数の例 - 最適化は、以下のよう算出されます。

個別の接続数が1~4999の場合は5秒ごとに、5000以上の場合は5分ごとに最適化が行われます。

700ユーザー×1デバイス = 700 (5秒間隔で最適化)

5000ユーザー×1デバイス = 5000 (5分間隔で最適化)

5000デバイス×各1ユーザー = 5000 (5分間隔で最適化)

2500ユーザー×2デバイス = 5000 (5分間隔で最適化)

## 注意

大規模な展開環境では、個別の接続数によっては、最適化によりCPUに負荷がかかることがあります。マルチコアのマシンの使用をお勧めします。

この種類のライセンスは、特定のユーザーに関連付けられません。ユーザーが製品を起動すると、製品がライセンスを要求します。ライセンスは、ユーザーが使用している特定のコンピューターまたはデバイスにチェックアウトされます。ユーザーがセッションからログオフまたは切断するとライセンスがチェックインされ、ほかのユーザーが使用できるようになります。この種類のライセンスを使用する場合は、以下の事項を理解しておいてください。

- 異なるコンピューターから複数のセッションを起動すると、複数のライセンスが使用されます。ユーザーがCitrixセッションを異なるコンピューターまたはデバイスから起動するたびに、ライセンスがチェックアウトされたままになります。そのユーザーが各コンピューターやデバイスでセッションを閉じると、ライセンスがチェックインされます。たとえば、ユーザーがあるコンピューターからセッションを起動し、別のコンピューターからもう1つのセッションを起動する場合は、最初のセッションを閉じるまでは、2つのライセンスがチェックアウトされます。
- ライセンスサーバー間で通信することはありません。複数のライセンスサーバーを実行している場合、複数のライセンスを使用していることがあります（負荷分散などの場合）。負荷分散を使用している場合は、同じ製品が動作するサーバーは同じライセンスサーバーを参照するように設定することをお勧めします。
- 異なるエディションでは異なるライセンスが消費されます。ユーザーがAdvanced Editionで公開されているアプリケーションに接続して、同じクライアントコンピューターからEnterprise Editionで公開されているアプリケーションに接続した場合は、2つのライセンスが消費されます。
- 1つのライセンスのみが消費されます。同一エディションおよび同一ライセンスサーバーが構成された複数の製品サーバーに単一デバイスから別個に接続します。
- ユーザーは、単一のデバイスから同じエディションの違うバージョンの2つの製品サーバーに接続します。接続の順番によって、1つまたは2つのライセンスが消費されます。たとえば、XenApp 6.0サーバーとXenApp 6.5サーバーの2つが動作する環境を例に説明します（ほかのCitrix製品およびバージョンにも適用されます）。
  - XenApp 6.0サーバーに先に接続した場合 - 古いライセンスと新しいライセンスの2つが消費される可能性があります。
  - XenApp 6.5サーバーに先に接続した場合 - 消費されるライセンスは1つのみです。
- RDP接続によりライセンスが消費されます。ただし、コンソールセッションに接続する場合は消費されません。

ライセンスが割り当てられたユーザーは、Active Directoryエントリなど一意のユーザーIDを必要とします。ライセンスが割り当てられたユーザーは、複数のデバイスを使ってデスクトップやアプリケーションに接続できます。たとえば、デスクトップコンピューター、ノートブックコンピューター、ネットブック、スマートフォン、またはシンクライアントなどのデバイスです。この場合、1人のユーザーがXenDesktopの複数のインスタンスに同時に接続することができます。この場合、1人のユーザーがCitrix製品の複数のインスタンスに同時に接続することができます。ユーザーがアプリケーションまたはデスクトップに接続すると、ライセンスが1つ消費され、90日間割り当てられます。割り当て期間は、接続したときから開始します。この期間は、接続されている間90日満期で更新されます。有効期限切れ（再割り当ての許可）は、最後の接続が終了（ログオフまたは切断）してから、90日後です。90日の期限前に手動でライセンスの割り当てを終了する場合は、udadminコマンドラインツールを使用します。これは、ライセンスを使用している従業員が退職した場合などです。

ライセンスが割り当てられたデバイスは一意のデバイスIDを必要とし、Citrix製品インスタンスへの任意のユーザーによるアクセスが許可されます。学校や病院などの共有デバイスでは、この種類のライセンスを使用します。そのデバイスからのアクセスが許可されるユーザー数に制限はありません。デバイスがアプリケーションまたはデスクトップに接続すると、ライセンスが1つ消費され、90日間割り当てられます。割り当て期間は、接続したときから開始します。この期間は、接続されている間

90日満期で更新されます。有効期限切れ（再割り当ての許可）は、最後の接続が終了（ログオフまたは切断）してから、90日後です。90日の期限前に手動でライセンスの割り当てを終了する場合は、udadminコマンドラインツールを使用します。これは、ライセンスを使用している従業員が退職した場合などです。

CPUが装着されているソケットに割り当てられるライセンスで、CPUのコア数は考慮されません。たとえば、コンピューターにCPUソケットが2つあっても、CPUが1つしかない場合、使用されるライセンスは1つのみです。また、このコンピューターにクアッドコアCPUが2つある場合でも、消費されるライセンスは2つのみです。

製品がライセンスを要求すると、事前設定された期間中、ライセンスがユーザーにチェックアウトされます。この種類のチェックアウトはコンピューターまたはデバイスに関連付けられません。ライセンスがチェックアウトされると、追加のライセンスをチェックアウトしなくても、ユーザーは複数のセッションを複数の異なるコンピューターで実行できます。

### ライセンスの超過使用保護

ライセンスの超過使用保護は、ユーザーごと、デバイスライセンスごとのすべてのユーザーおよびデバイスに含まれています。ユーザーまたはデバイスライセンスを購入すると、10%の超過使用保護を取得します。この超過使用保護は、購入済みライセンスと評価ライセンスをすべて割り当て終えたら利用できるようになります。超過使用保護の使用状況は、Citrix Studioおよびライセンス管理コンソールにレポートされます。超過使用保護ライセンスを日常的に使用する場合は、コンプライアンスを維持するために、ライセンスの購入数を増やすことを推奨します。

例：

ユーザーおよびデバイスライセンスを1000個購入し、10%の超過使用保護を取得します。実際には、1100個のユーザーおよびデバイスライセンスを使用できます。

1100個を超えた場合、15日間の追加猶予期間が開始します。追加猶予期間については、[「追加猶予期間」](#)を参照してください。



# ライセンスファイル

Feb 26, 2018

ライセンスサーバーをインストールすると、スタートアップライセンスファイルとオプションファイルが自動的にインストールされます。特定のシトリックス製品のライセンスは、ライセンスファイルとして後から追加します。製品ライセンスの追加について詳しくは、「[ライセンスファイルの入手](#)」を参照してください。

ライセンスファイルは、ライセンスサーバー上の特定の場所に追加する必要があります。この場所を変更することはできません。

## スタートアップライセンスファイル

スタートアップライセンスファイル (citrix\_startup.lic) はテキストファイルで、シトリックス製品がライセンスサーバーと、継続的な接続を使用して通信できるようにするために使用されます。ライセンスサーバーと製品は、相互に通信できていることを確認するために、5分ごとにお互いにハートビートメッセージを送信します。ハートビートメッセージを交換している製品とライセンスサーバーの間で交換が中断された場合は、製品は猶予期間に入ります。中断の一例として、停電が挙げられます。スタートアップライセンスは、ライセンス数に影響を与えません。

## Citrix License Server Diagnostics License | Server

ライセンスサーバーでは、内部診断やStudioおよびDirectorへのアラートメッセージの表示にCitrix License Server Diagnostics License | Serverが使用されます。この機能は、スタートアップライセンスファイルcitrix\_startup.licによりデフォルトで有効になります。

**注意：**スタートアップライセンスを含め、ライセンスファイルを直接編集しないでください。

## ライセンスファイル

ライセンスファイルはテキストファイルで、次の情報が記述されています。

- 製品のライセンス情報
- ライセンスサーバー名 (またはその他の識別情報)
- カスタマーサクセスサービス契約の更新日 (カスタマーサクセスサービスの有効期限とも呼ばれます)
- ライセンスの有効期限 (ある場合)
- その他のシステム情報

これらの情報はすべて、デジタル署名により暗号化されています。シトリックス製品を購入した後で、citrix.comにアクセスしてライセンスファイルをダウンロードします。1台のライセンスサーバーに複数のライセンスファイルを配置できます。ライセンスファイルの配置先は、次のとおりです。

- 32ビットサーバー : C:\Program Files\Citrix\Licensing\MyFiles フォルダー
- 64ビットサーバー : C:\Program Files(x86)\Citrix\Licensing\MyFiles フォルダー
- ライセンスサーバーVPX : /opt/citrix/licensing/myfiles フォルダー

この場所がライセンスサーバーによって参照されます。ライセンスサーバーはこのファイルを使用して、シトリックス製品の使用を許可するかどうかを決定します。

ライセンスの超過使用保護は、ユーザーごと、デバイスライセンスごとのすべてのユーザーおよびデバイスに含まれています。ライセンスの超過使用保護について詳しくは、「[ライセンスの超過使用保護](#)」を参照してください。

## ほかのライセンスサーバーへのライセンスファイルの移動

古いライセンスサーバー用にダウンロードしたライセンスファイルを、別のホスト名またはMACアドレスのサーバーに移動することはできません。新しいサーバー名を参照するライセンスファイルを作成して再割り当てします。

詳しくは、「[ライセンスファイルの再割り当て](#)」を参照してください。

## Important

ライセンスファイルを編集すると、ライセンスが機能しなくなることがあります。Citrixライセンスサーバー11.6.1 for Windowsまたはそれ以降のバージョンでは、ライセンスファイルを編集する必要はありません。ライセンスの管理は、Citrix Licensing Manager、ライセンス管理コンソール、My Accountサイトで行います。

注：ライセンスファイルの名前を変更することもできますが、.lic（小文字）拡張子を変更することはできません。Citrixライセンスファイルでは、「license\_FID\_XDT-PLT-UD\_25-mar-2013.lic」のような命名規則を採用しています。

ライセンスファイルの各行には、サーバー名（SERVER行）やライセンス数（INCREMENT行）など、特定の情報が記述されています。また、各行の最初には、VENDOR、SERVER、INCREMENT、USE\_SERVERなど、その行の情報の意味を示す語が大文字で記述されています。

ここでは、ライセンスファイルのSERVER行、VENDOR行、USE\_SERVER行、およびINCREMENT行の構文について詳しく説明します。オプションファイルおよびライセンスファイルの構文ではfeature（機能）という表現が使用されますが、明確にするため、できるだけこのドキュメントでは製品ライセンスという表現を使用します。

サンプルのライセンスファイルには後続の説明に対応する番号が振られています。

```
# This file is in UTF-8 format.
#
SERVER this_host HOSTNAME=license_server1 ①
VENDOR CITRIX ②
USE_SERVER
INCREMENT MPS_ENT_CCU CITRIX 2006.0428 01-may-2006 1000 \
  VENDOR_STRING=;LT=Retail;GP=720;CL=ENT_ADV_STD;SA=0;ODP=0 \
  DUP_GROUP=V ISSUED=12-Mar-2004 NOTICE="eMail Test - Citrix" \
  SN=LA-0000150712-86261:872 START=11-mar-2004 SIGN="0885 F320 \
  0AE2 EE72 68A4 92FC 86C2 3648 A2CF 346D A88F BD44 TS111\
  D79D 1830 7535 553C B774 DE8C 1F5D A5D3 D5F6 D078 217B BH050 \
  A14C 2893 7756 ACF5"
#
#[English] ④
#CITRIXTERM FEATURE 2.0 MPS_STD_CCU EN Citrix Presentation Server Standard|Concurrent User
#CITRIXTERM FEATURE 2.0 MPS_ADV_CCU EN Citrix Presentation Server Advanced|Concurrent User
#CITRIXTERM FEATURE 2.0 MPS_ENT_CCU EN Citrix Presentation Server Enterprise|Concurrent User
#
```

SERVER行。SERVER行には、ライセンスサーバーを識別するためのホスト名が定義されています。

注意：SERVER行の識別情報は変更しないでください。変更した場合、ライセンスファイルは動作しません。

### 構文

SERVER this\_host ether

または

SERVER this\_host HOSTNAME=hostname

パラメーター	説明
ether	ライセンスサーバーを実行しているアプライアンスのMACアドレス。通常はlmhostidコマンドによって返される文字列です。この文字列は変更しないでください。
hostname	ライセンスサーバーを実行しているコンピューターの名前。この文字列は変更しないでください。

#### 例

SERVER this\_host HOSTNAME=license\_server1

VENDOR行には、Citrixベンダーデーモンの名前が定義されています。

#### 構文

VENDOR CITRIX [vendor\_daemon\_path]

フィールド	説明
VENDOR CITRIX	Citrixベンダーデーモンの名前。この名前は変更しないでください。
vendor_daemon_path	Citrixベンダーデーモンの実行ファイルのパス。このパスは変更しないでください。

### 3 INCREMENT行

INCREMENT行には、製品を使用するためのライセンスが定義されています。ライセンスファイル (\*.lic) には、1つ以上のINCREMENT行が含まれます。各INCREMENT行には、ライセンスの対象となる製品、ライセンスモデル（同時接続ユーザーライセンスまたは指定ユーザーライセンス）、ライセンス数などの情報が記述されています。

各INCREMENT行には、次の情報が記述されています。

- その行のデータに基づいた署名
- 1つ以上のSERVER行で指定されているホストID
- Citrixが指定したデータ

行末のバックスラッシュ (\) は、そのINCREMENT行が途中で改行されていることを示します。

#### 構文

INCREMENT feature vendor css\_expiry\_date exp\_date num\_lic \  
SIGN=sign [optional\_attributes]

注意：INCREMENT行の次の6つのパラメーターは、変更しないでください。これらは必須のパラメーターで、決まった順番で記述される必要があります。

次の表では、これらのパラメーターについてINCREMENT行に指定される順に説明します。

フィールド	説明
-------	----

機能	対象となる製品ライセンス。この行は変更しないでください。
vendor	ベンダーデーモンの名前。シトリックス製品のライセンスファイルでは、常にCitrixベンダーデーモンを示すCITRIXです。この行は変更しないでください。
CSS_expiry_date	<p>カスタマーサクセスサービスプログラムの有効期限。この日までは、カスタマーサクセスサービスにより製品をアップグレードできます。カスタマーサクセスサービスを契約していない場合、またはカスタマーサクセスサービスの対象でない製品のライセンスでは、ライセンスの購入日を示します。この行は変更しないでください。</p> <p>注：カスタマーサクセスサービスを更新し、アップグレードライセンスを受け取った場合は、2つの日付が記載されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1番目の日付はカスタマーサクセスサービスを最初に購入した日付です</li> <li>• 2番目の日付はCC_expiry_dateです</li> </ul> <p>例： INCREMENT MPS_ENT_CCU CITRIX 2005.0311 2007.0311 permanent 1000 \ 「UPGRADE行」に追加情報が記載されています。</p>
exp_date	<p>ライセンスの有効期限。「dd-mmm-yyyy」形式（07-may-2006など）で記述されます。この行は変更しないでください。</p> <p>注：exp_dateパラメーターが「permanent」の場合、ライセンスに有効期限が設定されていないことを示します。</p>
num_lic	この製品の同時使用ユーザーライセンス数。この行は変更しないでください。
SIGN=sign	INCREMENT行を認証する署名。この行は変更しないでください。
SUPERSEDE_SIGN=sign	<p>ライセンスの機能と署名に基づいて、戦略的に特定のライセンスをオフにするか、INCREMENT行を無効にします。</p> <p>例： SUPERSEDE_SIGN={"CBR_100_SSERVER:0F76 2946 4790 6B67 08E0 65BC 302B E1B6 6ECE 41D6 8AB6 E9C6 FE44 4EB3 9A83 01E4 D405 3E95 74B8 9BC8 7791 BDD3 1385 33F8 9533 95FF A3E4 F461 35B4 251E"}</p>

また、INCREMENT行の情報により、ライセンス管理コンソールでライセンスを表示するときのグループが決定されます。このグループを、ライセンスプールと呼びます。Citrixベンダーデーモンは、INCREMENT行の製品名やバージョン番号などの情報を基に、ライセンスプールを作成します。新しいライセンスプールが作成されると、ライセンス管理コンソール上でほかのライセンスプールとは別個に表示され、管理されます。次のCitrix属性の2つ以上が異なる場合、Citrixベンダーデーモンがラ

センスプールを作成します。

## INCREMENT行のCitrix属性

INCREMENT行には、Citrix独自の属性をさらに追加することもできます。これらの属性により、ライセンスの発行日、使用者の組織名、アップグレードライセンスかどうかなどの情報が定義されます。

注意：これらの属性を変更したり削除したりしないでください。

## 例

```
INCREMENT MPS_ENT_CCU CITRIX 2008.0606 permanent 10 \  
VENDOR_STRING=;LT=Retail;GP=720;CL=ENT,ADV,STD,AST;SA=1;ODP=0 \ DUP_GROUP=V  
ISSUED=06-Jun-2007 NOTICE="Citrix" \ SN=12345:67890 START=6-jun-2007 SIGN="18F8 1546  
F605 E3BD 010E 7E4F A4B3 9DE3 B90E 7937 3337 0180 1FFB C6EB D491"
```

この例で記述されている内容は以下のとおりです。

- 青い文字は、対象となる製品ライセンスを示します（MPSはPresentation Server、ENTはEnterprise Edition、CCUは同時接続ユーザーライセンスを示しています）。
- カスタマーサクセスサービスの有効期限は赤色で表示されます（形式：YYYY.MMDD）
- 緑の文字は、このライセンスファイルに割り当てられているライセンス数を示します。

## 構文

keyword=value

次の表に、Citrix属性の内容について示します。大文字の語が属性名を示します。これらの属性を編集することはできません。

属性	説明
DUP_GROUP=V	同一クライアントデバイス上でのライセンス共有を有効にする属性。
ISSUED=dd-mmm-yyyy	ライセンスの発行日。
ISSUER="..."	ライセンスの発行者。
NOTICE="..."	会社名です。
SN=serial_num	INCREMENT行を識別する番号。
START=dd-mmm-yyyy	ライセンスの使用開始可能日。この日付より前からライセンスを使用することはできません。
SUPERSEDE="MPS_ADV_CCU MPS_STD_CCU..."	アップグレードライセンス。製品のエディションをアップグレードすると、この属性が追加されます。この属性が定義されている場合、ISSUED属性で指定された日以前に発行されたすべてのライセンスが無効になります。
VENDOR_STRING=...	Citrixにより定義されたテキスト文字列。

## ベースライセンスの例

INCREMENT CBR\_100\_SSERVER CITRIX 2016.1201 permanent 10 \

VENDOR\_STRING=;LT=Retail;GP=720;MAXBW=1;MLC=0;HA=0;CL=BRSE;SA=1;ODP=0 \

DUP\_GROUP=V ISSUED=18-dec-2005 NOTICE="Citrix" \

SN=100se200seB SIGN="1B19 C213 7517 CC62 756F 864C 9C93 06FC \

E1DE B5D5 D793"

**SUPERSEDE\_SIGNを含むカスタマーサクセスサービス更新ライセンスの例 :**

INCREMENT CBR\_100\_SSERVER CITRIX 2017.1201 permanent 10 \

VENDOR\_STRING=;LT=Retail;GP=720;MAXBW=2;MLC=0;HA=0;CL=BRSE;SA=1;ODP=0 \

DUP\_GROUP=V ISSUED=18-dec-2007 NOTICE="Citrix" \

SN=100se200seU SUPERSEDE\_SIGN={"CBR\_100\_SSERVER:1B19 C213 7517 \

CC62 756F 864C 9C93 06FC E1DE B5D5 D793"} SIGN="1D5D 869A 40BE \

D4DB 361D 7897 AFA5 FF8B E52A 20BA 5525 01AA F241 6919"

# サービス

Nov 27, 2017

[Web Services for Licensing](#)

[Citrixライセンス管理サービス](#)

[Citrix Licensing Windows Management Instrumentation \(WMI\)](#)

ライセンスサーバーVPXはWeb Services for Licensingをサポートしません。

Studio、Director、ライセンス管理PowerShellスナップインは、次の操作のためにWeb Services for Licensingを使用します。

- ライセンスサーバーと通信し、ユーザーを管理する
- ライセンスを割り当ててインストールする
- ライセンスサーバーの正常性、ライセンスの使用状況、他のアラートメッセージを表示する

Citrix Licensing Managerもこれを使用します。

ライセンス管理サービスによって、より適切に容量を計画しライセンスを管理できます。このサービスで、以下の禁止された状況を回避することもできます。

- 障害回復 (DR : Disaster Recovery) 環境外でのライセンスの重複
- 新しい製品バージョンで以前のライセンスを使用
- 破棄されたライセンスの使用

このサービスは、Citrix Insight Servicesの管理者に、障害回復 (DR : Disaster Recovery) 環境の重複ライセンスについてもアラートを送ります。Citrix Insight Servicesについて詳しくは、「[Citrix Insight Services](#)」を参照してください。

ライセンス管理サービスは、ライセンスサーバーに組み込まれた製品テレメトリを使用して、データをCitrix Insight Servicesに送信します。ライセンス管理サービスは、Windowsサービスではありません。最初のアップロードは、ライセンスサーバーを最初に起動した1週間後に実行され、以降、アップロードは毎週実行されます。ライセンスサーバーを再インストールすると、スケジュールがリセットされます。アップロードに失敗した場合、アップロードが成功するまで、またはライセンス管理サービスが無効になるまで、24時間以内に再実行されます。Citrixは、ユーザーにライセンス環境情報を提供し、サポートするために、アップロードを使用することがあります。「[コマンドラインを使用したライセンス管理サービスの無効または有効化](#)」を参照してください。

## Important

ライセンスサーバーのインストールには、ユーザーがライセンス管理サービスを承認し、ライセンス管理サービスの使用に同意する必要があります。インストール後、いつでもライセンス管理サービスを無効にできます。

ライセンス管理サービスは、以下の情報を収集します。

- ライセンスのシリアル番号
- ライセンスのサーバーGUID
- 使用ライセンス数
- 機能名

WMIサービス経由で、Citrix Licensing WMIクラスにアクセスできます。名前空間 (ROOT\CitrixLicensing) のクラス (特にCitrix\_GT\_License\_Pool) が、ライセンス使用状況および使用可能な数の情報を提供します。ライセンスサーバーに頻繁に (15分ごとを超えて) クエリを実行すると、パフォーマンスにマイナスの影響を及ぼすことがあります。



# カスタマーサクセスサービス

Feb 26, 2018

シトリックス製品は、1年間有効なカスタマーサクセスサービス (Citrix Subscription Advantage) と合わせて購入します。このプログラムのメンバーになると、数あるベネフィットのなかでもとりわけ重要なベネフィットとして、メジャーリリース、マイナーリリースを含めた、契約期間中にリリースされる製品のすべてのアップデートプログラムを受け取れます。たとえば、XenDesktop, Enterprise Editionを2015年の7月22日に購入したユーザーは、2016年7月22日まで、XenDesktop, Enterprise Editionを対象にリリースされるすべてのアップデートプログラムを受け取れます。1年間の契約期間が終了した後は、カスタマーサクセスサービスを更新できます。更新費用の支払い後、Citrix Licensing Managerを使用して更新ライセンスをインストールするか、citrix.comで更新ライセンスを含むライセンスファイルをダウンロードします。

## Important

カスタマーサクセスサービスの契約とそれに付随するライセンスは、製品を実行するためのライセンスとは異なります。カスタマーサクセスサービスの契約を更新しなくても、購入済みのシトリックス製品が機能しなくなることはありません。ただし、契約期間後にリリースされるソフトウェアは受け取れません。

カスタマーサクセスサービス更新ライセンスファイルには、カスタマーサクセスサービスメンバーシップを1年間延長するライセンス (更新ライセンス) が含まれています。このライセンスは、カスタマーサクセスサービスの契約期間中にリリースされる、Hotfixを除くすべての製品リリースを実行するために必要です。

カスタマーサクセスサービスの更新ライセンスをすぐ追加しなくても、製品が機能を停止することはありません。ただし、新しい契約期間に入ってからリリースされたバージョンについては、更新ライセンスをライセンスサーバーに追加しなければ実行できません。

契約期間中は、新しいバージョンがリリースされるたびにライセンスファイルをダウンロードする必要はありません。カスタマーサクセスサービス契約の終了後にリリースされたバージョンを使用するには、契約を更新して更新ライセンスを取得する必要があります。カスタマーサクセスサービスメンバーシップを更新すると、Citrix Licensing Managerの更新ライセンス機能を使用できます。詳しくは、「[ライセンスの更新](#)」を参照してください。

## ヒント

ライセンスサーバーにライセンスファイルを追加した後で、失効したカスタマーサクセスサービスライセンスを削除してもかまいません。ただし、アップグレードの記録として、失効したライセンスをそのまま保持しておくこともできます。

以下の情報を使用して、カスタマーサクセスサービスの日付を知ることができます。

- Citrix Licensing Manager (「[Citrix Licensing Manager](#)」を参照)
- ダッシュボード上のライセンス管理コンソール (「[ライセンス管理コンソール](#)」を参照)
- テキストエディターでライセンスファイルを表示する

有効にすると、Citrix Licensing Managerは毎週Citrix.com Webサービスにアクセスし、利用可能なカスタマーサクセスサービス

ス更新ライセンスがあるかを確認します。

構成方法に従って、Citrix Licensing Managerはカスタマーサクセスサービス更新ライセンスを自動または手動で確認し、ライセンスが見つかったら通知またはインストールします。

1. Citrix Licensing Managerで、UIの右上にある設定アイコンをクリックします。
2. 通知方法、および更新ライセンスを自動的にインストールするかを選択します。

カスタマーサクセスサービス更新ライセンスの自動チェックが失敗する場合、ファイアウォールの設定を確認するか、プロキシを構成してください。この機能を動作させるには、ライセンスサーバーが<https://citrixservices.citrix.com>にアクセスできる必要があります。

詳しくは、「[プロキシサーバーの構成](#)」を参照してください。

## ヒント

このページでは、ポート、追加猶予期間、言語を構成することもできます。

- **カスタマーサクセスサービス更新ライセンスを自動的にチェックし、使用可能な場合通知します。**Citrix Licensing Managerは通知を表示します。オンにして、利用可能な更新をダウンロードし、インストールします。ライセンスサーバーでStudioおよびDirectorの管理が構成されている場合は、同じ通知がStudioおよびDirectorがでも表示されます。
- **カスタマーサクセスサービス更新ライセンスを自動的にチェックし、使用可能な場合インストールします。**Citrix Licensing Managerが毎週更新ライセンスをチェックし、使用可能な場合、自動的にインストールします。更新がインストールされたという通知は、数日間表示されます。
- **カスタマーサクセスサービス更新ライセンスを手動でチェックします。**[ライセンスの更新] タブで、[使用可能な更新のチェック] を選択します。[ライセンスの更新] タブでは、最近30日間にインストールされたライセンスの一覧をいつでも表示できます。

# ライセンスサーバーの開始、インストール、構成

Feb 26, 2018

このアーティクルは、次の情報で構成されています。

[ライセンス管理の手順](#)

[最新のライセンスサーバーの使用](#)

[セキュリティに関する注意事項](#)

[ファイアウォールについての考慮事項](#)

[Windows用ライセンスコンポーネントのインストール](#)

[コマンドラインを使用したライセンス管理サービスの無効化または有効化](#)

[ライセンスサーバーVPXをインポートして構成する](#)

[Citrix Licensing ManagerおよびWeb Services for Licensingにより使用される証明書の手動インストール](#)

[Citrix Licensing Manager、Customer Experience Improvement Program \(CEIP\)、およびCall Homeで使用するプロキシサーバーの構成](#)

## Important

ライセンスサーバーは最新バージョンのものを実行することを推奨します。Citrixライセンスサーバーの各コンポーネントに対するHotfixは提供されません。また、新しい製品と古いバージョンのライセンスサーバーを一緒にすることはサポートされていません。通常、最新のライセンスサーバーには、以前のバージョンで確認された問題に対する修正が含まれています。新しいバージョンのシトリックス製品へのアップグレードまたは新規インストールを行う場合は、ライセンスサーバーもアップグレードしてください。新しいライセンスサーバーでは後方互換性が維持されているため、以前のバージョンのシトリックス製品やライセンスファイルをサポートします。新しい製品の中には、最新のライセンスサーバーを使用しないと正しく動作しないものがあります。最新バージョンは[Citrixのダウンロードサイト](#)からダウンロードできます。

このリリースで追加された機能については、「[新機能](#)」を参照してください。

製品にライセンスを適用するには、次の手順に従います。

1. 最新のライセンスサーバーを入手する。
2. 必要なシステム環境を確認する。
3. ライセンスサーバーをインストールする。
4. マイアカウントからライセンスファイルを取得するか、ライセンスコードがある場合はCitrix Licensing Managerを使用します。
5. シトリックス製品をインストールする。製品がインストール済みの場合は、その製品を再起動すると新しいライセンスが適用されます。
6. 製品のインストール中に構成しなかった場合は、製品側でライセンスサーバーの接続設定を行います。この構成には、製品エディションの選択も含まれます。詳しくは、製品ドキュメントを参照してください。  
製品側で行うエディションの設定は、購入したライセンスと同じものである必要があります。たとえば、Platinum Editionのライセンスを購入した場合は、製品側でも（Enterprise EditionやAdvanced Editionではなく）Platinum Editionを指定する

必要があります。

## Important

ライセンスサーバーはドメインメンバーシップを必要としません。ライセンスサーバーをワークグループにインストールして、シトリックス製品のすべてのライセンス機能を引き続き実行できます。Active Directoryのユーザーまたはグループでライセンス管理コンソールまたはCitrix Licensing Managerユーザーを管理するには、ユーザーがドメインの一部である必要があります。これ以外の場合は、ローカルのWindowsユーザーを使用します。

ライセンスサーバーのコンポーネントおよびプロセスについての概要は、[製品の技術概要](#)と「[ライセンスコンポーネント](#)」を参照してください。

1. 新しいシトリックス製品をインストールしたり、既存の製品をアップグレードしたりした場合は、ライセンスサーバーが最新のものであることを常に確認してください。新しいライセンスサーバーには後方互換性があるため、以前のバージョンの製品やライセンスファイルをサポートします。新しい製品の中には、最新のライセンスサーバーを使用しないと正しく動作しないものがあります。ライセンスサーバーの新しいバージョンは、製品メディアからインストールしたりアップグレードしたりできます。

バージョン番号について詳しくは、「[ライセンスサーバーのバージョン番号の違い](#)」を参照してください。

ライセンスサーバーのバージョンを確認するには

ライセンスサーバーのバージョンが適正かどうか分からない場合は、[ダウンロードサイト](#)にあるバージョン番号を参照にそれを調べることができます。

ライセンスサーバーでCitrix Licensing Managerを使用する場合

1. Citrix Licensing Managerを開始します。
2. ページの上部にあるバーのリリースバージョンを参照します。

ライセンス管理コンソールがインストールされているライセンスサーバーで次のように実行します。

1. **Windows** : ライセンス管理コンソールを開くには、プログラムメニューで[Citrix]、[ライセンス管理コンソール]の順に選択します。

ライセンスサーバーVPXおよびリモートシステム : Webブラウザを開いて、https://License Server Name:secureWebPortに移動します。

2. [管理] をクリックし、[システム情報] タブを選択します。情報の一覧でリリースバージョンを確認します。

ライセンスサーバーでレジストリエディターを使用する場合

1. レジストリエディターを起動します（[スタート] をクリックして、[ファイル名を指定して実行] にregeditと入力）。  
**重要** : このレジストリの情報は、バージョン情報を確認するだけの目的で使用してください。レジストリを変更すると、深刻な問題が発生する可能性があり、Windowsの再インストールが必要になる場合もあります。
2. HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Citrix\LicenseServer\Installに移動します。

ライセンスサーバーのバージョンは、Versionキーに「11.14.0.1 build 16100」などの形式で表示されます。64ビット版Windows 2008 Serverを実行するサーバーでは、レジストリキーは

HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\Citrix\LicenseServer\Install

です。

新しいシトリックス製品をインストールしたりアップグレードしたりするときは、ライセンスサーバーを最新のバージョンにアップグレードすることをお勧めします。ライセンスサーバーには後方互換性が維持されているため、以前のバージョンのシトリックス製品やライセンスファイルをサポートします。新しくリリースされるライセンスサーバーには、より強固なセキュリティ機能が取り入れられていることがあります。

環境を構成したりライセンス管理コンソールを使用したりする場合、以下の推奨事項について検討してください。

- 信頼されるネットワーク上の認証された管理者だけがライセンス管理コンソールのポートにアクセスできるようにライセンスサーバー環境を構成します。これを行うには、ネットワークを適切に構成して、ホストベースのファイアウォールを使用します。
- ライセンス管理コンソールを使用するときは、信頼されないWebサイトを表示したり、信頼されないURLをクリックしたりしないようにします。

ライセンスをインストールする前に、ライセンスサーバーと製品サーバーの間にファイアウォールを設定する必要があるかどうかを決定します。ライセンスサーバーを設置する場所は、ファイアウォールの設定を考慮して決定します。

ライセンスサーバーVPXではデフォルトのポートが有効になっています。ポートを変更するには、Linuxの`iptables`コマンドを使用してください。

ファイアウォールが構成された環境では、管理者が適切な規則を作成する必要があります。

製品とライセンスサーバーの間にファイアウォールが設置されている場合は、ポート番号を設定する必要があります。この構成には、次の作業が伴います。

- 変更すべきポートを特定する。ポート番号は、ライセンスサーバーのインストール時、およびインストール後に変更できません。
- ファイアウォールのポートを開放する。トラフィックが遮断されないように、適切なポートをファイアウォールで開放します。最新リリースでは、組み込みのファイアウォールを自動的に設定します。
- 製品側の設定を変更する。シトリックス製品は、ライセンス管理コンソールで構成されているものと同じポート番号を使用する必要があります。製品側で参照されているポート番号を変更しないと、ライセンスサーバーと通信できなくなります。製品側の設定は、インストール中またはインストール後に変更できます。これらの設定について詳しくは、各製品のキュメントを参照してください。

ライセンスコンポーネントは、専用サーバーにインストールしたり、ほかのアプリケーションが動作する兼用サーバーにインストールしたりできます。また、Webサーバーやアプリケーションサーバーも使用できます。ただし、以下の場所では少ないリソースを消費します。サーバー数が50台未満またはライセンス数が10,000未満である場合は、ほかのシトリックス製品と同じコンピューター上にライセンスサーバーをインストールすることもできます。ライセンスサーバーをほかのコンピューター上に移動すべきかどうかは、`lmadmin.exe`と`CITRIX.exe`のCPUおよびメモリの負荷を監視して決定します。

## Important

Active Directory展開以外で、将来のすべてのインストールに新しいCitrixLicensing.exeファイルを使用します。この場合、.msiを使用します。

.exeファイルおよび.msiファイルの両方がインストールに存在することを確認します。

## グラフィカルユーザーインターフェイスを使ったWindows用ライセンスサーバーと管理コンソールのインストール

1. Citrix社のWebサイト ([citrix.com](http://citrix.com)) からライセンスサーバーをダウンロードして、ライセンスサーバーのインストーラー (CitrixLicensing.exe) を管理者権限で実行します。
2. インストールウィザードでは、デフォルトのインストール先を使用します。  
デフォルトのインストール先は、32ビットシステムの場合は%SystemDrive%\Program Files\Citrix\Licensingフォルダーで、64ビットシステムの場合は%SystemDrive%\Program Files (x86)\Citrix\Licensingフォルダーです。
3. **[構成]** ページで、ライセンスコンポーネントで使用されるデフォルトポート番号を変更します (必要な場合)。  
Windows ファイアウォールの例外をインストーラーで自動構成する(LF) ポート番号は、ライセンスサーバーのインストール後に変更することもできます。ライセンスサーバーを構成せずにインストールを完了した場合は、CitrixLicensing.exeを再度実行してください。または、ライセンスサーバー設定ツールを使用して適切に構成することもできます。この設定ツールを起動するには、C:\Program Files\Citrix\Licensing\LS\resource\Licensing.Configuration.Tool.exeをダブルクリックします。
  - ライセンスサーバー : 27000
  - ベンダーデーモン : 7279
  - 管理コンソールWebポート : 8082
  - Web Services for Licensingポート : 8083
4. インストール時のログオンアカウントに応じて、ライセンス管理コンソールのデフォルトの管理者が自動的に追加されます。ドメインアカウントでインストールする場合は、そのアカウント (\) がライセンス管理コンソールのデフォルトの管理者になります。ローカルのWindowsユーザーアカウントでインストールする場合は、そのアカウント (\) がライセンス管理コンソールのデフォルトの管理者になります。また、任意の管理者用の管理者アカウント BUILTIN\administratorグループがデフォルトで追加されます。ライセンス管理を特定の管理者に制限する場合は、この組み込みの管理者アカウントを削除します。ライセンス管理コンソールへのアクセスが許可された管理者は、Citrix Licensing Managerの管理も許可されます。
5. ライセンス管理コンソールまたはCitrix Licensing Managerを起動してCitrixカスタマーエクスペリエンス向上プログラムに参加するかどうか選択します。

Citrix Licensing Managerを選択しない場合、または製品の管理コンソールでライセンスを選択しない場合でも、ライセンスを取得できます。[citrix.com](http://citrix.com)に移動して、シトリックス製品のライセンスファイルを取得します。この手順について詳しくは、「ライセンスファイルの入手」を参照してください。

## Windowsコマンドラインの使用方法

ライセンスコンポーネントのインストールにCitrixLicensing.exeコマンドを使用する場合は、「=」形式でプロパティを設定します。

コマンドプロンプトは、管理者権限で実行する必要があります。コマンドプロンプトを管理者権限で実行するには、[スタート]メニューの[コマンドプロンプト]を右クリックし、[管理者として実行]を選択します。

注 : Citrix Service Providerプログラムには、カスタマーエクスペリエンス向上プログラム (CEIP) およびCall Homeが必要です。ユーザーがCitrix Service Providerの場合は、CEIPまたはCall Homeを無効にすることはできません。

たとえば、次のコマンドを実行するとライセンスサーバーが無人セットアップでインストールされます (サイレントモー

ド)。設定するプロパティをコマンドラインに追加して実行します。

実際のコマンドは、改行せずに1行で入力する必要があります（ページ幅の都合によりここでは改行が挿入されています）。

```
CitrixLicensing.exe /quiet /I install.log INSTALLDIR=installdirectory WSLPORT=port_number  
LSPORT=port_number VDPORT=port_number MCPORT=port_number CEILOPTIN=value
```

場所:

- /quietでは、無人セットアップを実行します。
- /Iでは、ログファイルの生成場所を指定します。
- INSTALLDIRでは、ライセンスサーバーの実行ファイルのインストール先フォルダーを指定します。オプションのパラメーターです。デフォルトはc:\program files\citrix licensing or c:\program files (x86)\citrix\licensingです。
- WSLPORTでは、Web Services for Licensingで使用されるポート番号を指定します。オプションのパラメーターです。デフォルトのポートは8083です。
- LSPORTでは、ライセンスサーバーで使用されるポート番号を指定します。オプションのパラメーターです。デフォルトのポートは27000です。
- VDPORTでは、ベンダーデーモンで使用されるポート番号を指定します。オプションのパラメーターです。デフォルトのポートは7279です。
- MCPORTでは、管理コンソールで使用されるポート番号を指定します。オプションのパラメーターです。デフォルトのポートは8082です。
- CEILOPTINでは、カスタマーエクスペリエンス向上プログラム（CEIP）またはCall Homeに参加するかどうか、する場合はその方法を指定します。オプションのパラメーターです。デフォルトは [ANON] です。
  - DIAG - Call Home
  - ANON - CEIP
  - なし

CEIPとCall Homeの選択は、Citrix Licensing Managerで変更できます。

インストール時の選択も、CITRIX.optファイルを編集することで変更できます。

#### #CITRIX CEIP 値

ここでvalueは、DIAG、ANON、またはNONEです。

#### コマンドラインによるActive Directory環境へのライセンスサーバーのインストール

ライセンスコンポーネントのインストールにmsiexecコマンドを使用する場合は、「プロパティ=値」形式でプロパティを設定します。MSIファイルでは、クラスター環境へのインストールがサポートされません。

注：コマンドプロンプトは、管理者権限で実行する必要があります。コマンドプロンプトを管理者権限で実行するには、[スタート] メニューの [コマンドプロンプト] を右クリックし、[管理者として実行] を選択します。

次のコマンドを実行すると、ライセンスサーバーが無人モードでインストールされ、そのイベントがログファイルに記録されます。プロパティは、この例のようにスイッチの後に追加します。

実際のコマンドは、改行せずに1行で入力する必要があります（ページ幅の都合によりここでは改行が挿入されています）。

```
msiexec /I ctx_licensing.msi /I*v install.log /qn INSTALLDIR=installdirectory LICSERVERPORT=port_number  
VENDORDAEMONPORT=port_number MNGMTCONSOLEWEBPORT=port_number  
WEBSERVICELICENSINGPORT=port_number CEILOPTIN=value
```

場所:

- /i\*vオプションでは、セットアップ時のログファイルの保存先フォルダーおよびファイル名を指定します。オプションのパラメーターです。
- /qnオプションでは、無人セットアップであることを指定します。
- INSTALLDIRでは、ライセンスサーバーの実行ファイルのインストール先フォルダーを指定します。オプションのパラメーターです。デフォルトはc:\program files\citrix licensing or c:\program files (x86)\citrix\licensingです。
- LICSERVERPORTでは、ライセンスサーバーで使用されるポート番号を指定します。オプションのパラメーターです。デフォルトのポートは27000です。
- VENDORDAEMONPORTでは、ベンダーデーモンで使用されるポート番号を指定します。オプションのパラメーターです。デフォルトのポートは7279です。
- MNGMTCONSOLEWEBPORTでは、管理コンソールで使用されるポート番号を指定します。オプションのパラメーターです。デフォルトのポートは8082です。
- WEBSERVICELICENSINGPORTでは、Citrix Licensing Managerで使用されるポート番号を指定します。オプションのパラメーターです。デフォルトのポートは8083です。
- CEILOPTINでは、Citrix Customer Experience Improvement Program (CEIP) またはCall Homeに参加するかどうか、する場合はその方法を指定します。オプションのパラメーターです。デフォルトは [ANON] です。
  - DIAG - Call Home
  - ANON - CEIP
  - なし

CEIPとCall Homeの選択は、Citrix Licensing Managerで変更できます。

インストール時の選択も、CITRIX.optファイルを編集することで変更できます。

#### #CITRIX CEIP 値

ここでvalueは、DIAG、ANON、またはNONEです。

ライセンス管理サービスは、ライセンスサーバーで自動的に動作し、ライセンスを管理およびサポートできます。ライセンス環境の管理には、ライセンス管理サービスの使用をお勧めします。この機能は、インストール後いつでも無効にできます。詳しくは、「[製品の技術概要](#)」の「Citrixライセンス管理サービス」を参照してください。

構文：

ctx\_license\_management\_service.exe (-enable |-disable |-query)

場所:

-enableはライセンス管理を有効にします。ライセンスサーバーのインストールから7日後に、初回のCitrixへのアップロードが行われます。

-disableはライセンス管理を無効にします。ライセンス環境の管理には、ライセンス管理サービスの使用をお勧めします。

-queryは、現在の構成を表示します。

CitrixライセンスサーバーVPXは、xva形式の仮想マシンシステムとして配布されます。

XenCenterでライセンスサーバーVPXをインポートするには

1. XenCenterを開き、ライセンスサーバーVPXをインポートするサーバーを右クリックして[インポート] を選択します。
2. パッケージの場所を参照してxvaパッケージを選択します。



3. 仮想マシンのホームサーバーを選択します。このホームサーバーで仮想マシンが自動的に起動します。またはXenServerプールをクリックして、そのプール内の最適なホストで仮想マシンが自動的に起動するようにすることができます。
4. 仮想ディスクのストレージリポジトリを選択します。リポジトリには少なくとも8GBの空き領域が必要です。
5. ネットワークインターフェイスを定義します。ライセンスサーバーVPXでは単一の仮想NIC上で通信が行われます。ライセンスサービスの提供先であるCitrixサーバーからアクセスできるネットワークを選択します。

インポートした仮想マシンはXenCenter管理コンソール内に表示されます。XenServer内の仮想アプライアンスは、名前を右クリックして **[起動]** を選択すると再起動できます。

### 初めてライセンスサーバーVPXを構成する

ライセンスサーバーVPXをインポートすると、XenServerプールに完全に機能するCitrixライセンスサーバーができたことになります。ライセンスサーバーを初めて起動すると、ネットワーク構成のためのセットアップウィザードが開きます。

1. ウィザードが開いたら、管理者のための強力なルートパスワードを作成します。
2. ライセンスサーバーVPXのホスト名を指定します。  
注：ほとんどのCitrixライセンスファイルは、ライセンスサーバーの大文字と小文字が区別されるホスト名に関連付けられます。
3. ライセンスサーバーVPXのドメインを指定します。
4. ネットワークの種類としてDHCPを使用するかどうかを指定します。**y**を選択して、ネットワーク情報を自動的に取得します。または、**n**を選択して、必要なネットワーク情報を入力します。
5. ライセンス管理コンソール用のユーザー名およびパスワードを指定します。
6. カスタマーエクスペリエンス向上プログラム (CEIP) およびCall Homeを有効にするかどうかを選択します。このプログラムについて詳しくは、『[Citrixカスタマーエクスペリエンス向上プログラムについて \(CEIP\)](#)』を参照してください。
7. Active DirectoryドメインにVPXライセンスサーバーを追加するかどうかを選択します。追加する場合、セットアップの完了後、指示に従って**keytabファイル**を生成してインストールし、構成を完了します。

**重要：** Active Directoryを構成しない場合、Citrix License Manager、Studio、Directorと統合できなくなります。

ポート8082で使用できるWebベースのインターフェイスからライセンスを構成します。

構成エラーが発生する場合、指定したパスワードでアプライアンスにrootユーザーとしてログオンします。**resetsettings.sh**または**reset\_ceip.sh**コマンドを入力して、セットアップウィザードに戻ります。

#### resetsettings.shコマンド

resetsettings.shによって、ライセンスサーバーVPXの構成をリセット中に、履歴データファイルを保持または削除できます。その時点まで収集されたすべての履歴データを削除することによって構成を完全にリセットするか、履歴データを保持することによって構成を部分的にリセットできます。

rootとして、以下のスクリプトを実行して、選択します。

```
# resetsettings.sh
```

#### reset\_ceip.shコマンド

reset\_ceip.shによって、元の構成中選択するカスタマーエクスペリエンス向上プログラム (CEIP) をリセットできます。このコマンドは、CEIP設定のみをリセットし、その他のすべての設定は保持されます。

VPXでは、CITRIX.optファイルを変更しないでください。rootとして、以下のスクリプトを実行して、選択します[1.DIAG

2.ANON 3. NONE]。

```
# reset_ceip.sh
```

異なるライセンスサーバーVPXで使用するデータベースのエクスポート

`migrate_historical_data.sh`スクリプトを使用して、履歴データを新しいライセンスサーバーVPXに移行します。このスクリプトによって、履歴データをバックアップし、復元できます。

`root`として、このスクリプトを実行します。

以下の手順の例では、データをVPX\_OからVPX\_Nに移行します。

1. `# migrate_historical_data.sh -b on VPX_O`コマンドを実行し、バックアップファイル/tmp/historical\_data.tarを作成します。
2. VPX\_Nが実行中の場合、/tmp/historical\_data.tarファイルを任意のファイル転送プロトコルでVPX\_Nにコピーまたは移動します。たとえば、`scp`を使用します。
3. VPX\_Nで`# migrate_historical_data.sh -r /directory`コマンドを実行してデータを復元します。*directory*は、historical\_data.tarがあるディレクトリです。

## keytabファイルの生成とインストール

1. 同じドメインに接続されているWindows Server OS（ツールキット）から`ktpass.exe`ユーティリティを使用します。実際のコマンドは、改行せずに1行で入力する必要があります（ページ幅の都合によりここでは改行が挿入されています）。

```
ktpass.exe -princ HTTP/ -mapuser -pass -out -ptype KRB5_NT_PRINCIPAL  
ここで
```

`-princ HTTP/`はプリンシパル名を指定し、  
はライセンスサーバーVPXの完全修飾ドメイン名です。  
は、大文字で入力されたActive Directoryドメインです。

`-mapuser` は、Active Directoryにバインドするために使用できるドメイン内のユーザーを指定します。

推奨事項：keytab作成専用のドメインにサービスアカウントを作成して使用します。サービスプリンシパル名（SPN）がマップされるVPXサーバーの名前でアカウントを作成します。

`-pass` では、ドメインのパスワード要件を満たす強力なパスワードを指定します。

`-out` は、生成されたkeytabファイルが保存されるパスを指定します。

`-ptype KRB5_NT_PRINCIPAL`はプリンシパルの種類を指定します。これは、唯一サポートされているプリンシパルの種類です。

例：

```
ktpass.exe -princ HTTP/VPXHOST.example.domain.com@EXAMPLE.DOMAIN.COM -mapuser administrator -pass password -  
out C:\example.keytab -ptype KRB5_NT_PRINCIPAL
```

1. 生成されたkeytabファイルの名前を`ctx_http.keytab`に変更します。
2. セキュリティで保護されたコピーツール（WinSCPやFileZillaなど）を使用して、生成されたkeytabファイルをライセンスサーバーVPX上のパス（

/opt/citrix/licensing/LS/conf/ctx\_http.keytab) に安全にコピーします。

3. Citrix Licensing Managerにアクセスするには、<https://VPXHOST.example.domain.com:8083/>を開きます。
4. Active Directoryをバインドするには、手順1のコマンドで構成したユーザーを使用してログオンします。
5. 他のドメインユーザーを構成および管理するには、Citrixライセンス管理コンソール (<https://VPXHOST.example.domain.com:8082>) にログオンします。
6. Active Directoryユーザーを追加および削除します。keytabファイルの生成とインストールで問題が発生した場合は、「[トラブルシューティング](#)」を参照してください。

## Important

- ライセンスサーバーVPXでは、Active Directoryグループがサポートされません。
- KerberosはActive Directoryユーザーを認証するため、keytabファイルの生成が非常に重要です。
- Kerberosの規則に従い、kpasswd.exeを使用して作成したプリンシパル名に一意のユーザーをマップする必要があります。詳しくは、[https://technet.microsoft.com/en-us/library/cc753771\(v=ws.11\).aspx](https://technet.microsoft.com/en-us/library/cc753771(v=ws.11).aspx)を参照してください。

### ライセンス管理コンソールでのライセンスファイルの入手

1. Webブラウザで、<https://ls:8082>にアクセスします。
2. [管理] をクリックし、[ベンダーデーモン設定] タブをクリックします。
3. [インポート] をクリックします。
4. [citrix.com](https://citrix.com)のリンクをクリックします。
5. My Accountのページが開いたら、ユーザーIDとパスワードを入力します。
6. [All Licensing Tools] を選択します。
7. メインメニューから、[Allocate] を選択します。
8. 画面の指示に従って、ライセンスを割り当ててライセンスファイルを生成します。
9. ダウンロードするライセンスを選択して[Download] をクリックし、ファイルを一時フォルダーに保存します。
10. ライセンス管理コンソールの[ライセンスファイルのインポート] ページに戻り、[参照] をクリックしてライセンスファイルを指定します。
11. 上記のMyFilesフォルダーに直接コピーした場合、または既存のファイルと同じ名前のファイルがライセンスサーバーに存在する場合は、[ライセンスサーバー上のライセンスファイルを上書きする]チェックボックスをオンにします。
12. [インポート] をクリックします。
13. [ベンダーデーモン設定] タブをクリックし、[CITRIX] 行の[管理] リンクをクリックします。
14. [ライセンスファイルの再読み込み] をクリックします。これにより、インポートしたファイルがライセンスサーバーにより認識されます。  
ライセンスサーバーがライセンスを認識すると、ユーザーがそのライセンスを使用できるようになります。

このプロシージャーはライセンスファイルのみを移動します。新しいライセンスサーバーですべてのユーザーを再構成します。移動するライセンスファイルに適切な所有権と権限があるか確認してください。

1. ライセンスファイルを古いCitrixライセンスサーバーVPXからネットワーク共有にバックアップします。/usr/local/binにあるスクリプトを使用できます。  
すべての\*.licライセンスファイル: /opt/citrix/licensing/myfiles/citrix\_startup.lic  
を除く
2. 古いライセンスサーバーを終了します。
3. 新しいCitrixライセンスサーバーVPXに古いものと同じバインドでサインアップします。  
バインドは、ライセンスファイルのSERVER行で指定されたMACアドレスまたはホスト名またはIPアドレスです。

4. ネットワーク共有から新しいライセンスサーバーにバックアップライセンスを復元します。ファイルを次の場所に復元：  
`/opt/citrix/licensing/myfilesctxlsuser:lmadmin(user:group)`のファイル所有権および644権限付き
5. ctxlsuserとしてこのコマンドを実行：`:/opt/citrix/licensing/LS/lmread -c @localhost`

## 注意

DirectorまたはStudio管理者がインストール中生成された自己署名証明書を使用しない場合、この手順を使用します。

証明書は、以下の3つの手順を行ってインストールします。

1. 証明書および秘密キーを含んでいるPFXファイル入手します。 .pfxファイルを取得するには、2つの方法のうちのどちらかを使用できます。
2. PFXファイルから証明書および秘密キーを抽出します。
3. 証明書および秘密キーをライセンスサーバー上にインストールします。

サーバーにログオンしてMMCを開き、次の手順に従います。

1. エクスポートしたPFXファイルを格納するための`C:\ls_cert`ディレクトリを作成します。
2. [ファイル]、[スナップインの追加と削除]、[証明書]、[コンピューターアカウント]、[ローカルコンピューター]の順に選択して、証明書スナップインを追加します。
3. 左ペインの[証明書]の下の[個人]を右クリックし、[すべてのタスク]、[新しい証明書の要求]の順に選択して[次へ]をクリックします。
4. 証明書の登録ポリシーウィザードで[Active Directory登録ポリシー]を選択して[次へ]をクリックします。[コンピューター]の横のチェックボックスをオンにして、右の[詳細]を選択します。
5. [プロパティ]を選択して、[全般]タブにフレンドリ名と説明を入力します。
6. [Subject]タブの[Subject Type]で、[Type]ドロップダウンメニューから[Common name]を選択します。テキストボックスにわかりやすい名前を入力して、[Add]をクリックしてから、[Apply]をクリックします。
7. [拡張機能]タブで[キー使用法]のドロップダウンメニューを開き、[選択されたオプション]ボックスに[デジタル署名]および[キーの暗号化]を追加します。
8. [拡張キー使用法]のドロップダウンメニューを開き、[選択されたオプション]ボックスに[サーバー認証]および[クライアント認証]を追加します。
9. [秘密キー]タブをクリックし、[キーのオプション]の[キーのサイズ]が2048であることを確認します。[秘密キーをエクスポート可能にする]チェックボックスをオンにして、[適用]をクリックします。
10. [証明機関]タブをクリックし、証明機関のチェックボックスがオンになっていることを確認して、[OK]、[登録]、[完了]の順にクリックします。
11. [Certificates] コンソールで、[Personal] > [Certificates]の順に選択して、構築した証明書をクリックします。選択すべてのタスク > エクスポート > 次 を選択し、[はい、秘密キーのエクスポート]ラジオ ボタンと次。
12. [Personal Information Exchange - PKCS #12(.PFX)]の下の[証明のパスにある証明書を可能であればすべて含む]チェックボックスをオンにして[次へ]をクリックし、パスワードを作成して[次へ]をクリックします。
13. [参照]をクリックして`C:\ls_cert`に移動して`server.PFX`と入力して、ウィザードの指示に従って完了します。

以下の手順は、使用する証明機関により異なる場合があります。

1. ライセンスサーバーにログオンしてMMCを開き、次の手順に従います。
  1. [ファイル]、[スナップインの追加と削除]、[証明書]、[コンピューターアカウント]、[ローカルコンピューター]の順に選択して、証明書スナップインを追加します。
  2. 左ペインの[証明書]の下の[個人]を右クリックし、[すべてのタスク]、[詳細設定操作]、[カスタム要求の作成]の順に選択して[次へ]をクリックします。
  3. 証明書の登録ポリシーウィザードの[カスタム要求]配下で[登録ポリシーなしで続行する]を選択して[次へ]をクリックします。
  4. [カスタム要求] ページでボックスの一覧から[(テンプレートなし) CNGキー]を選択し、要求の形式として[PKCS #10]を選択して[次へ]をクリックします。
  5. [証明書情報] ページで[詳細]のドロップダウンメニューを開き、[プロパティ]をクリックします。
  6. [全般] タブに分かりやすい名前と説明を入力します。
  7. [サブジェクト] タブの[サブジェクト名]の下で[共通名]を選択して、ボックスに値を入力します。
  8. [拡張機能] タブで[キー使用法]のドロップダウンメニューを開き、[デジタル署名]および[キーの暗号化]を追加します。
  9. [拡張機能] タブで[拡張キー使用法]のドロップダウンメニューを開き、[サーバー認証]および[クライアント認証]を追加します。
  10. [秘密キー] タブの[暗号化サービス プロバイダー]配下で[RSA, Microsoft Software Key Storage Provider] (デフォルト)を選択します。[キー]のオプションボックスの一覧で[キーのサイズ]が2048になっていることを確認したら、[秘密キーをエクスポート可能にする]チェックボックスをオンにして、[適用]をクリックします。
  11. 要求をREQファイル(\*.req)として保存して、それを証明機関(CA)に送信し、CERファイルを保存します。
2. MMCの[証明書]配下で[個人]を右クリックして、[すべてのタスク] > [インポート]の順に選択します。インポートウィザードでCERファイルを選択します。
3. エクスポートしたPFXファイルを格納するためのC:\ls\_certディレクトリを作成します。
4. [Certificates] コンソールで、[Personal] > [Certificates]の順に選択して、構築した証明書をクリックします。[All Tasks] > [Export] > [Next]を選択して、[Yes, Export the Private Key]チェックボックスをオンにして、[Next]をクリックします。
5. [Personal Information Exchange – PKCS #12 (.PFX)]の下の[証明のパスにある証明書を可能であればすべて含む]チェックボックスをオンにして[次へ]をクリックし、パスワードを作成して[次へ]をクリックします。
6. [参照]をクリックしてC:\ls\_certに移動してserver.PFXと入力して、ウィザードの指示に従って完了します。

この手順を行うには、OpenSSLなど、PFXファイルから証明書や秘密キーを抽出するためのツールが必要です。

**重要:** ライセンスサーバーに付属のバージョンのOpenSSLでは、証明書や秘密キーを抽出できません。OpenSSLのダウンロードについては、[www.openssl.org](http://www.openssl.org)を参照してください。ダウンロードしたOpenSSLをほかのワークステーション上にインストールして以下の手順を行うことをお勧めします。

1. <openssl directory>\binフォルダーに移動します。
2. openssl pkcs12 -in C:\ls\_cert\server.pfx -out server.crt -nokeysを実行します。  
注: ライセンスサーバーで使用できる証明書の形式は、CRTのみです。
3. エクスポート処理で作成したパスワードを入力します。
4. openssl pkcs12 -in C:\ls\_cert\server.pfx -out server.key -nocerts -nodesを実行します。
5. エクスポート処理で作成したパスワードを入力します。

Windows - Web Services for Licensing :

1. 上記の手順で作成したserver.crtとserver.keyをcd \program files (x86)\citrix\licensing\WebServicesForLicensing\Apache\conf\にコピーします。
2. Citrix Web Services for Licensingサービスを再開します。

#### Windows - ライセンス管理コンソール :

1. 上記の手順で作成したserver.crtとserver.keyをc:\Program Files (x86)\Citrix\Licensing\LS\confにコピーします。
2. Citrix Licensingサービスを再起動します。

#### VPX :

1. 上記の手順で作成したserver.crtとserver.keyを/opt/citrix/licensing/LS/conf/および/opt/citrix/licensing/WebServicesForLicensing/Apache/conf/にコピーします。
2. `etc/init.d/citrixlicensing stop`
3. `etc/init.d/citrixlicensing start`

Citrix Licensing Manager、CEIP、およびCall Homeでプロキシを使用できます。プロキシサーバーを構成する場合、ライセンスをダウンロードしてCall Homeデータをプロキシサーバーを介して送信する必要があります。

## Important

外部向けのWeb通信が必要なCitrixライセンスコンポーネントは、Windows自動プロキシ検出を使用してネットワークプロキシ設定を継承できます。認証されたプロキシはサポートされていません。詳しくは、[WinHTTP AutoProxy Functions](#)を参照してください。

#### プロキシサーバーを手動で構成する

1. SimpleLicenseServiceConfig.xmlファイルを編集します。これは、\WebServicesForLicensingディレクトリにあります。
2. ファイルにプロキシサーバー名:ポート番号の形式でxmlの行を追加します。

**重要 :** xmlタグでは大文字と小文字が区別されます。

```
<Configurations>
```

```
<EncoreConfiguration>
```

```
<SamplingPeriod>15</SamplingPeriod>
```

```
<RetentionTime>180</RetentionTime>
```

```
<Enabled>true</Enabled>
```

```
</EncoreConfiguration>
```

```
<Proxy>10.211.55.5:808</Proxy>
```

```
</Configurations>
```

# アップグレード

Feb 26, 2018

シトリックス製品をアップグレードするときは、Citrixライセンスサーバーもアップグレードする必要があります。新しくリリースされるライセンスサーバーには、より強固なセキュリティや既知の問題の修正などが取り入れられていることがあります。

また、新しいバージョンの製品は、古いバージョンのライセンスサーバーと互換性がない場合があります。新しいバージョンのライセンスサーバーでは、古いバージョンの製品と古いライセンスに対する互換性が維持されています。

カスタマーサクセスサービス契約の有効期間内であれば、シトリックス製品の最新リリースへのバージョンアップグレードと、それに対応するライセンスシステムへのアップグレードを行うことができます。

バージョンアップグレードとは、製品の以前のバージョンから最新バージョンへの移行を指します。たとえば、XenDesktop 5.6からXenDesktop 7への移行する場合です。x

エディションアップグレードとは、より高いエディションレベルの製品の購入を指します。たとえば、現在Enterprise Editionを所有していて、Platinum Editionへのアップグレードを購入する場合です。

## 警告

ライセンスサーバーVPXのアップグレードはサポートされません。 [ライセンスサーバーVPXの古いバージョンからのライセンスファイルの移動](#) および [Citrix Licensing Managerで使用状況履歴データをエクスポート](#) を参照してください。

最新のライセンスサーバーをインストールすることをお勧めします。新しいライセンスサーバーには後方互換性があるため、以前のバージョンの製品やライセンスファイルをサポートします。新しい製品の中には、最新のライセンスサーバーを使用しないと正しく動作しないものがあります。最新のバージョンは、シトリックス社のWebサイト ([ダウンロードページ](#)) からインストールしたりアップグレードしたりできます。

製品をアップグレードする前に、必要に応じてライセンスシステムをアップグレードしてください。

バージョン11.12.1よりも古いCitrixライセンスサーバーがインストールされている場合は、それをアンインストールしてから、このバージョンをインストールしてください。

Active Directory展開以外で、将来のすべてのインストールとアップグレードに新しいCitrixLicensing.exeファイルを使用します。この場合、.msiを使用します。.exeファイルおよび.msiファイルの両方がインストールに存在することを確認します。

お使いのライセンスサーバーのバージョンを確認するには、 [最新のライセンスサーバーの使用](#) を参照してください。

システム要件については、 [必要なシステム - Citrixライセンスサーバー](#) を参照してください。

## Important

ライセンスサーバーの将来のアップグレードが正しく行われるように、既存のライセンスサーバーをアンインストールしてから新しいバージョンをインストールし、さらにライセンスサーバー設定ツールでインストール後の構成処理を正しく完了してください。



## ライセンスサーバーをアップグレードするには

シトリックス社のWebサイトの[ダウンロードページ](#)からライセンスサーバーコンポーネントをダウンロードして、ライセンスサーバーのインストーラー (CitrixLicensing.exe) を管理者として実行してウィザードに従って操作します。

## 製品メディアを使ってライセンスサーバーをアップグレードするには

インストールに製品メディアを使用する場合、インストール後にCitrix Licensing Managerを使って一部の機能を有効にしなければならないことがあります。例えば、Citrix Licensing Managerを使用してカスタマーサクセスサービスの更新を有効にしません。

1. ライセンスサーバーとして動作するコンピューターに、シトリックス製品のメディアを挿入します。
2. セットアップの起動画面が自動的に開かない場合は、WindowsエクスプローラーでAutorun.exeまたはAutoSelect.exeを起動します。
3. 起動画面のメニューで [Citrixライセンスサーバー] をクリックし、画面の指示に従って操作します。

## コマンドラインからライセンスサーバーをアップグレードするには

コマンドプロンプトは、管理者権限で実行する必要があります。コマンドプロンプトを管理者権限で実行するには、[スタート] メニューの [コマンドプロンプト] を右クリックし、[管理者として実行] を選択します。

注：Citrix Service Providerプログラムには、カスタマーエクスペリエンス向上プログラム (CEIP) およびCall Homeが必要です。ユーザーがCitrix Service Providerの場合は、CEIPまたはCall Homeを無効にすることはできません。

コマンドラインによるアップグレードの際、ポートの変更はできません。

たとえば、次のコマンドを実行するとライセンスサーバーが無人セットアップでインストールされます (サイレントモード)。

`CitrixLicensing.exe/quiet/l install.log INSTALLDIR=installdirectoryCEILOPTIN=ANON`

- /quietでは、無人セットアップを実行します。
- /lでは、ログファイルの生成場所を指定します。
- INSTALLDIRでは、ライセンスサーバーの実行ファイルのインストール先フォルダーを指定します。オプションのパラメーターです。デフォルトはc:\program files\citrix licensing or c:\program files (x86)\citrix\licensingです。
- CEILOPTINでは、Citrix Customer Experience Improvement Program (CEIP) またはCall Homeに参加するかしないか、する場合はその方法を指定します。オプションのパラメーターです。デフォルトは [ANON] です。
  - DIAG - Call Home
  - ANON - CEIP
  - なし

CEIPとCall Homeの選択は、Citrix Licensing Managerで変更できます。

シトリックス製品を上位エディションにアップグレードする場合 (XenDesktop, Enterprise EditionをPlatinum Editionにアップグレードするなど)、アップグレードライセンスを購入してライセンスサーバーに追加する必要があります。さらに、管理コンソールで製品エディションの設定を変更する必要があります。影響を受けるサーバーへの接続数が少ないときは製品のエディション設定を変更するか、接続を別のサーバーにリダイレクトすることをお勧めします。エディション設定を変更した後は、変更を有効にするために、サーバーを再起動する必要があります。エディション設定の変更については、その製品のド

キュメントを参照してください。ライセンスサーバーにアップグレードライセンスを追加しても、製品側でエディション設定を変更しておかないとユーザーがサーバーに接続できなくなります。

## 注意

アップグレード前の製品エディションのライセンスは、アップグレード後もライセンス管理コンソールのダッシュボードビューに表示されますが、これらのライセンスは無効です。無効になったライセンスや不要なライセンス割り当てをライセンスサーバーから削除しないと、カスタマーサクセスサービスの有効期限に関する警告が繰り返し表示される場合があります。この警告の表示を無効にすることはできません。不要なライセンスをライセンスサーバー上に保持していても、警告が表示されること以外に影響はありません。これらのライセンスを削除する場合は、「[コンソールを使用しない管理](#)」で「[ライセンスファイルの削除](#)」を参照してください。

エディションライセンスをアップグレードするには

1. Webブラウザで、<http://www.citrix.com>にアクセスします。
2. [Log In] をクリックしてユーザーIDとパスワードを入力します。
3. [All Licensing Tools] を選択します。
4. メインメニューから、[Upgrade] を選択します。
5. サイトの指示に従って操作して、製品のエディションをアップグレードします。
6. 製品をダウンロードするか、メディアとして受け取るかを選択します。電子メールメッセージが送信されます。このメッセージには、[citrix.com](http://citrix.com)に戻って追加機能のライセンスを割り当てたりダウンロードしたりするための方法が説明されています。
7. [www.citrix.com](http://www.citrix.com)にログオンしてライセンスを割り当てて、ライセンスファイルの生成、ライセンスファイルのダウンロード、およびライセンスサーバーでのライセンスの再読み込みを行います。

# ライセンスファイルを手に入る前に

Nov 27, 2017

ライセンスコンポーネントをインストールしたら、ライセンスファイルを手に入れます。

ライセンスファイルは、以下のいずれかの方法で入手できます。

- XenAppまたはXenDesktopのStudio。詳しくは、XenAppおよびXenDesktopのドキュメントの「[ライセンス](#)」を参照してください。
- [Citrix Licensing Manager](#)。
- [ライセンス管理コンソール](#)。
- [Citrix社のWebサイト](#)。

Citrix社のWebサイトにアクセスする前に、以下の情報を手元に用意します。

- **My Account**のユーザーIDとパスワード。パスワードは、My Accountで登録できます。
- **ライセンスコード**。このコードを見つけるには：Citrix.comのMy AccountまたはCitrixから受信した電子メールを参照する。

注：これらの項目に見つからないものがある場合は、[Citrixカスタマーサービス](#)に問い合わせてください。

- **ライセンスコンポーネントをインストールしたサーバーのホストID**。この名前を入力ボックスでは、大文字と小文字が区別されます。必ず、コンピューターに表示されるホスト名を正確にコピーしてください。  
ライセンスサーバーのホスト名およびMACアドレス（イーサネット）は、ライセンス管理コンソールの管理ビューの「システム情報」タブに表示されます。また、そのサーバー上のコマンドプロンプトでhostnameコマンドを実行してホスト名を確認することもできます。
- **ライセンスファイルに含めるライセンス数**。使用できるライセンスのすべてを一度にダウンロードする必要はありません。たとえば、100ライセンスを購入した場合は、その時点では50ライセンスのみを割り当ててダウンロードすることもできます。後で、残りを別のライセンスファイルに割り当てることにより、複数のライセンスファイルを持つことができます。

# Citrix Licensing Manager

Feb 26, 2018

Citrix Licensing Managerを使用すると、使い方が簡単なWebインターフェイスを使用してライセンスサーバーの次の機能を実行できます。

## 最新のビルド：

- すべての製品、すべてのライセンスモデル、すべてのカスタマーサクセスサービス (Subscription Advantage) の日付を選択できるため、データを簡単にエクスポートできます。以前は、特定の製品、モデル、カスタマーサービスの日付範囲を選択する必要がありました。(ライセンスサーバーVPXでは使用できません。)

## 以前のビルド：

- 追加猶予期間を有効または無効にします。(ライセンスサーバーVPXでは利用できません。)
- 以下のポートを変更します。
  - ライセンスサーバー (デフォルト27000) (ライセンスサーバーVPXでは利用できません。)
  - ベンダーデーモン (デフォルト7279) (ライセンスサーバーVPXでは利用できません。)
  - Web Services For Licensing (デフォルト8083)
- 保有期間を選択して、履歴データの保持を構成します。デフォルトのデータ保持期間は180日。
- ライセンスサーバーのバージョンを画面の一番上のバーに表示します。下方向矢印をクリックすると、ホスト名、イーサネットアドレス、IPv4アドレスが表示されます。(ライセンスサーバーVPXでは利用できません。)
- ライセンスアクセスコードまたはダウンロードしたファイルを使用して、ライセンスファイルをライセンスサーバーに簡単にインストールできます。
- インストール後のライセンスの詳細を表示します。
- Citrixカスタマーエクスペリエンス (CEIP) と Call Homeを構成します。
- 失敗したcitrix.comおよびカスタマーエクスペリエンス向上プログラムへのアップロードを再試行します。
- カスタマーサクセスサービスの更新ライセンスの操作を構成します。更新ライセンスを自動で確認するか手動で確認するか、更新ライセンスの通知またはインストールされたライセンスの通知が必要かを指定します。この機能の構成については、「[Citrix Licensing Managerでカスタマーサクセスサービス更新ライセンスを確認してインストールする](#)」を参照してください。
- ツールがインストールされたライセンスサーバーで、使用状況履歴レポートを保存してエクスポート。使用状況履歴データの日付の範囲を指定し、CSVファイルにエクスポートできます。CSVファイルにより、超過使用のライセンス数を含む日単位での使用状況情報が提供されます。使用状況履歴データについては、「[Citrix Licensing Managerで使用状況履歴データをエクスポート](#)」を参照してください。
- ライセンスの可用性、有効期限、およびその他の条件についての重要な通知。Citrix Licensing Manager画面上部にあるベルアイコンを使って通知を表示します。

Citrix Licensing Managerは、Windows用ライセンスサーバーで自動的に実行します。Active Directoryを構成してkeytabファイルをインストールすると、ライセンスサーバーVPXでCitrix Licensing Managerを利用できます。

## 関連情報

- [Install](#)
- [Historical usage](#)
- [Update licenses](#)



# ライセンスのインストール

Feb 26, 2018

考慮事項：Citrix Licensing Managerを使用してライセンスを割り当ておよびダウンロードする場合は、以下の点に注意してください。

- ライセンスサーバーでは、プロキシサーバーを使用したインターネットアクセスまたは構成が必要です。
- [割り当てとダウンロード] をクリックした後でキャンセルすることはできません。Citrix社のWebサイトで [割り当てとダウンロード] の処理が失敗した場合は、My Accountを使用してください。
- Citrix Licensing Managerは、大半のライセンスアクセスコードを割り当てることができますが、ライセンスファイルを再ダウンロードしたり再割り当てしたりすることはできません。citrix.comでライセンスを返却してから、Citrix Licensing Managerで再度ライセンスを割り当てることは可能です。再ダウンロードは**My Account**から行えます。
- ライセンスサーバーの名前を変更する場合は、変更前のライセンスサーバー名で割り当てたライセンスファイルを再割り当てる必要があります。
- Citrix Licensing Managerでは、次のライセンス取得方法のオプションを選択できます。
  - ライセンスアクセスコードを使用
  - ダウンロードしたライセンスファイルを使用 - ビルド22103および21103の場合、ライセンスアクセスコードでライセンスファイルをダウンロードする方法を使用すると、ライセンスの情報が表示されます。

[スタート] メニューから、[すべてのプログラム]、[Citrix]、[Citrix Licensing Manager] の順に選択します。または、リモートマシン上のWebブラウザで<https://licenseservername:8083>にアクセスします。

ライセンスアクセスコードを使用

Citrix Licensing Manager License Server Version 11.14.0.1 build 22100

Historical Use **Install Licenses** Update Licenses

## Install Licenses

Choose the method to install licenses on the License Server.

**License Server Information**

Hostname <b>lictest.net</b>	IP Address <b>10.61.4.5</b>
-----------------------------	-----------------------------

You can choose to install licenses by using the license access code or a license file (.lic).

Use license access code
  Use downloaded license file

License Access Code

?

**Display Licenses**

**License Entitlements**

Product Name	Quantity/Available	Already Used	Action/Progress
Citrix XenApp Platinum   Concurrent	<input type="text" value="100"/> / 100	0	<b>Install</b>

1. **「ライセンスアクセスコードを使用」**をクリックして、ライセンスアクセスコード（Citrixによりメールで送付）を入力し、**「ライセンスの表示」**を選択します。ライセンス使用権が表示されるので、インストールするライセンスと個数を選択します。
2. 詳細の一覧で製品を選択したらインストールする使用権の数を入力し、**「インストール」**をクリックします。複数の製品を選択するには、製品を1つ選択して**「インストール」**をクリックし、次の製品を選択して**「インストール」**をクリックします。選択した順番で処理が行われます。ライセンスアクセスコードを入力してすべてのライセンスをインストールするとそのライセンスアクセスコードは使用できなくなります。そのコードで追加のライセンス処理が必要な場合は、**My Account**にログオンしてください。
3. 新しくダウンロードしたライセンスを表示するには、ライセンス管理コンソールの表示を更新します。

Use license access code
  Use downloaded license file

License Access Code

MPS-PLT-CCU-SA ?

**Display Licenses**

**License Entitlements**

Product Name	Quantity/Available	Already Used	Action/Progress
Citrix XenApp Platinum   Concurrent	100 / 100	0	✓ Installed

Product(#)-Type	SA Date(YYYY.MMDD)	Available	Expiry Date
▼ Citrix XenApp Platinum   Concurrent-Retail			
	2017.1201	100	01-dec-2017

ダウンロードしたライセンスファイルを使用



Historical Use
Install Licenses
Update Licenses

## Install Licenses

Choose the method to install licenses on the License Server.

**License Server Information**

Hostname <b>lictest.net</b>	IP Address <b>10.61.4.5</b>
-----------------------------	-----------------------------

You can choose to install licenses by using the license access code or a license file (.lic).

Use license access code
 Use downloaded license file

**License File**

Choose File
?

**Installed License Details**

Product(#)-Type	SA Date(YYYY.MMDD)	Available	Expiry Date
▼Citrix XenApp Enterprise   Concurrent User-Retail			
	2018.1201	1	01-dec-2018

1. [ダウンロードしたライセンスファイルを使用] をクリックしてファイルを選択します（同じ名前の以前のファイルを置き換える場合はチェックボックスをオンにします）。
2. [インポート] をクリックします。ライセンスの情報がCitrix Licensing Managerに表示されます。
3. ライセンスファイルがライセンスサーバーに問題なくアップロードされたら、メッセージが表示されます。新しくダウンロードしたライセンスを表示するには、ライセンス管理コンソールの表示を更新します。

### Citrix Licensing Managerビルド19005によるライセンスのインストール

ライセンスサーバーVPXでは使用できません。

考慮事項：Citrix Licensing Managerを使用してライセンスを割り当ておよびダウンロードする場合は、以下の点に注意してください。

- [割り当てとダウンロード] を選択した後でキャンセルすることはできません。Citrix社のWebサイトで [割り当てとダウンロード] の処理が失敗した場合は、My Accountを使用してください。
- Citrix Licensing Managerで割り当てることができるのは製品版ライセンスのみであり（評価版およびデモ版ライセンスを割り当てることができません）、ライセンスファイルを再ダウンロードしたり再割り当てしたりすることはできません。これらの機能については、My Accountを使用してください。
- ライセンスサーバーの名前を変更する場合は、変更前のライセンスサーバー名で割り当てたライセンスファイルを再割り当てる必要があります。

1. [スタート] メニューから、[すべてのプログラム]、[Citrix]、[Citrix Licensing Manager] の順に選択します。ま

たは、リモートマシン上のWebブラウザで<https://licenseservername:8083>にアクセスします。

2. ポートや言語を変更するには、ページ上部のメニューバーの[設定] アイコンをクリックします。変更を加えたら、[保存] をクリックします。
3. [ライセンスの割り当て] を選択して、ライセンスアクセスコード (Citrixによりメールで送付) を入力し、[ライセンスの表示] をクリックします。
4. 表示される一覧から製品を選択して [割り当てとダウンロード] をクリックします。複数の製品を選択するには、製品を1つ選択して [割り当てとダウンロード] をクリックし、次の製品を選択して [割り当てとダウンロード] をクリックします。選択した順番で処理が行われます。ライセンスアクセスコードを入力してすべてのライセンスを割り当ておよびダウンロードすると、そのライセンスアクセスコードは使用できなくなります。そのコードで追加のライセンス処理が必要な場合は、**My Account**にログオンしてください。
5. 新しくダウンロードしたライセンスを表示するには、ライセンス管理コンソールの表示を更新します。

# 使用履歴

Feb 26, 2018

Citrix Licensing Managerは、ツールがインストールされたライセンスサーバーで、使用状況履歴レポートを保存してエクスポートできます。使用状況履歴データの日付の範囲を指定し、CSVファイルにエクスポートできます。CSVファイルにより、超過使用のライセンス数を含む日単位での使用状況情報が提供されます。

Citrix Licensing Manager

License Server Version  
11.14.0.1 build 23101

Historical Use Install Licenses Update Licenses

### Historical Use

Use these filters to export a License Server Product usage report for the specified time period as a .csv file.

Product & Edition: Citrix Start-up License (CITRIX)

Model: Server

Customer Success Services Date: 2038.0101

Start Date: 01/19/2018

End Date: 01/19/2018

Export

使用状況履歴データをエクスポートするには

1. ライセンスサーバーにアクセスしているシステムのブラウザーにこのURLを入力して、ライセンスサーバーでホストされているCitrix Licensing Managerにログオンします。

<http://License-Server-Hostname:8083/>

2. ドロップダウンメニューを使用して、製品とエディション、ライセンスモデル、データ範囲（より広範囲であるほど望ましい）を選択して、履歴を収集します。
3. 選択後、**[Export]** をクリックすると、ダウンロードダイアログボックスが開きます。
4. **[Save]** ドロップダウンメニューを使用して、**[Save As]** を選択し、エクスポートされたCSVファイルを保存します。

ビルド23201から、複数のカスタマーサクセスサービスの日付がある場合は、**All**を選択できます。古いビルドの場合、複数のカスタマーサクセスサービスの日付がある場合は、日付ごとにデータをエクスポートします。組み合わせたデータを使用して、総合的な使用状況を判断します。

このデータの保有期間は、デフォルトで180日です。

# ライセンスの更新

Feb 26, 2018

利用可能なカスタマーサクセスサービスの更新ライセンスをチェックできます。ライセンスが利用可能になると、ライセンスの名前、数、カスタマーサクセスサービスの日付の一覧がこの画面に表示されます。ライセンスはダウンロードしてインストールすることができます。この画面には、過去30日間にインストールされたライセンスが一覧表示されます。

Historical Use

Install Licenses

Update Licenses

## Update Licenses

### License Server Information

Hostname cc-dc02

IP Address 10.61.44.85

### Customer Success Services renewal licenses available

[Check for Available Renewals](#)

Product Name	Quantity	CSS Date	Action
Citrix XenDesktop Platinum   User/Device	1	2018.1201	<a href="#">Download and Install</a>

### Customer Success Services renewal licenses installed in the last 30 days

No renewal licenses were installed

# 設定

Feb 26, 2018

画面の上部にある [設定] の歯車アイコンをクリックして、設定を表示します。設定には2種類あります。

- サーバー設定
- 使用状況と統計情報

ここでは、WindowsとVPXの設定画面について説明します。

## Windowsのサーバー構成

## Settings

Server Configuration Usage and Statistics

### Configured Ports

License Server Port ?	27000	
Vendor Daemon Port ?	7279	
Web Services for Licensing Port ?	8083	

### Customer Success Services Renewals ⓘ

- Automatically check for Customer Success Services renewal licenses and notify when available.
- Automatically check for and install Customer Success Services renewal licenses when available.
- Manually check for Customer Success Services renewal licenses.

### Supplemental Grace Period

Start the 15-day supplemental grace period when the regular license consumption limit is reached.

ON 

Language English 

## ポート番号の設定

次の3つのデフォルトポートを編集できます。

- **ライセンスサーバー。**このポート番号はLicense Server Managerが使用します。製品間の内部通信、ベンダーデーモンの起動、およびチェックイン/チェックアウト要求のベンダーデーモンへの転送を行います。デフォルトのポート番号は、27000です。
- **ベンダーデーモン。**このポートはCITRIXベンダーデーモンが使用します。ベンダーデーモンは、ライセンスの割り当て処理など、ライセンスサーバーの中核処理を行います。デフォルトのポート番号は、7279です。ただし、ファイアウォール

を使用する場合、またはほかの用途でこのポートを使用している場合は、ポートを変更できます。

- **Web Services for Licensing。** Web Services for Licensingが使用するポート。Web Services for LicensingはCitrix Licensing Managerをホストしているため、Citrix Licensing Managerに接続するユーザーはこのポートを使用します。DirectorとStudioはこのポートを使用して、Web Services for Licensingを使用するライセンスサーバーと通信します。デフォルトのポート番号は、8083です。

#### カスタマーサクセスサービス更新ライセンスをチェックしインストール

有効にすると、Citrix Licensing Managerは毎週Citrix.comのWebサービスにアクセスし、利用可能なカスタマーサクセスサービス更新ライセンスがあるかを確認します。

構成方法に従って、Citrix Licensing Managerはカスタマーサクセスサービス更新ライセンスを自動または手動で確認し、ライセンスが見つかったと通知またはインストールします。

1. Citrix Licensing Managerで、UIの上のバーにある設定アイコンをクリックします。
2. 通知方法と、更新ライセンスを自動的にインストールするかどうかを選択し、[保存] をクリックします。

カスタマーサクセスサービス更新ライセンスの自動チェックが失敗する場合、ファイアウォールの設定を確認するか、プロキシを構成してください。この機能を動作させるには、ライセンスサーバーが<https://citrixservices.citrix.com>にアクセスできる必要があります。

- **カスタマーサクセスサービス更新ライセンスを自動的にチェックし、使用可能な場合通知します。** :Citrix Licensing Managerは通知を表示します。オンにして、利用可能な更新をダウンロードし、インストールします。ライセンスサーバーでStudioおよびDirectorの管理が構成されている場合は、同じ通知がStudioおよびDirectorがでも表示されます。
- **カスタマーサクセスサービス更新ライセンスを自動的にチェックし、使用可能な場合インストールします。** :Citrix Licensing Managerが毎週更新ライセンスをチェックし、使用可能な場合、自動的にインストールします。更新がインストールされたという通知は、数日間表示されます。
- **カスタマーサクセスサービス更新ライセンスを手動でチェックします。** : [ライセンスの更新] タブで、[使用可能な更新のチェック] を選択します。[ライセンスの更新] タブでは、最近30日間にインストールされたライセンスの一覧をいつでも表示できます。

#### 追加猶予期間

通常のライセンス消費制限に達した時に、15日間の追加猶予期間を開始するか指定します。詳細については、「[技術概要](#)」の「追加猶予期間」を参照してください。

#### Change the default and display language

Citrix Licensing Managerで表示するデフォルトの言語を変更できます。このデフォルトの設定は、その管理コンソールを使用するすべてのユーザーに適用されます。設定可能な言語は以下のとおりです。

- 簡体字中国語
- 英語
- フランス語
- ドイツ語
- 日本語
- スペイン語

このセクションでは、次の内容について説明します。

- 使用統計をCitrixと共有するよう構成する。

- アップロードファイルのステータスを確認する。アップロードに失敗すると、問題を解決するための提案を含めた情報が表示されます。
- 使用履歴情報を保有する期間を設定します。デフォルトでは180日です。

The screenshot shows the Citrix Licensing Manager interface. At the top, there is a header with the title 'Citrix Licensing Manager', the license server version '11.14.0.1 build 22100', and user information 'Hello, [name]'. Below the header is a navigation bar with three tabs: 'Historical Use', 'Install Licenses', and 'Update Licenses'. The main content area is titled 'Settings' and has two sub-tabs: 'Server Configuration' and 'Usage and Statistics'. The 'Usage and Statistics' tab is active and contains three sections:

- Share usage statistics with Citrix:** This section includes a sub-header and a help link. It contains three radio button options:
  - Allow Citrix Insight Services to safely collect basic usage and statistical information to better understand customer usage.
  - Send anonymous statistics and usage information to the Citrix Customer Experience Improvement Program (CEIP).
  - Do not send any data to Citrix.
- Upload information:** This section provides status for the last CEIP, Call Home, or Citrix Service Provider Program upload. It shows 'Last successful upload' as '9/21/2017, 10:02:07 AM'.
- Historical Usage:** This section shows the 'Retention Period' set to '180 Days' with an edit icon.

### 使用統計をCitrixと共有します

Citrix Licensing CEIPおよびCall Homeの使用状況および分析プログラムは、製品に関するエクスペリエンスを向上させるために設計され、お客様の許可によってデータを収集するプログラムです。匿名または実名でプログラムに参加したり、参加を拒否することができます。



## Important

Citrix Service Providerプログラムでは、CEIPとCall Homeが必須です。Citrix Service Providerライセンスをインストールしている場合、設定の変更はできますが、CEIPとCall Homeを無効にすることはできません。

### アップロード情報

このセクションでは、CEIP、Call Home、またはCitrix Service Providerの最新アップロードのステータスを示します。アップロードが失敗した場合、Citrix Licensing Managerはトラブルシューティング情報を表示します。

#### Upload information

Provides status for the last Citrix Customer Experience Improvement Program (CEIP), Call Home, or Citrix Service Provider Program upload.

**Last successful upload** 03/08/2017, 11:54:52

ⓘ An upload to [cis.citrix.com](https://cis.citrix.com) failed due to Error code #5 - network error while connecting to [cis.citrix.com](https://cis.citrix.com). An automatic retry is attempted in 24 hours, but you can click Retry now to try again. If this message doesn't resolve itself, see the troubleshooting steps below.

#### Steps to troubleshoot

- To verify connectivity, open a web browser from the License Server and go to <https://cis.citrix.com>.
- Are firewalls blocking access to <https://cis.citrix.com> port 443?
- Is a proxy server required? Configure Citrix Licensing Manager accordingly. See [docs.citrix.com](https://docs.citrix.com) for details.
- You can review the transmission log available at [C:\Program Files\(x86\)\Citrix\licensing\ls\Log\logs\\_ctxuploader.txt](C:\Program Files(x86)\Citrix\licensing\ls\Log\logs_ctxuploader.txt)
- If the error doesn't resolve, contact Citrix Support.

Retry now

### 使用状況履歴の保有

ライセンスサーバーの使用状況情報を保有する日数を設定します。

## VPXのサーバー構成



注：VPXのUIでは、カスタマーサクセスサービスはSubscription Advantageのままになっています。




## Server Configuration

HTTPS Port (default 8083)

Language

 English 

Retention Period


 

Days to retain historical usage data.

### Subscription Advantage Renewals

- Automatically check for Subscription Advantage renewal licenses and notify when available. [Learn More](#)
- Automatically check for and install Subscription Advantage renewal licenses when available
- Manually check for Subscription Advantage renewal licenses

### Share usage statistics with Citrix

Help us improve Citrix products by providing License Server and basic usage statistics. 

- Allow Citrix Insight Services to safely collect basic usage and statistical information to better understand customer usage.
- Send anonymous statistics and usage information to the Citrix Customer Experience Improvement Program (CEIP).
- Do not send any data to Citrix.

## ポート番号の構成

- **Web Services for Licensing。** Web Services for Licensingが使用するポート。Web Services for LicensingはCitrix Licensing Managerをホストしているため、Citrix Licensing Managerに接続するユーザーはこのポートを使用します。DirectorとStudioはこのポートを使用して、Web Services for Licensingを使用するライセンスサーバーと通信します。デフォルトのポート番号は、8083です。

## Change the default and display language

Citrix Licensing Managerで表示するデフォルトの言語を変更できます。このデフォルトの設定は、その管理コンソールを使用するすべてのユーザーに適用されます。設定可能な言語は以下のとおりです。

- 簡体字中国語

- 英語
- フランス語
- ドイツ語
- 日本語
- スペイン語

## 使用状況履歴の保有

ライセンスサーバーの使用状況情報を保有する日数を設定します。

### カスタマーサクセスサービス (旧称Subscription Advantage) 更新ライセンスをチェックしインストール

有効にすると、Citrix Licensing Managerは毎週Citrix.comのWebサービスにアクセスし、利用可能なカスタマーサクセスサービス更新ライセンスがあるかを確認します。

構成方法に従って、Citrix Licensing Managerはカスタマーサクセスサービス更新ライセンスを自動または手動で確認し、ライセンスが見つかったと通知またはインストールします。

カスタマーサクセスサービス更新ライセンスの自動チェックが失敗する場合、ファイアウォールの設定を確認するか、プロキシを構成してください。この機能を動作させるには、ライセンスサーバーが<https://citrixservices.citrix.com>にアクセスできる必要があります。

注：VPXのUIでは、Subscription Advantageのままになっています。

- **Subscription Advantage更新ライセンスを自動的にチェックし、使用可能な場合通知します。** Citrix Licensing Managerは通知を表示します。オンにして、利用可能な更新をダウンロードし、インストールします。ライセンスサーバーでStudioおよびDirectorの管理が構成されている場合は、同じ通知がStudioおよびDirectorからも表示されます。
- **Subscription Advantage更新ライセンスを自動的にチェックし、使用可能な場合インストールします。** Citrix Licensing Managerが毎週更新ライセンスをチェックし、利用可能な場合は、自動的にインストールします。更新がインストールされたという通知は、数日間表示されます。
- **Subscription Advantage更新ライセンスを手動でチェックします。** [ライセンスの更新] タブで、[使用可能な更新のチェック] を選択します。[ライセンスの更新] タブでは、最近30日間にインストールされたライセンスの一覧をいつでも表示できます。

## 使用統計をCitrixと共有します

Citrix Licensing CEIPおよびCall Homeの使用状況および分析プログラムは、製品に関するエクスペリエンスを向上させるために設計され、お客様の許可によってデータを収集するプログラムです。匿名または実名でプログラムに参加したり、参加を拒否することができます。

## Important

Citrix Service Providerプログラムでは、CEIPとCall Homeが必須です。Citrix Service Providerライセンスをインストールしている場合、設定の変更はできますが、CEIPとCall Homeを無効にすることはできません。

# ライセンス管理コンソール

Nov 27, 2017

ライセンス管理コンソールは、Citrixライセンスの管理および監視をWebブラウザ上で行うためのインターフェイスです。

[ダッシュボード] ビューでは、以下の作業を行います。

- ライセンス、ライセンスアクティビティ、およびアラートの監視

[管理] ビューでは、以下の作業を行います。

- ライセンスの管理
- ライセンス管理ユーザーの構成
- ライセンスに関するアラートを構成する。
- ライセンスのインポート
- ライセンス管理アクティビティのログ
- コンソールサーバーの保護
- システム情報の表示

ダッシュボードビューと管理ビューを切り替えるには、管理コンソール右上のリンクをクリックします。管理ビューを使用するには、管理権限およびパスワードの入力が必要です。

ライセンス管理コンソールがインストールされているコンピューター上でこの管理コンソールを開くには、次の手順に従います。

[スタート] ボタンをクリックし、[すべてのプログラム]、[Citrix]、[ライセンス管理コンソール]の順に選択します。

Webブラウザで、以下のいずれかのURLを指定します。

- <https://License server name:Web service port>
- <https://Client access point name:Web service port>
- <https://IP:Web service port>

場所:

- License server nameは、ライセンスサーバーの名前です。
- Client access point nameは、クラスターの構成時に設定したクライアントアクセスポイントの名前です。
- IPは、ライセンスサーバーのIPアドレスです。
- Web service portは、管理コンソールWebサービスのポート番号です。

管理コンソールWebサービスのデフォルトのポート番号は、8082です。

コンソールでライセンスファイルを追加した場合は、それらのファイルを削除した後でコンソールのユーザーインターフェ

イスを更新する必要があります。

1. ライセンス管理コンソールを開き、[管理] をクリックします。
2. 管理者ユーザーとしてログオンし、[ベンダーデーモン設定] タブをクリックします。
3. 一覧から [CITRIX] ベンダーデーモンの行を選択します。
4. [ライセンスファイルまたはディレクトリ] の内容を編集して、削除されたライセンスを取り除き、構成を保存します。

## 関連情報

- [Import licenses](#)
- [Change port numbers](#)
- [Change the default and display language](#)
- [Combine license files](#)
- [Configure console users and licensing alerts](#)
- [Improve performance by specifying thread use](#)
- [License administration](#)
- [Monitor licenses and alerts](#)
- [Reallocate license files](#)
- [Replace \(redownload\) license files](#)
- [Security](#)
- [System information and logs](#)

# ライセンスファイルのインポート

Nov 27, 2017

citrix.comでライセンスファイルを生成したら、それをライセンスサーバーにインポートします。ライセンスサーバーのインストール時に、「スタートアップライセンス」が自動的にインポートされます。これにより、Citrix製品とライセンスサーバーとの通信が可能になります。

## Important

ライセンスファイル名の拡張子は、常に「.lic」である必要があります。コピー手段によっては、ライセンスファイルのファイルタイプが正しく認識されず、拡張子「.txt」が追加される場合があります。ライセンスファイルのファイル拡張子が不正な場合、ライセンスサーバーにインポートできません。

1. Webブラウザで、<https://ls:8083>に移動します。
2. **[管理]** をクリックし、**[ベンダーデーモン設定]** タブをクリックします。
3. **[インポート]** をクリックします。
4. **citrix.com**のリンクをクリックします。
5. **My Account**のページが開いたら、ユーザーIDとパスワードを入力します。
6. **[All Licensing Tools]** を選択します。
7. メインメニューから、**[Allocate]** を選択します。
8. 画面の指示に従って、ライセンスを割り当ててライセンスファイルを生成します。
9. ダウンロードするライセンスを選択して**[Download]** をクリックし、ファイルを次の一時フォルダーに保存します。
10. ライセンス管理コンソールの**[ライセンスファイルのインポート]** ページに戻り、**[参照]** をクリックしてライセンスファイルを指定します。
11. 上記のMyFilesフォルダーに直接コピーした場合、または既存のファイルと同じ名前のファイルがライセンスサーバーに存在する場合は、**[ライセンスサーバー上のライセンスファイルを上書きする]**チェックボックスをオンにします。
12. **[インポート]** をクリックします。
13. **[ベンダーデーモン設定]** タブをクリックし、**[CITRIX]** 行の**[管理]** リンクをクリックします。
14. **[ライセンスファイルの再読み込み]** をクリックします。これにより、インポートしたファイルがライセンスサーバーにより認識されます。  
ライセンスサーバーがライセンスを認識すると、ユーザーがそのライセンスを使用できるようになります。

# ポート番号の変更

May 22, 2017

ライセンスサーバーをインストールすると、いくつかの通信ポートが設定されます。これらのポートの番号は、ライセンス管理コンソールを使って変更することができます。

- **管理コンソールWebサーバーポート**：ライセンス管理コンソールに接続するクライアントとの通信で使用される、WebサーバーのHTTPS TCP/IPポートです。デフォルトのポート番号は、8082です。ほかの用途でこのポートを使用している場合は、1~65535の別のポート番号を指定できます。アップグレードしている場合は、以前の構成が維持されデフォルトでHTTPSにならないことがあります。ポート番号を変更したら、Citrix Licensingサービスを再起動する必要があります。
- **License Server Managerポート**：このポート番号はLicense Server Managerが使用します。製品間の内部通信、ベンダーデーモンの起動、およびチェックイン/チェックアウト要求のベンダーデーモンへの転送を行います。デフォルトのポート番号は、27000です。  
ヒント：実際に使用されているポートは、[管理] ビューの [システム情報] タブで確認できます。
- **ベンダーデーモンポート**：このポートはCitrixベンダーデーモンが使用します。ベンダーデーモンは、ライセンスの割り当て処理など、ライセンスサーバーの中核処理を行います。デフォルトのポート番号は、7279です。ただし、ファイアウォールを使用する場合、またはほかの用途でこのポートを使用している場合は、ポートを変更できます。  
ヒント：実際に使用されているポートは、[管理] ビューの [ベンダーデーモン構成] タブで確認できます。

ポート番号の変更には、LS Portユーティリティに代わってライセンス管理コンソールを使用します。以前のバージョンのライセンスサーバーで使用していたLS Portユーティリティは、このバージョンでは不要です。

注：Linuxカーネルによって、ポート1から1024は予約されます。VPXのポートを構成するときは、1024より大きいポートを使用してください。SSLを使用する場合は、ファイアウォールで開放されているポート8082を使用してください。SSLのためにほかのポートを選択する場合は、iptablesでファイアウォールを再構成します。

管理コンソールWebサービスポートを変更するには

1. 管理コンソール右上の [管理] を選択します。
2. [サーバー構成] タブをクリックします。
3. [Webサーバー構成] バーをクリックします。
4. [HTTPSポート] ボックスで、既存のポート番号を変更して [保存] をクリックします。
5. ホストマシンの [サービス] コントロールパネルを開き、[Citrix Licensing] サービスを選択します。
6. Citrix Licensingサービスを再起動します。

ライセンスサーバーマネージャーポートを変更するには

ライセンスサーバーマネージャー (ladmin.exe) で使用されるポートを変更するには、以下の手順に従います。

1. 管理コンソール右上の [管理] を選択します。
2. [サーバー構成] タブを選択します。
3. [ライセンスサーバー構成] バーをクリックします。
4. [ライセンスサーバーポート] で [ポートを指定] を選択し、既存のポート番号を変更します。[保存] をクリックします。
5. Citrix Licensingサービスを再起動します。

ベンダーデーモンポートを変更するには

1. 管理コンソール右上の [管理] を選択します。
2. [ベンダーデーモン構成] タブを選択します。

3. 一覧から [CITRIX] ベンダーデーモンの行を選択します。
4. [ベンダーデーモンのポート] で [ポートを指定] を選択し、既存のポート番号を変更します。
5. [Save] をクリックします。
6. **Citrix Licensing**サービスを再起動します。



# デフォルトの変更と言語の表示

May 22, 2017

## デフォルト言語の変更

管理者は、ライセンス管理コンソールのデフォルトの表示言語を変更できます。このデフォルトの設定は、その管理コンソールを使用するすべてのユーザーに適用されます。設定可能な言語は以下のとおりです。

- 簡体字中国語
- 英語
- フランス語
- ドイツ語
- 日本語
- スペイン語

ユーザーは、そのセッションにだけ適用される表示言語を設定することができます。そのセッションからログオフすると、次回ログオン時にはデフォルトの言語が表示されます。

1. **[管理]** をクリックし、**[サーバー構成]** タブを選択します。
2. **[ユーザーインターフェイス]** バーをクリックします。
3. **[デフォルトの表示言語]** ボックスの一覧で、言語を選択します。

## 表示言語の変更

ライセンス管理コンソールの表示言語を変更することができます。管理コンソールからログオフすると、デフォルトの表示言語に戻ります。表示言語は、いつでも変更できます。

表示言語は、以下の方法で変更できます。

- ログオン時に表示言語を選択する。

または

- 管理コンソール左下の **[表示言語の変更]** をクリックする。

# ライセンスファイルの結合

Feb 26, 2018

1台のライセンスサーバーに多くのライセンスファイルが配置されている場合は、ライセンスを1つのライセンスファイルにまとめることができます。次のような場合、ライセンスファイルの数が増加する可能性があります。

- 追加ライセンスを購入した
- カスタマーサクセスサービス契約を更新した

## ヒント

古いライセンスファイルをバックアップし、ライセンスサーバーから削除してから、ダウンロードした新しいライセンスファイルで置き換えてください。

1. Webブラウザで、<https://ls:8083>にアクセスします。
2. **[管理]** をクリックし、**[ベンダーデーモン構成]** タブをクリックします。
3. **[ライセンスのインポート]** をクリックします。
4. **[My Account]** リンクをクリックします。
5. **My Account**のページが開いたら、ユーザーIDとパスワードを入力します。
6. **[All Licensing Tools]** を選択します。
7. メインメニューから、**[Redownload]** を選択します。
8. あるホストIDに割り当てられたすべての指定ライセンスを一行の項目に自動的に結合するには、**[By Host]** タブをクリックします。すべてのページのすべての項目を選択するには **[Select All]** をクリックし、そのページのすべての項目を選択するには **[Page]** チェックボックスをオンにします。または、ダウンロードするライセンスのチェックボックスをオンにします。
9. **[Download]** をクリックして一時フォルダーにファイルを保存します。ファイル名およびダウンロード先を忘れないようにしてください。後で必要になります。
10. ライセンス管理コンソールの **[ライセンスファイルのインポート]** ページに戻り、ライセンスファイルを指定します。
11. 上記のMyFilesフォルダーに直接コピーした場合、または既存のファイルと同じ名前のライセンスファイルをインポートする場合は、**[ライセンスサーバー上のライセンスファイルを上書きする]** チェックボックスをオンにします。
12. **[ライセンスのインポート]** をクリックします。
13. **[ベンダーデーモン構成]** タブをクリックし、Citrixベンダーデーモン行の **[管理]** をクリックします。
14. **[ライセンスファイルの再読み込み]** をクリックします。これにより、インポートしたファイルがライセンスサーバーにより認識されます。

# コンソールユーザーおよびライセンスアラートの構成

Feb 26, 2018

ライセンス管理コンソールでは、ライセンス管理ユーザー、ローカルのWindowsユーザーとグループ、およびActive Directoryユーザーとグループを使用できます。Citrix Licensing Managerでは、ローカルのWindowsユーザーとグループ、およびActive Directoryユーザーとグループを使用できます。これらのすべてのユーザーは、ライセンス管理コンソールで管理し、操作できます。これらのユーザーとコンピューターのローカルユーザーは関連付けられていません。

Active Directoryのユーザーおよびグループは、Active Directory/ネットワーク認証システムの一部です。Active Directoryのユーザーおよびグループをサポートするには、WindowsライセンスサーバーがMicrosoft Active Directoryドメインに参加していることを確認してください。Windows NTドメインはサポートされません。

ユーザーはローカルの役割で構成されています。すべてのユーザーは管理者として作成され、次の操作を実行できます。

- ダッシュボードビューでライセンスアクティビティやアラートを表示する。
- 自分のパスワードを変更する。Active Directoryのユーザーおよびグループに、ライセンス管理コンソール用のパスワードはありません。Active DirectoryのユーザーおよびグループはActive Directoryで認証され、Active Directoryの標準的なユーザーパスワードポリシーに従います。
- 管理コンソールの表示言語を選択する。
- 管理コンソールの表示言語を選択する。
- システム情報を表示する。
- ユーザーを追加および削除したり、ユーザーにパスワードを変更させたりする。ローカルユーザーのみ、パスワードを失くさせることができます。
- アラートを設定する。
- ライセンスサーバーを設定する。
- ベンダーデーモンを設定する。
- 変更したライセンスサーバーを停止する。
- 管理コンソールを設定する。
- ライセンスを設定して追加する。

管理者は、管理ビューを開くときにユーザー名およびパスワードを入力する必要があります。ユーザーがダッシュボードビューを開くときにも、ユーザー名およびパスワードの入力を要求することができます（[サーバー設定] タブ）。ダッシュボードをパスワードで保護する場合は、ライセンス管理コンソールにアクセスするすべてのユーザーがユーザー名およびパスワードを入力する必要があります。

## インストールにより追加されるアカウント

ライセンス管理コンソールをインストールすると、デフォルトの管理者アカウントが作成されます。インストールが完了したら、管理者アカウントを使ってライセンス管理コンソールにログオンし、ほかのユーザーを設定します。

ライセンス管理コンソールをインストールすると、マシンの所属ドメインに応じて組み込みの管理者アカウントが設定されます。ワークグループに属しているマシンでは、computer\InstallUser およびBUILTIN\Administratorsが追加されます。Active Directoryに属しているマシンでは、domain\InstallUser およびBUILTIN\Administratorsが追加されます。これらのアカウントは、インストール後に削除することができます。ただし、少なくとも1人の管理者が常に存在している必要があります。

## ローカルで管理されるユーザーの追加

1. [管理] をクリックし、[ユーザー設定] タブをクリックします。
2. [新規ユーザー] をクリックします。

3. ボックスの一覧から [ローカルで管理されるユーザー] を選択します。
4. 選択した役割に基づいて情報を入力します。必須の情報は、アスタリスク (\*) で示されます。
  - ユーザー名は、バックslash (\) を除く英数字で指定します (大文字と小文字は区別されます)。
5. ユーザーにパスワードを作成させる場合は、[次回ログオン時にパスワードの変更を要求する] チェックボックスをオンにします。

#### ローカルのWindowsユーザー、ドメインユーザー、およびユーザーグループの追加

1. [管理] をクリックし、[ユーザー設定] タブをクリックします。
  1. ドメインのユーザーまたはグループを追加する場合は、[ドメインユーザー/グループ] をクリックします。
2. [新規ユーザー] をクリックします。
3. ボックスの一覧から役割を選択します。
4. 選択した役割に基づいて情報を入力します。必須の情報は、アスタリスク (\*) で示されます。
  - ユーザーおよびグループは、「domain\user」 (domainはドメイン名またはmachine name) または「domain\group」形式で指定してください。
  - ローカルのWindowsユーザーは、「computer\user」形式で指定してください。
  - ドメインユーザーの名前は大文字に変換して格納されます。大文字のドメインユーザー名 (例: TEST\HARVEY) は小文字のローカルユーザー名 (例: test\harvey) と共存させることができます。大文字のローカルユーザー名と共存させることはできません。

#### ローカルで追加されたユーザーのパスワードの変更

1. [ユーザー設定] タブの一覧で、そのユーザーの行の [編集] をクリックします。
2. 新しいパスワードを入力し、確認のためもう一度入力します。
3. ユーザーにパスワードを変更させる場合は、[ユーザーは次回ログオン時にパスワードの変更が必要] チェックボックスをオンにします。

#### ライセンスアラートの設定

ライセンスに関するアラートには**致命的**と**重要**の2種類があり、ダッシュボードに表示されます。管理者は、ダッシュボードに表示されるアラートを選択したり、アラートが生成されるときのしきい値を変更したりできます。

1. 管理コンソール右上の [管理] をクリックし [アラート設定] タブをクリックします。
2. ダッシュボードに表示するアラートの種類を選択し、重要アラートについてはしきい値を指定します。
3. [保存] をクリックします。
4. デフォルトでは、カスタマーサクセスサービスのアラートもダッシュボードに表示されます。これらのアラートの表示を有効または無効にするには、次の手順に従います。
  1. [ベンダーデーモン構成] をクリックします。
  2. 一覧から [CITRIX] ベンダーデーモンの行を選択します。
  3. [カスタマーサクセスサービスの期限切れアラートを有効にする] チェックボックスをオンまたはオフにします。

# 使用されるスレッド数を指定してパフォーマンスを向上させる

May 22, 2017

ライセンスサーバーに対する要求は、リスナーポートを経由して受信されます。受諾スレッドは、すべての通信を受け入れる必要があります。受け入れられたメッセージは受信スレッドにより処理され、次に処理スレッドに渡されます。多数の要求が発生する場合にライセンスサーバーのパフォーマンスを改善させるには、使用する受信スレッドおよび処理スレッドの最大数を指定します。

プログラムがI/O要求（ライセンスのチェックアウト要求など）を発信する場合、スレッドを作成してそれを使用します。スレッドは、プログラム内の場所およびデータを参照ポイントとして保持します。プログラムは、要求が完了すると元の場所に戻ります。許可されているスレッドの数に応じて、同時に必要な数のスレッドを作成できます。この技法をマルチスレッドディングと呼びます。

ライセンスサーバーのパフォーマンスを最適化するための設定値は、ハードウェア、サイト構成、および要求の量により異なります。ハードウェアの許容範囲を超える値を設定すると、通信に遅延が生じることがあります。設定値が低すぎても、通信が発生するまでに遅延が生じることがあります。これは、システムが新しいスレッドを作成できるようになるまで待機してから、受信した要求を処理するためです。異なる値をテストおよび評価しながら、環境に適した設定値を決定してください。大規模環境では、手始めに次のように設定するとよいでしょう。

- ライセンスサーバーマネージャーの処理スレッドの最大数：30
- ライセンスサーバーマネージャーの受信スレッドの最大数：15

次の2つの項目で、スレッドの最大数を指定できます。

- ライセンスサーバー
- Webサーバー

## ライセンスサーバーの最大スレッド数を指定する

1. 管理コンソール右上の **[管理]** をクリックします。
2. **[サーバー設定]** タブをクリックし、**[ライセンスサーバー設定]** バーをクリックします。
3. **[ライセンスサーバーマネージャーの処理スレッドの最大数]** および **[ライセンスサーバーマネージャーの受信スレッドの最大数]** ボックスで、既存の値を変更します（指定可能な最大値は999）。
4. Citrix Licensingサービスを再起動します。

## Webサーバーの最大スレッド数を指定する

以下の手順では、ライセンス管理コンソールのWebサーバーで要求を処理するときを使用される最大スレッド数を指定します。多くの管理者ユーザーが同時にライセンス管理コンソールにアクセスする環境では、この最大スレッド数を大きくします。

1. 管理コンソール右上の **[管理]** をクリックします。
2. **[サーバー設定]** タブをクリックし、**[Webサーバー設定]** バーをクリックします。
3. **[Webサーバーの最大スレッド数]** ボックスで、既存の値を変更します（指定可能な最大値は999）。
4. Citrix Licensingサービスを再起動します。

# ライセンス管理

May 22, 2017

インポートしたライセンスファイルは、Citrixベンダーデーモン (CITRIX) により管理されます。Citrixベンダーデーモンは、チェックアウトされたライセンスの数やそのユーザーを追跡するなど、ライセンスサーバーの中核処理を行います。このベンダーデーモンは、環境で使用するすべてのCitrixライセンスファイルを管理し、既存のライセンスファイルに対する完全な後方互換性もあります。Citrixベンダーデーモンの設定は、[ベンダーデーモン設定] 画面で行います。

## Important

ライセンス管理コンソールで管理できるベンダーデーモンは、Citrixベンダーデーモンのみです。Citrixライセンスサーバー以外でのCitrixベンダーデーモンの実行はサポートされていません。

## ベンダーデーモンの設定

[ベンダーデーモン設定] 画面では、ライセンスファイルをインポートしたり、ベンダーデーモンを設定したり、ライセンスアクティビティに関するログを表示したりできます。この画面を表示するには、管理者特権が必要です。

[ベンダーデーモン設定] ページの一覧で、[CITRIX] 行の[管理] リンクをクリックします。以下のオプションを設定できます。

オプション	説明
ベンダーデーモンのポート	ベンダーデーモンが製品と通信するとき使用するTCP/IPポートの番号です。
停止	ベンダーデーモンを停止します。管理コンソールは終了しません。ベンダーデーモンが停止すると、このボタンは[開始]になります。デフォルトで無効。
開始	ベンダーデーモンを起動して、ライセンスファイルを読み込みます。このボタンが表示されるのは、ベンダーデーモンが停止しているときのみです。ベンダーデーモンが起動すると、このボタンは[停止]になります。
ライセンスファイルの再読み込み	ライセンスファイルおよびオプションファイルの内容を再読み込みします。
レポートログ名	このオプションは使用されていません。
レポートログの回転	このオプションは使用されていません。

# ライセンスおよびアラートの監視

Feb 26, 2018

ライセンスのアクティビティを監視するには、ダッシュボードビューを使用します。ライセンス管理コンソールを開くと、ダッシュボードビューが自動的に表示されます。

## ライセンスの状態

ダッシュボードには、ライセンスに関する以下の情報が表示されます。

でのデータソース名	説明
製品	製品名、エディション、およびライセンスの種類です。
CSS日	製品ライセンスのカスタマーサクセスサービス契約の有効期限
使用中 (使用可能)	現在使用中のライセンス数と、使用可能なライセンスの総数です。
期限	ライセンスの有効期限です。
ライセンスの種類	ライセンスの種類 (同時使用ユーザーライセンスやシステムライセンスなど) です。
ホスト	チェックアウトされたライセンスがあると、そのライセンスを使用しているホスト一覧へのリンクが表示されます。

## アラートについて

ダッシュボードに表示されるアラートは、ライセンスサーバーの停止やカスタマーサクセスサービスの有効期限切れなどのライセンスイベントにより生成されます。アラートの設定は、管理ビューで行います。ダッシュボードに表示されるアラートの一覧を更新するには、ダッシュボードビューのWebページを再読み込みしたり、最新の情報に更新したりします。


同時使用ライセンスに関するアラートは、1分間隔でチェックされ、生成されます。[ベンダーデーモンの停止] アラートは、ベンダーデーモンが停止するとすぐに生成されます。

アラートには、以下の2つの種類があります。

### 致命的アラート

ダッシュボードアラート	管理名	トリガーするイベント
ベンダーデーモンが停止しました	ベンダーデー	ライセンスサーバーが予期せず、または管理者の操作で停止した

ダッシュボードアラート	管理の停止	トリガーするイベント
同時使用ライセンスの有効期限が切れました	全同時使用ライセンス発行	すべての同時使用ライセンスがチェックアウトされた
product_nameのライセンス有効期限が切れました	同時使用ライセンスの失効	ライセンスの有効期限が切れました。カスタマーサクセスサービスが適用されない種類のライセンスでは、有効期限が切れても問題ありません。例えば、スタートアップライセンスや評価版ライセンスは、カスタマーサクセスサービスが適用されないため、常に「有効期限切れ」です。ダッシュボードにカスタマーサクセスサービスの失効日が表示されていないライセンスでは、このアラートを無視できます。
カスタマーサクセスサービスの期限切れです	カスタマーサクセスサービスの期限切れです	カスタマーサクセスサービスの同時使用ライセンスの有効期限が切れました。

 重要アラート

アラートの名前	トリガーするイベント
同時使用しきい値の超過	チェックアウトされた同時使用ライセンスの割合（管理者がパーセンテージで指定）
同時使用ライセンスの	同時使用ライセンスの有効期限が切れるまでの日数（管理者が指定）



期限アラートの名前	<p>トリガーするイベント</p> <p>ライセンスのカスタマーサクセスサービス契約の有効期限が切れるまでの日数（管理者が指定）。カスタマーサクセスサービスが適用されない種類のライセンスでは、有効期限が切れても問題ありません。例えば、スタートアップライセンスや評価版ライセンスは、カスタマーサクセスサービスが適用されないため、常に「有効期限切れ」です。ダッシュボードにカスタマーサクセスサービスの失効日が表示されていないライセンスでは、このアラートを無視できます。</p>
サクセスサービスの期限	

アラートを表示するには

1. ダッシュボードビューで、赤い (X) アイコンをクリックすると致命的アラートが表示され、オレンジ色の [!] アイコンをクリックすると重要アラートが表示されます。
2. 各アラートの詳細を表示するには、一覧でそのアラートをクリックします。

アラートをクリアするには

各アラートは、その問題が解決されても自動的に解除されません。一覧からアラートをクリアするには、そのアラートのにある [X] アイコンをクリックします。

これにより、アラートが一覧から削除されます。

# ライセンスファイルの再割り当て

Nov 27, 2017

ライセンスファイルは、そのファイルを生成するときに指定したライセンスサーバーまたはハードウェアアプライアンス上でのみ使用できます。ライセンスファイルをホストするサーバーまたはアプライアンスの識別情報を変更する場合は、ライセンスファイルを再割り当てして新しい識別情報と一致させてください。

ここで、識別情報とは、ライセンスファイルに定義されている、そのライセンスファイルのホストを識別するための情報です。通常、この識別情報はライセンスサーバーのホスト名を指しますが、ハードウェアアプライアンス名、イーサネットアドレス（MACアドレス）、または完全修飾ドメイン名（FQDN）である場合もあります。

ライセンスファイルを再割り当てする必要があるのは、次のような場合です。

- ライセンスサーバーの名前を変更する。
- ライセンスファイルを別の名前のサーバーに移動したい。
- 当初テスト環境を構築するために使用したライセンスを、異なるライセンスサーバーで再利用したい。

新しい識別情報によるライセンスの再割り当て時に追加のライセンスが必要になることはありません。この再割り当て操作は、ライセンスの識別情報を変更されるだけです。

ライセンス管理コンソールでライセンスファイルを再割り当てする

1. Webブラウザで、<https://ls:8083>にアクセスします。
2. **[管理]** をクリックし、**[ベンダーデーモン設定]** タブをクリックします。
3. **[ライセンスのインポート]** を選択します。
4. **[My Account]** リンクを選択します。
5. My Accountのページが開いたら、ユーザーIDとパスワードを入力します。
6. **[All Licensing Tools]** を選択します。
7. メインメニューから、**[Reallocate]** を選択します。
8. 再割り当てするライセンスのチェックボックスをオンにして**[Continue]** をクリックします。
9. 指示に従って、新しいファイルに再割り当てする（および新しいライセンスサーバーに関連付ける）ライセンスを選択し、ライセンスファイルをダウンロードします。
10. 一時的な場所にファイルを保存します。ファイル名およびダウンロード先を忘れないようにしてください。後で必要になります。
11. ライセンス管理コンソールの**[ライセンスファイルのインポート]** ページに戻り、**[参照]** をクリックしてライセンスファイルを指定します。
12. MyFilesに直接コピーした場合、またはファイル名が既存のファイルの名前と同じ場合は、**[ライセンスサーバー上のライセンスファイルを上書きする]** チェックボックスをオンにします。
13. **[ライセンスのインポート]** を選択します。
14. **[ベンダーデーモン設定]** タブを選択し、Citrixベンダーデーモン行の**[管理]** リンクを選択します。
15. **[ライセンスファイルの再読み込み]** を選択します。これにより、新しいファイルがライセンスサーバーにより認識されます。

# ライセンスファイルの置き換え（再ダウンロード）

Nov 27, 2017

バックアップライセンスファイルは、生成したライセンスファイルのコピーです。ライセンスファイルを破損または削除してしまった場合は、バックアップファイルをダウンロードできます。[By Host] または [By Allocation] タブを使用することにより、ライセンスの再ダウンロード方法を選択できます。

1. Webブラウザで、<https://ls:8083>にアクセスします。
2. [管理] をクリックし、[ベンダーデーモン設定] タブをクリックします。
3. [ライセンスのインポート] を選択します。
4. [My Account] リンクを選択します。
5. My Accountのページが開いたら、ユーザーIDとパスワードを入力します。
6. [All Licensing Tools] を選択します。
7. メインメニューから、[Redownload] を選択します。
8. すべてのページのすべての項目を選択するには[Select All] をクリックします。そのページのすべての項目を選択するには [Page] チェックボックスをオンにします。または、ダウンロードするライセンスのチェックボックスをオンにします。
9. [Download] を選択して、一時フォルダーにファイルを保存します。ファイル名とファイルをダウンロードした場所を記録しておいてください。後で必要になります。
10. 上記のMyFilesフォルダーに直接コピーした場合、またはファイル名が既存のファイルの名前と同じ場合は、[ライセンスサーバー上のライセンスファイルを上書きする] チェックボックスをオンにします。
11. [ライセンスのインポート] を選択します。
12. [ベンダーデーモン設定] タブを選択し、Citrixベンダーデーモン行の[管理] リンクを選択します。
13. [ライセンスファイルの再読み込み] を選択します。これにより、新しいファイルがライセンスサーバーにより認識されます。

# セキュリティ

May 22, 2017

ライセンス管理コンソールおよびWeb Services for Licensingのセキュリティを向上させるために、以下の手段について検討してください。

- コンソールのWebサーバー通信にはHTTPSを使用します。新しいインストールではHTTPSがデフォルトです。アップグレードしている場合、これが必要な場合があります。
- ダッシュボードビューを開くときにログオンを要求する。
- ユーザーセッションのタイムアウトを設定する。
- 管理コンソールのパスワードを変更する。

## HTTPSを使用してサーバー証明書ファイルとキーファイルを設定する

新しくインストールする場合、デフォルトでライセンスサーバーはライセンス管理コンソール（ポート8082）およびWeb Services for Licensing（ポート8083）でHTTPSを使用します。Webブラウザーはライセンス管理コンソールおよびCitrix Licensing Managerを使用します。Delivery Controller、Studio、およびDirectorは、Web Services for Licensingを使用します。HTTPSの場合、ライセンスサーバーはWebブラウザー、Delivery Controller、StudioまたはDirectorの設定に応じてTLS 1.0、TLS 1.1、またはTLS 1.2を選択します。

TLSバージョンまたはTLS暗号スイートの構成はライセンスサーバー内ではサポートされていません。

HTTPSを使用する場合は、有効なサーバー証明書が必要です。インストール中、自己署名証明書が生成されますが、ユーザーが作成することもできます。詳しくは、「[Citrix Licensing ManagerおよびWeb Services for Licensingにより使用される証明書の手動インストール](#)」を参照してください。

## ダッシュボードビューを開くときにログオンを要求するには

管理者ユーザーがダッシュボードビューを開くときにパスワードを入力させることで、ライセンス管理コンソールをよりセキュアにすることもできます。管理ビューを開く場合は、すべての管理者ユーザーがパスワードを入力する必要があります。

1. [管理] をクリックし、[サーバー構成] タブをクリックします。
2. [ユーザーインターフェイス] バーをクリックします。
3. [ダッシュボードを開くときにログオンを要求する] チェックボックスをオンにします。

## セッションタイムアウトを設定するには

非アクティブの状態が一定時間続いた場合に、その管理者ユーザーをライセンス管理コンソールからログオフさせることができます。これにより、管理コンソールがログオン状態のまま放置されることを避けることができます。

1. [管理] をクリックし、[サーバー構成] タブをクリックします。
2. [Webサーバー構成] バーをクリックします。
3. [セッションタイムアウト] ボックスに、タイムアウト値を分単位で入力します。ここで指定した時間非アクティブの状態が続くと、セッションがログオフします。指定可能な最大値は、99999（69日と10時間39分）です。

## 管理コンソールのパスワードの変更

ライセンス管理コンソールを使用するためのパスワードは、必要に応じて変更できます。

注：Windowsライセンスサーバーでは、Active DirectoryユーザーおよびローカルのWindowsユーザーのパスワードを変更することはできません。Active DirectoryユーザーおよびローカルのWindowsユーザーのパスワードは、オペレーティングシステム側の機能を使用して変更できます。Windowsでは、ローカルで管理されるユーザーとしてログインすると、画面右下

に [パスワードの変更] リンクが表示されます。

Windows Active Directory ユーザー/管理者としてログオンすると、[パスワードの変更] リンクは画面右下に表示されません。Active Directoryユーザーはサポートされません。

1. 管理コンソール右下の [パスワードの変更] をクリックします。パスワードが不要なダッシュボードビューでは、[パスワードの変更] が表示されません。管理コンソール右上の [管理] をクリックすると、リンクが表示されます。
2. 現在のパスワードを入力します。
3. 新しいパスワードを2回入力します。

パスワードを忘れた場合は、ライセンス管理コンソールの管理者に連絡して新しいパスワードを入手してください。

# システム情報およびログ

May 22, 2017

## システム情報

ライセンスサーバーおよびそれを実行するシステムに関する情報を表示できます。ライセンス管理コンソールの右上、[システム情報] タブの [管理] オプションには、以下の情報が表示されます。

でのデータソース名	説明
リリースバージョン	ライセンスサーバーのバージョンです。
使用中のライセンスサーバーマネージャーポート	ライセンスサーバーがCitrix製品との通信で使用するポート番号です。
表示	Windowsシステムでは、表示はシステム名またはターミナルサーバーのクライアント名（ターミナルサーバー環境の場合）です。 UNIXシステムでは、表示はX-Display名、またはttyname()ファンクション（またはその互換ファンクション）で返される値です。
ホスト名	ライセンスサーバーをホストするコンピューターの名前です。
ホストのドメイン名	ライセンスサーバーをホストするコンピューターの完全修飾名です。
IPv4アドレス	ライセンスサーバーをホストするコンピューターのIP Version 4アドレスです。IPv4アドレスは、IPv4が有効なコンピューターでのみ表示されます。
IPv6アドレス	ライセンスサーバーをホストするコンピューターのIP Version 6アドレスです。IPv6アドレスは、IPv6が有効なコンピューターでのみ表示されます。
イーサネットアドレス	ライセンスサーバーをホストするコンピューターのMACアドレスです。
サーバーのローカルでの停止の許可	[[はい] か [いいえ] を表示します。 [いいえ] の場合、lmdownユーティリティやライセンス管理コンソールを使ってローカルのライセンスサーバーを停止することはできません。このプロパティを変更するには、コマンドラインオプション-allowStopServerを指定してライセンスサーバーマネージャー (lmadmin) を実行します。デフォルトで無効。
サーバーのリモートでの停止の許可	[[はい] か [いいえ] を表示します。 [いいえ] の場合、lmdownユーティリティやライセンス管理コンソールを使ってローカルのライセンスサーバーを停止することはできません。デフォルトで無効。

可	

## ログ

ログファイルは、以下のフォルダーに作成されます。

- 32ビットサーバー : C:\Program Files\Citrix\Licensing\LS\Logs
- 64ビットサーバー : C:\Program Files(x86)\Citrix\Licensing\LS\Logs
- 64ビットサーバー : C:\Program Files (x86)\Citrix\Licensing\WebServicesForLicensing\Logs
- VPX : /opt/citrix/licensing/LS/logs

ログ	ファイル名	表示方法	内容
ライセンスサーバーログ	lmadmin.log	[サーバー設定] > [ログ]	ライセンスサーバー、管理コンソール、および管理者のアクティビティ
ベンダーデーモンログ	citrix.log	[ベンダーデーモン設定] > [ベンダーデーモンログ]	ライセンスのアクティビティ
アクセスログ	access.log	logsフォルダー	HTTPアクセスイベント 注：このログは、サポート担当者がデバッグ目的でのみ使用します。
Webログ	web.log	logsフォルダー	Webサーバーの情報 注：このログは、サポート担当者がデバッグ目的でのみ使用します。

以前のバージョンのライセンスサーバー (Version 11.6.1よりも古いもの) には、レポートログ機能が用意されていました。このバージョンのライセンス管理コンソールには、レポートログ機能がありません。従来のレポートログファイルを更新するには、このファイル (**reportlog.rl**) をlogsフォルダーに移動して、さらにオプションファイルを編集する必要があります。

C:\Program Files\Citrix\Licensing\LS\reportlog.rl (Windowsの場合)

または

/opt/citrix/licensing/LS/reportlog.rl (ライセンスサーバーVPXの場合)

ライセンスサーバーログを表示したり設定したりするには

1. [管理] ビューを開き、[サーバー設定] ページの [ログ] バーをクリックします。
2. [ログファイルを表示] をクリックします。
3. ログに記録する内容のレベルを変更するには、[ログレベル] ボックスの一覧で、記録する情報の種類を選択します。  
注：サポート担当者からの指示があった場合を除き、デフォルトの [情報] のままにしておくことをお勧めします。

ベンダーデーモンログを表示するには

以下の手順により、ベンダーデーモンログの最新の200行が表示されます。すべての内容を確認するには、以下のフォルダーのcitrix.logを開いてください。

\\Program Files\Citrix\Licensing\LS\Logフォルダー (Windowsの場合)

または

/opt/citrix/licensing/LS/logsフォルダー (ライセンスサーバーVPXの場合)

1. [管理] ビューを開き、[ベンダーデーモン設定] 画面で [CITRIX] 行の [管理] をクリックし、[ベンダーデーモンログ] バーをクリックします。
2. [ログファイルを表示] を選択します。

ベンダーデーモンログを設定するには

1. [管理] ビューを開き、[ベンダーデーモン設定] ページで [ベンダーデーモンログ] バーをクリックします。
2. ファイルを上書きするか、追記するかを選択します。

オプション	説明
ベンダーデーモンログを上書きする	Citrix Licensingサービスまたはベンダーデーモンを再起動するたびに、既存のログファイルが上書きされます。このチェックボックスをオフにすると、既存のログファイルの末尾に新しい内容が追記されます。
ベンダーデーモンログの場所	ログの格納先フォルダーを変更することは推奨されません。

3. [Save] をクリックします。
4. [ベンダーデーモンのアクション] の下の [停止] をクリックします。
5. [ベンダーデーモン設定] ページで [管理] をクリックし、[Vendor Daemon Actions] 配下で [開始] をクリックします。



# コンソールを使用しない管理

Feb 26, 2018

Citrix Licensing Managerまたはライセンス管理コンソールを使用せずに実行できる管理手順もあります。可能な限り、適切なコンソールを使用することをお勧めします。ここでは、コンソールを使用できない場合に必要な手順について説明します。

- ライセンスファイルの結合
- ライセンスファイルの削除
- Windowsでのドメイン名切り捨ての無効化
- ライセンスサーバーVPXでのドメイン名切り捨ての無効化
- ライセンスファイルのインストール
- ライセンスサーバーVPXの古いバージョンからのライセンスファイルの移動
- ライセンスファイルの再割り当て
- ライセンスファイルの再ダウンロード
- カスタマーサクセスサービスの更新ファイル

## ライセンスファイルの結合

1. Webブラウザで、<http://www.citrix.com>にアクセスします。
2. **[My Account]** をクリックしてユーザーIDとパスワードを入力します。
3. **[All Licensing Tools]** を選択します。
4. メインメニューから、**[Redownload]** を選択します。
5. あるホストIDに割り当てられたすべての指定ライセンスを一行の項目に自動的に結合するには、**[By Host]** タブをクリックします。すべてのページのすべての項目を選択するには **[Select All]** をクリックし、そのページのすべての項目を選択するには **[Page]** チェックボックスをオンにします。または、ダウンロードするライセンスのチェックボックスをオンにします。
6. **[Download]** をクリックして一時フォルダーにファイルを保存します。ファイル名およびダウンロード先を忘れないようにしてください。後で必要になります。
7. コマンドプロンプトでインストールファイルを含んでいるフォルダーに移動して、次のコマンドを実行します。

```
lmreread -c @localhost -all
```

## カスタマーサクセスサービス

カスタマーサクセスサービスの更新ライセンスファイルをcitrix.comからダウンロードした後で、このファイルをライセンスサーバーに追加する必要があります。カスタマーサクセスサービスの更新ライセンスを既存のライセンスファイルと同じフォルダーにコピーし、再読み込みを実行します。デフォルトでこの場所は、<C>:\Program Files\Citrix\Licensing\MyFiles (32ビットサーバー)、<C>:\Program Files (x86)\Citrix\Licensing\MyFiles (64ビットサーバー)、または/opt/citrix/licensing/LS (ライセンスサーバーVPX) です。更新ライセンスをライセンスサーバーに追加すると、対象製品について、カスタマーサクセスサービスの契約期間中にリリースされるすべてのアップグレードバージョンが自動的に有効になります。

## カスタマーサクセスサービス契約の部分的な更新

XenDesktop Version 7.14と7.16を混在させているなど、環境内で2つの異なるリリースの製品を実行していて、一部のライセンスのカスタマーサクセスサービス契約を更新しない予定である場合は、製品ライセンスを2台のライセンスサーバーに分けて管理することをお勧めします。カスタマーサクセスサービスは、最初に古い製品バージョンに適用されます。

例えば、バージョン7.14用に200ユーザーライセンスを所有し、このうちの100ユーザーライセンスだけをカスタマーサクセ

サービスで更新する場合は、7.14に必要な100ユーザー分の更新ライセンスが、7.16を実行するコンピューターへの接続により消費される可能性があります。

## 2台のサーバーに異なるライセンスファイルを格納してライセンスを分離するには

1. 2台目のサーバーを選択してライセンスサーバーソフトウェアをインストールします。
2. citrix.comにアクセスして、1台目のライセンスサーバー上の現在のライセンスファイルに含まれている元のライセンスを、2つの新しいファイルに再割り当てします。
  - ライセンスを、バージョン7.14の展開で使用する1台目のサーバーに割り当てます。
  - 別のライセンスファイルを作成するライセンスを、バージョン7.16の展開で使用する2台目のサーバーに割り当てます。
3. カスタマーサクセスサービスの更新ライセンスファイルを生成しダウンロードします。そして、それぞれのファイルを適用するサーバーにコピーします。
4. シトリックス製品の各バージョンが動作するすべてのコンピューターを、それぞれ対応するライセンスサーバーを参照するように設定します。ライセンスサーバーを参照するようにシトリックス製品を設定する方法については、シトリックス製品の管理者ガイドを参照してください。

## ライセンスファイルの削除

製品のエディションをアップグレード（Advanced EditionからEnterprise Edition、またはEnterprise EditionからPlatinum Editionへのアップグレードなど）すると、新しいシトリックス製品ライセンスが送付されます。citrix.comでこのライセンスを使用してライセンスファイルを生成し、それをCitrixライセンスサーバーに割り当てることができます。不要になったライセンスは、新しいライセンスの購入から90日以内にライセンスサーバーから削除する必要があります。ライセンスの削除には、以下の理由があります。

- ライセンス資産を正しく管理するため。
- ライセンス契約に準拠するため。
- 不必要な警告メッセージがライセンス管理コンソールに表示されないようにするため。

## ライセンスファイルを削除するときの考慮事項

- 必要なライセンスファイルを誤って削除すると、使用可能なライセンスの数が少なくなります。
- 新しいライセンスファイルをライセンスサーバーにインポートしてから、不要なライセンスファイルを削除してください。
- ライセンスファイルに記述されているすべてのINCREMENT行が不要になった場合は、そのファイルを削除できます。たとえば、アップグレードの適用により各INCREMENT行が新しいライセンスに置き換えられた場合は、以下の手順でそのファイルをライセンスサーバーから削除します。
- ライセンス管理コンソールを使用してライセンスファイルを追加した場合は、削除したファイルのためにコンソールのユーザーインターフェイスを更新する必要があります。

## Important

オプションファイル (citrix.opt) やスタートアップライセンス (citrix\_startup.lic) は削除しないでください。

1. ライセンスサーバーで [サービス] コントロールパネルを開き、[Citrix Licensing] サービスを停止します。
2. Windowsエクスプローラーで、ライセンスファイルの格納場所を開きます。ライセンスファイルは、以下の場所に格納されます。
  - 32ビットサーバー : <C>:\Program Files\Citrix\Licensing\MyFiles
  - C64ビットサーバー : \Program Files(x86)\Citrix\Licensing\MyFiles

- ライセンスサーバーVPX : /opt/citrix/licensing/myfiles
3. すべてのライセンスファイルをバックアップします。
  4. テキストエディター（Windowsのメモ帳など）を使用して各ライセンスファイルを開き、不要なライセンスのINCREMENT行を特定します。
  5. すべてのINCREMENT行が不要であることを確認します。INCREMENT行について詳しくは、[ライセンスファイルの形式](#)を参照してください。
  6. ファイルを閉じて、拡張子を.licから.oldに変更します。
  7. [サービス] コントロールパネルを開き、[Citrix Licensing] サービスを起動します。

## Windowsでのドメイン名切り捨ての無効化

### 警告

レジストリエディターの編集を誤ると、深刻な問題が発生する可能性があります、Windowsの再インストールが必要になる場合もあります。レジストリエディターの誤用による障害に対して、Citrixでは一切責任を負いません。レジストリエディターは、お客様の責任と判断の範囲でご使用ください。また、レジストリファイルのバックアップを作成してから、レジストリを編集してください。

異なるドメインに同じユーザー名を持つ複数のドメインと複数のユーザーをホストする場合 **jack@mycompany.com** と **jack@newplace.com**）、ドメイン名の切り捨てを有効にすることができます。さまざまなドメインに一意のユーザーが存在する場合、ライセンスサーバーが「@domain.com」を切り捨てないように確認してください。

ライセンスサーバーによってCitrix Service Providerライセンスが検出され、この機能が有効になります。

1. 以下のレジストリキーを検索します。  
32ビットマシンの場合：HKLM\Software\citrix\licenseserver

64ビットマシンの場合：HKLM\Software\Wow6432Node\citrix\licenseserver

値の名前：UDUseDomain

2. 値のデータとして、1を設定します。

データ	説明
0	ドメイン名が切り捨てられます（デフォルト）
1	ドメイン名が切り捨てられません

## CitrixライセンスサーバーVPXでのドメイン名切り捨ての無効化

ライセンスサーバーによってCitrix Service Providerライセンスが検出され、この機能が有効になります。

1. コマンドラインで、/opt/citrix/licensing/LS/conf/ud\_settings.confファイルを開きます。
2. viエディターを使用して、CTX\_UD\_USERDOMAINを1に設定します。
3. ライセンスサーバーVPXまたはCitrixライセンスサーバーデーモンを再起動します。

設定	説明
	ユーザープロファイルのユーザードメインを使用します。ドメイン名切り捨ては無効化され

CTX_UD_USERDOMAIN=1	ます。
CTX_UD_USERDOMAIN=0	ユーザープロファイルのユーザードメインを使用しません。(デフォルト)

## ライセンスファイルのインストール

1. Webブラウザで、<http://www.citrix.com>にアクセスします。
2. **[My Account]** をクリックしてユーザーIDとパスワードを入力します。
3. **[All Licensing Tools]** を選択します。
4. メインメニューから、**[Allocate]** を選択します。
5. 画面の指示に従って、ライセンスを割り当ててライセンスファイルを生成します。
6. ダウンロードするライセンスを選択して**[Download]** をクリックし、ファイルをフォルダーに保存します。
7. ライセンスサーバーで、ライセンスファイルを保存したフォルダーから次のmyfilesフォルダーにコピーします。  
C:\Program Files\Citrix\Licensing\MyFiles (32ビットシステム)  
C:\Program Files (x86)\Citrix\Licensing\MyFiles (64ビットシステム)  
/opt/citrix/licensing/myfiles (ライセンスサーバーVPX)

## ヒント

ライセンスファイル名の拡張子は、常に「.lic」（小文字のみ）である必要があります。コピー手段によっては、ライセンスファイルのファイルタイプが正しく認識されず、拡張子「.txt」が追加される場合があります。ライセンスファイルのファイル拡張子が不正な場合、ライセンスサーバーにインポートできません。

コマンドプロンプトで次のフォルダーに移動します。

- 32ビットサーバー : C:\Program Files\Citrix\Licensing\LS
- 64ビットサーバー : C:\Program Files(x86)\Citrix\Licensing\LS
- ライセンスサーバーVPX : /opt/citrix/licensing/LS

次に、**lmreread -c @localhost -all**を実行します。

## ライセンスサーバーVPXの古いバージョンからのライセンスファイルの移動

このプロシージャーはライセンスファイルのみを移動します。新しいライセンスサーバーですべてのユーザーを再構成します。移動するライセンスファイルに適切な所有権と権限があるか確認してください。

1. ライセンスファイルを古いCitrixライセンスサーバーVPXからネットワーク共有にバックアップします。  
すべての\*.licライセンスファイル : **/opt/citrix/licensing/myfiles/citrix\_startup.lic**を除く
2. 古いライセンスサーバーを終了します。
3. 新しいCitrixライセンスサーバーVPXに古いものと同じバインドでサインアップします。  
バインドは、ライセンスファイルのSERVER行で指定されたMACアドレスまたはホスト名またはIPアドレスです。
4. ネットワーク共有から新しいライセンスサーバーにバックアップライセンスを復元します。ファイルを次の場所に復元 :  
**/opt/citrix/licensing/myfiles/ctxlsuser:lmadmin(user:group)**のファイル所有権および**644**権限付き
5. **ctxlsuser**としてこのコマンドを実行 : **/opt/citrix/licensing/LS/lmreread -c @localhost**

## ライセンスファイルの再割り当て

1. Webブラウザで、<http://www.citrix.com>にアクセスします。

2. **[My Account]** を選択してユーザーIDとパスワードを入力します。
3. **[All Licensing Tools]** を選択します。
4. メインメニューから、**[Reallocate]** を選択します。
5. 再割り当てするライセンスのチェックボックスをオンにして**[Continue]** をクリックします。
6. 指示に従って、新しいファイルに再割り当てする（および新しいライセンスサーバーに関連付ける）ライセンスを選択し、ライセンスファイルをダウンロードします。
7. 一時的なフォルダーにファイルを保存します。ファイル名およびダウンロード先を忘れないようにしてください。後で必要になります。
8. コマンドプロンプトでインストールファイルを含んでいるフォルダーに移動して、次のコマンドを実行します。

```
lmreread -c @localhost -all
```

#### ライセンスファイルの再ダウンロード

1. Webブラウザで、<http://www.citrix.com>にアクセスします。
2. **[My Account]** をクリックしてユーザーIDとパスワードを入力します。
3. メインメニューから、**[Redownload]** を選択します。
4. すべてのページのすべての項目を選択するには**[Select All]** をクリックします。そのページのすべての項目を選択するには**[Page]** チェックボックスをオンにします。または、ダウンロードするライセンスのチェックボックスをオンにします。
5. **[Download]** を選択して、一時的な場所にファイルを保存します。ファイル名とファイルをダウンロードした場所を記録しておいてください。後で必要になります。
6. コマンドプロンプトでこのフォルダーに移動して、次のコマンドを実行します。

```
lmreread -c @localhost -all
```

# ライセンスコマンド

Feb 26, 2018

ライセンス管理コンソールを使用すると、多くのライセンス管理タスクを簡単に実行できます。一方、コマンドプロンプトで使用するライセンス管理コマンドでは、管理コンソール上で実行できるタスクに加え、さらに詳細なライセンス管理を行います。たとえば、lmdiagコマンドでは、ライセンスのチェックアウト時の問題を診断することができます。

ライセンス管理コマンドは、次のフォルダーに配置されます。

- C32ビットサーバー : \Program Files\Citrix\Licensing\LS
- C64ビットサーバー : \Program Files(x86)\Citrix\Licensing\LS
- ライセンスサーバーVPX : /opt/citrix/licensing/LS

## コマンド一覧

コマンド	説明
lmadmin	ライセンスの構成を行います。ライセンスの構成および管理タスクについては、 <a href="#">ライセンス管理コンソール</a> を使用し、lmadminコマンドは使用しないでください。
lmdiag	ライセンスのチェックアウト時の問題を診断します。
lmdown	License ManagerデーモンとCitrixベンダーデーモンを正しく停止します（デフォルトでは無効になっています）。
lmhostid	ライセンスサーバーの名前を表示します。
lmreread	License Managerデーモンにライセンスファイルを再読み込みさせて、Citrixベンダーデーモンを起動します。
lmstat	ライセンスサーバーの状態を表示します。
lmutil	ライセンス管理コマンドの一覧を表示したり、ほかのコマンドを実行したりします。
lmver	ライセンスサーバーのバイナリファイルのバージョン情報を表示します。
udadmin	ライセンス済みのすべてのユーザーとデバイスを表示し、特定のユーザーとデバイスを削除します。このコマンドはユーザーまたはデバイスライセンスにのみ適用します。

## ライセンス管理コマンドの表記規則

ライセンス管理コマンドの表記規則は以下のとおりです。

表記規則	説明
太字	コマンドまたはオプションを示します (lmstatなど)。

表記規則	説明 メーターを示します。たとえば、次のような構文で使 用します。 lmstat -clicense_file_list
	実際にコマンドを実行するときは、<license_file_list>を1つ以上のライセンスファイルの名前に置き換えます。
[半角の角かっこ]	コマンドに追加できるオプション項目を示します。

## 共通のオプション

次の表は、ライセンス管理コマンドの多くで使用されるオプションを示します。

引数	説明
-all	ネットワーク上にあるすべてのライセンスサーバーにコマンドが適用されます。
-c	ライセンスファイルまたはライセンスサーバーのポートとホスト名を指定します。 ライセンスファイルのファイル名を記述せずにパスのみを指定した場合、そのフォルダーのすべてのライセンスファイルにコマンドが適用されます。  ローカルホストの指定： -c @  リモートのライセンスサーバーの指定： -c @<servername >  クラスター内のライセンスサーバーの指定： -c @<clientaccesspointname >  パスの指定： -c <path >  ライセンスファイルの名前の指定： -c <license_file_list >  複数のライセンスファイルを指定する場合は、各パスをセミコロン (;) で区切ります。  パスにスペースが含まれる場合は、二重引用符 (") で囲む必要があります。
-h	ライセンスハンドルを指定します。この情報は、lmstat -aコマンドで確認できます。ライセンスハンドルとは、チェックアウトされたライセンスを識別するための番号を指します。
-help	コマンドの使用方法を表示します。
-s [server]	パラメーターで指定したサーバーのライセンスファイルの情報を表示します。server特定のサーバーを指定しない場合、すべてのライセンスサーバーが対象になります。
- verbose	検出されたすべてのエラーの詳細な説明を表示します。

## チェックアウト時の問題の診断 (lmdiag)

lmdiagコマンドを使用すると、ライセンスをチェックアウトできないときの問題を診断できます。特に、ライセンスが有効で、ライセンスサーバーの動作に問題がないかどうかをテストできます。ライセンスサーバー上でこのコマンドを実行すると、

ライセンスのチェックアウトが試行されます。

また、lmdiagコマンドを使用して、特定の種類のライセンスが正しく動作しているかどうかについて確認することもできます。たとえば、MPS\_ADV\_CCUを引数として指定すると、Citrix XenApp, Advanced Editionの製品ライセンスのみを対象にしてlmdiagコマンドを実行できます。

## 構文

`lmdiag -c license_file_list [-n] [feature[:keyword=value]]`

引数	説明
-c license_file_list	診断するファイルを指定します。-c @localhostまたは-c @<server-name>を使用することもできます。
-n	非インタラクティブモードで実行します。このモードでは、lmdiagの実行時に入力が必要ありません。
feature	診断する製品ライセンスを指定します。
属性名=value	対象となる製品ライセンスの属性を指定します。ライセンスファイルで、1つの製品に対して複数の行が記述されている場合に、対象となる行を特定します。例： lmdiag -c @localhost MPS_ENT_CCU:HOSTID=LICSERV01 この場合、ホストIDが"LICSERV01"であるライセンスのチェックアウトが試行されます。  属性名として指定できるのは、VERSION、HOSTID、EXPDATE、KEY、VENDOR_STRING、およびISSUERです。

featureパラメーターを指定しない場合、すべての製品ライセンスに対してlmdiagコマンドが実行されます。lmdiagコマンドは、指定したライセンスの情報を表示した後、各ライセンスをチェックアウトします。チェックアウトに成功すると、lmdiagコマンドにより成功したことが表示されます。チェックアウトに失敗すると、lmdiagコマンドによりその理由が表示されます。lmdiagコマンドを実行すると、ライセンスサーバー上のすべてのTCP/IPポートへの接続が試行されます。これにより、ライセンスファイルで指定されているポート番号が正しいかどうか診断され、lmdiagによりリスニング中のTCP/IPポート番号が一覧表示されます。-c< license\_file\_list>を指定した場合は指定したファイルが診断されます。

lmdiagコマンドでは、ライセンスのチェックアウトを試行するときに、シトリックス製品が動作するサーバーへの接続は行いません。lmdiagコマンドで診断できるのはライセンスサーバー上の問題だけです。つまり、シトリックス製品が不正なライセンスサーバー（その製品の正しいライセンスが格納されていないライセンスサーバーなど）に接続しているために発生する問題は、lmdiagコマンドでは診断できません。このため、シトリックス製品側で接続先のライセンスサーバーが正しく設定されていない場合でも、lmdiagコマンドでは正しくチェックアウトできたことを示すメッセージが表示されます。

### デーモンの停止 (lmdown)

lmdownコマンドを使用すると、ライセンスサーバー上のLicense ManagerデーモンとCitrixベンダーデーモンを停止できますが、このコマンドはデフォルトで無効になっています。有効にするには次の手順に従います。

1. ライセンスサービスを停止します。
2. lmdadmin - allowStopServerおよび/または-allowRemoteStop Serverを実行します。
3. ライセンスサーバーを再起動します。



## 構文

lmdown -c license\_file\_list [-vendor CITRIX] [-q] [-all]

引数	説明
-c @localhost または -c@server または -c license_file_list	ライセンスファイルを指定します。lmdownコマンドでは、常にこのオプションおよびパラメーターを指定してください。-c @localhostまたは-c @server-nameを使用することもできます。
-vendor CITRIX	Citrixベンダーデーモンだけを停止します。License Managerデーモンは停止されません。
-q	非インタラクティブモードで実行します。そうでない場合は、lmdownが「Are you sure? [y/n]:」を表示します。
-all	複数のサーバーが指定されると、すべてが自動的にシャットダウンされます。-qオプションは-allオプションに含まれます。

lmdownコマンドは、ライセンスサーバー上で実行する必要があります。-allオプションを使用して、ネットワーク上のすべてのライセンスサーバーを停止できます。

lmdownコマンドに複数のサーバーを指定し（cオプションで指定したパスに複数のライセンスファイルがある場合など）、-allオプションを指定しなかった場合は、停止するライセンスサーバーの選択肢が表示されます。-cオプションを使用して、ライセンスサーバーの名前を指定すれば、リモートのライセンスサーバーを停止できます。

注：WindowsのタスクマネージャーでCitrix Licensingサービスを終了する場合は、License Managerデーモン（lmgrd.exeプロセス）を停止してから、Citrixベンダーデーモン（CITRIX.exeプロセス）を停止してください。

Citrixベンダーデーモンだけを停止して再起動するには、lmdown -c @localhost -vendor CITRIXを実行してから、lmreread -c @localhost -vendor CITRIXを実行します。

### ホスト名の確認 (lmhostid)

lmhostidコマンドを使用すると、そのライセンスサーバーのホストIDが表示されます。このコマンドを使用して、ライセンスサーバーのホスト名を確認できます。ライセンスファイルにライセンスサーバーのホスト名が正しく記述されているかどうかを確認することができます。

注：Citrixライセンスサーバーfor WindowsのVersion 11.5以降では、複数のライセンスサーバーがある環境で複数のホストIDが表示されます。

## 構文

lmhostid -<bindingidentifier>

>

引数 (<bindingidentifier>)	説明
-ether	アプライアンスのMACアドレスに関連付けられた製品ライセンスで使用します。

引数	説明
<code>-i &lt;bindingidentifier&gt;</code>	TCP/IPアドレスが必要な、Windowsベースのシトリックス製品ライセンスで使用します。
<code>-hostname</code>	ライセンスサーバーのホスト名 (<hostname>) に関連付けられたWindowsベースのシトリックス製品ライセンスで使用します。 注：ライセンスファイルに記述されているホスト名 (hostname) は、ライセンスサーバーの名前と同じである必要があります (大文字と小文字が区別されます)。

## ライセンスファイルおよびオプションファイルの再読み込み (Imreread)

Imrereadコマンドを使用すると、ライセンスファイルやオプションファイルをCitrixベンダーデーモンで再読み込みできます。ライセンスファイルやオプションファイルが再読み込みされると、Citrixベンダーデーモンで新しいファイルが使用されます。

Imrereadコマンドをリモートで実行することはできません。対象となるデーモンが動作しているライセンスサーバー上でこのコマンドを実行します。

## 構文

```
Imreread -c < license_file_list> [-all] [-vendor CITRIX]
```

引数	説明
<code>-c @localhost</code> または <code>-c &lt;license_file_list&gt;</code>	ライセンスファイルを指定します。
<code>-all</code>	複数のImgrdが指定されている場合、すべてのライセンスマネージャーデーモンで再読み込みを行います。
<code>-vendor CITRIX</code>	Citrixベンダーデーモンを再起動します。

## 例

- `Imreread -c @localhost [-all]`
- `Imreread -c @<client_access_point_name >`
- `Imreread -c /opt/citrix/licensing/myfiles/CITRIX.lic -vendor CITRIX`

## ライセンス管理コマンド一覧の表示 (Imutil)

スタンドアロンで使用する場合、Imutilコマンドを実行すると、ライセンス管理コマンドが表示されます。Imutilにほかのコマンドを付けて指定すると、そのコマンドが実行されます。

## 構文

```
Imutil
Imutil other_command
```

## 例

- `lmutil`  
すべてのライセンス管理コマンドを表示します。
- `lmutil lmstat -c @localhost`  
`lmstat`コマンドを実行します。

## ライセンスの使用状況の確認 (lmstat)

`lmstat`コマンドは、ネットワーク上のライセンスの使用状況を監視するときに便利なツールで、以下のライセンスチェックアウト情報を確認できます。

- ライセンスをチェックアウトしている製品
- チェックアウトデータ
- ライセンスファイルのバージョン
- ライセンスサーバーの名前とポート番号
- ライセンスのチェックアウト日時
- Citrixベンダーデーモンの状態や、ライセンスファイルの情報

`lmstat`コマンドでは、ライセンスサーバーから取得した情報が表示されます。複数の接続によりライセンスが共有されている場合でも、`lmstat`コマンドでは使用ライセンス数1として表示されます。

## 構文

```
lmstat [-a] [-c< license_file_list>] [-f <feature>] [-i <feature>] [-s<server>] [-S [CITRIX]] [-t< timeout_value>]
```

引数	説明
<code>-a</code>	すべての情報を表示します。
<code>-c @localhost</code> または <code>-c@&lt;server&gt;</code> または <code>-c&lt; license_file_list &gt;</code>	使用するライセンスファイルを指定します。
<code>-f [feature]</code>	パラメーターで指定した製品ライセンスを使用している製品を表示します。featureを指定しない場合、すべての製品ライセンスが対象になります。
<code>-i [feature]</code>	featureで指定した製品ライセンスのINCREMENT行の情報を表示します。このパラメーターを指定しない場合、すべての製品ライセンスが対象になります。
<code>-s [server]</code>	serverで指定したサーバーのライセンスファイルの情報を表示します。このパラメーターを指定しない場合、すべてのライセンスサーバーが対象になります。
<code>-S [CITRIX]</code>	Citrixベンダーデーモンにより提供されているすべての製品ライセンスの使用サーバーを表示します。
<code>-t timeout_value</code>	接続タイムアウトパラメーターに<timeout_value>を設定します。lmstatコマンドがライセンスサーバーに接続するときのタイムアウトを設定します。

`lmstat -c@localhost -a`の出力は次のようになります。

```
License server status: 27000@license_server1
```

```
License files on license_server1: C:\Program Files\Citrix\Licensing\MyFiles\citrix_startup.lic:
```

```
C:\Program Files\Citrix\Licensing\MyFiles\citrixlic_20031001094430.lic:
```

license\_server1: license server UP (MASTER) v9.2

Vendor daemon status (on license\_server1):

CITRIX: UP v9.2

Feature usage info:

Users of CITRIX: (Total of 5000 licenses issued; Total of 1 license in use)

"CITRIX" v2002.0101, vendor: CITRIX

floating license

MPS mps\_server1 MPS MPS\_ENT\_2004.0227 (v1.0)

(license\_server1/27000 101), start Tue 3/16 16:59

Users of MPS\_ENT\_CCU: (Total of 30 licenses issued; Total of 1 license in use)

"MPS\_ENT\_CCU" v2004.1201, vendor: CITRIX

floating license

MPS mps\_server1 MPS 25fb337e:MPSCLIENT

(v2004.0227) (license\_server1/27000 203), start

Wed 3/17 11:56

このlmstatの出力でMPS\_ENT\_CCUの行に含まれる情報は次のとおりです。

MPS	citrix_product_name	ライセンスの対象製品です。
mps_server1	hostname	シトリックス製品サーバーの名前です。
MPS	display	ライセンスの対象製品です。
license_server1	server_host	ライセンスサーバーの名前です。
27000	port	ライセンスサーバーが使用するTCP/IPポートの番号です。
203	handle	ライセンスハンドルです。ライセンスハンドルとは、チェックアウトされたライセンスを識別するための番号を指します。
start Wed 3/17 11:56	checkout_time	このライセンスが最初にチェックアウトされた日時です。

注：多くのライセンスがチェックアウトされている環境では、lmstat -c@localhost -aコマンドにより多くのネットワークラフィックが発生する場合があります。

lmstat -aを実行すると、ライセンスのチェックアウト情報を確認できます。

バイナリのバージョンの表示 (lmver)

lmverコマンドを実行すると、ライセンス管理コマンドなど、指定したバイナリファイルのバージョン情報が表示されます。ただし、lmadminコマンドのバージョン情報は表示されません。このコマンドのバージョン情報を表示するには、lmadmin -versionを実行します。

## 構文

Imver binary

### 例

Imver lmdiag

#### ユーザーやデバイスの表示とライセンスの解放(udadmin)

udadminコマンドを使用すると、ライセンスが割り当てられたユーザーとデバイスを表示したり、特定のユーザーやデバイスのライセンスを解放したりできます。

ユーザーのライセンスの解放が必要になるのは、従業員が退職したり休職したりする場合です。デバイスのライセンスの解放が必要になるのは、デバイスが故障した場合などです。

注意：上記以外の理由により90日の自動解放期間の前に大量のライセンスを解放することは、Citrixのライセンス契約書に反する行為となる場合があります。事前にCitrixにお問い合わせください。

udadminのコマンドラインヘルプは英語のみで表示されますが、このコマンドは英語以外のシステムでも使用できます。

## ビルド23101以降の構文

udadmin [-options] [-delete | -events | -export | -list | -times]

オプション	説明
-f feature name	-listまたは-deleteとともに使用して、機能名で指定するユーザーまたはデバイスのライセンスを表示したり、解放したりします。
-user user name	ユーザー名で指定するユーザーのライセンスのみを解放します。
-device device name	デバイス名で指定するデバイスのライセンスのみを解放します。
-a	ライセンスサーバーにインストールされているすべての機能とバージョンを一覧表示します。
引数	説明
-delete	ユーザー、機能、またはデバイスのライセンスを一度に1つ解放します。
-events	各機能のユーザー/デバイスライセンスによって記録されたすべてのイベントを、時系列で並べ替えてレポートします。
-export	すべてのユーザー/デバイスデータを1つのCSVドキュメントにエクスポートします。最初の行は列のヘッダーです。これは機能、ユーザーの順で整理されています。すべての一意の項目 (user、deviceid、versionRequested) が1行で報告されます。同じ項目 (userid、deviceid、versionRequested) の

	余分なライセンス要求は個別には表示されません。タイムスタンプは、最新の要求で更新されます。
-list	ライセンスが割り当てられたユーザーとデバイスおよび最後の更新以来の時間を表示します。最後のレポートの15分間に重要なアクティビティが発生した場合は、次の更新までの時間が表示されます。-list -timesを指定すると、タイムスタンプを含む出力が生成されます。
-times	-list -timesを指定すると、タイムスタンプを含む出力が生成されます。
引数なしまたは?	udadminコマンドの使用情報を表示します。

## 例

- udadmin -list -a  
使用状況データは0分経過しています。次の更新は15分後です。  
  
ユーザー：  
  
u01.04 XDT\_ENT\_UD 2017.1201 (Thu Sep 14 13:41:07 2017)  
u01.01 XDT\_ENT\_UD 2017.1201 (木曜日Sep 14 13:41:07 2017)  
  
.  
.  
.  
  
デバイス：  
  
D.ADV.23 XDT\_ADV\_UD 2017.1201 (Thu Sep 21 18:31:01 2017)  
D01 XDT\_PLT\_UD 2017.1201 (Tue Sep 12 14:30:33 2017)
- udadmin -list -a  
すべての機能、バージョン、ライセンス数、およびライセンス済みのユーザーとデバイスを機能ごとを一覧表示します。
- udadmin -events
- udadmin -export  
feature,userId,deviceId,deviceName,versionRequested,versionUserAllocated,versionDeviceAllocated,time

- `udadmin -f XDT_ENT_UD -device dn01.88 -delete`  
指定したデバイスに割り当てられているXDT\_ENT\_UDライセンスを解放します。

## 以前のビルドの構文

`udadmin [-options] [-delete | -list ]`

オプション	説明
<code>-f feature name</code>	<code>-list</code> または <code>-delete</code> とともに使用して、機能名で指定するユーザーまたはデバイスのライセンスを表示したり、解放したりします。
<code>-user user name</code>	ユーザー名で指定するユーザーのライセンスのみを解放します。
<code>-device device name</code>	デバイス名で指定するデバイスのライセンスのみを解放します。
<code>-a</code>	ライセンスサーバーにインストールされているすべての機能とバージョンを一覧表示します。

引数	説明
<code>-delete</code>	ユーザー、機能、またはデバイスのライセンスを一度に1つ解放します。
<code>-list</code>	ライセンスが割り当てられたユーザーとデバイスおよび最後の更新以来の時間を表示します。最後のレポートの15分間に重要なアクティビティが発生した場合は、次の更新までの時間が表示されます。
引数なしまたは?	<code>udadmin</code> コマンドの使用情報を表示します。

## 例

- `udadmin -list`  
すべてのユーザーとデバイスを表示します。
- `udadmin -list -a`  
すべての機能、バージョン、ライセンス数、およびライセンス済みのユーザーとデバイスを機能ごとを一覧表示します。
- `udadmin -f XDT_ENT_UD -user u8.08 -delete`  
指定したユーザーに割り当てられているXDT\_ENT\_UDライセンスを解放します。
- `udadmin -f XDT_ENT_UD -device dn01.88 -delete`  
指定したデバイスに割り当てられているXDT\_ENT\_UDライセンスを解放します。

# ライセンスサーバーのクラスター化

Nov 27, 2017

ライセンスサーバーをクラスター化して複数のコンピューターのグループで運用すると、可用性、信頼性、およびスケーラビリティを強化できます。Microsoftが提供するクラスター化機能は、以下のWindowsに組み込まれています。

- Windows Server 2008
- Windows Server 2008 R2
- Windows Server 2012
- Windows Server 2012 R2
- Windows Server 2016

ライセンスサーバーをクラスター化すると、システムに障害が起きた場合でも、ユーザーは業務に重要なアプリケーションへのアクセスを中断することなく作業を続けることができます。クラスター化されたライセンスサーバーのアクティブノードに障害が発生すると、フェールオーバーが自動的に機能します。このため、すぐにリソースが使用可能になります。

一般的なクラスターの最小構成は、1台のアクティブサーバーと1台のスタンバイ（バックアップ）サーバーです。クラスター内のアクティブサーバーに障害が発生すると、そのクラスター内のリソースの所有権がバックアップ（スタンバイ）サーバーに移動します。通常、クラスター内の1台のサーバーからほかのサーバーにフェールオーバーされたことをユーザーが意識することはありません。

アクティブノードで障害が発生しても、Citrix製品に接続しているユーザーに影響はありません。製品では即座にライセンスが予期間が開始され、イベントの情報が製品側のイベントログファイルに記録されます。

## Important

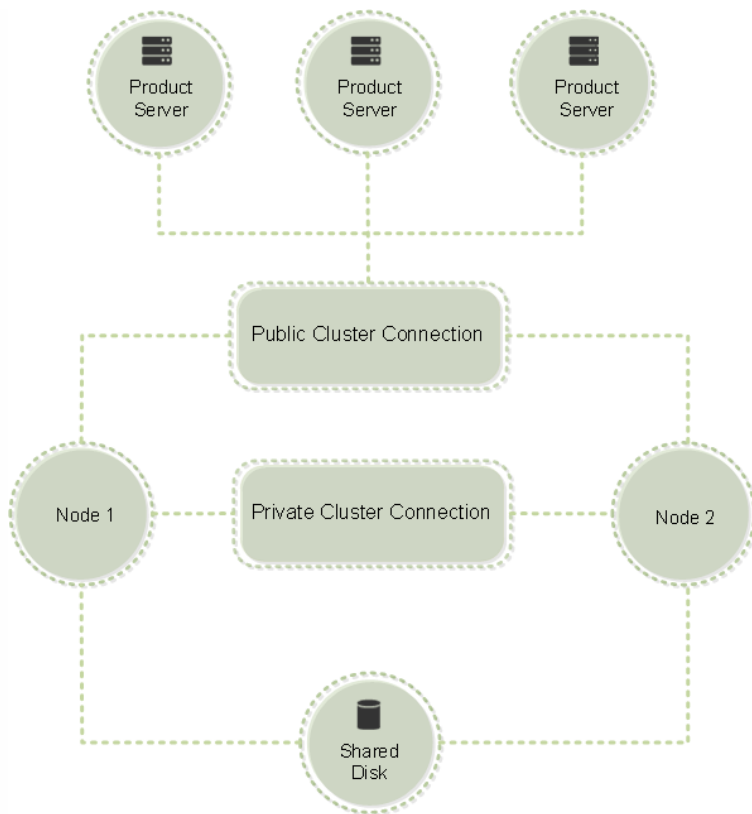
ライセンスサーバーVPXは、ライセンスサーバーのクラスター化をサポートしません。XenServer 5.6以降で提供される高可用性機能を使用することをお勧めします。

## クラスター構成でのCitrixライセンス

ほとんどのクラスター構成では、メッセージ、コマンド、およびクラスター内のノード間の状態に関する情報を送信するためにプライベートネットワークが使用されます。ネットワークの接続が中断されると、ノードでは、まずプライベートネットワークで、その次にパブリックネットワークで再接続が試行されます。次の図は、クラスター化されたライセンスサーバーの構成を示しています。

図1：クラスター化されたライセンスサーバー環境での通信





常に1台のノードだけがクラスター内のリソースを使用できます。展開済みのCitrixライセンスをクラスター化する場合は、次の事項に注意してください。

- 特定のサーバー名を参照するライセンスファイルを生成済みであるため、クライアントアクセスポイントに元のライセンスサーバーと同じ名前を付けるか、クラスターに別の名前を付けてライセンスファイルを再生成する必要があります。
- ライセンスファイルのホスト名では大文字と小文字が区別されるため、そのホスト名と実際のクライアントアクセスポイント名で大文字と小文字が一致している必要があります。そうでない場合は、正しいクラスター名でライセンスファイルを再生成する必要があります。フェールオーバークラスターマネージャーを使用すると、クライアントアクセスポイント名とライセンスファイルのホスト名を一致させることができます。注：XenDesktopのStudioまたはSimple License Service（ライセンスサーバーの「スタート」メニューから起動できます）でライセンスファイルをダウンロードした場合は、クラスター名およびホスト名の大文字/小文字が問題になることはありません。
- Citrix XenDesktopなど、クラスター化前のライセンスサーバーに接続していたすべての製品で、ライセンスサーバーが動作する新しいクラスターを参照する必要があります。クライアントアクセスポイントの名前をライセンスサーバーの名前として認識できるように、製品側の接続設定を変更します。製品側の通信設定の編集については、製品のドキュメントを参照してください。

### ライセンスサーバーのクラスター化に必要なシステム構成

ライセンスサーバーをクラスター化するための要件は次のとおりです。

- Citrixライセンスサーバーはクラスター化された共有ボリュームまたはサードパーティのクラスター用ボリューム管理製品をサポートしません。
- Microsoftクラスターサービスを使用してCitrixライセンスを設定するには、完全に機能するMicrosoftクラスター環境が必要です。Citrixライセンスサーバーは、常にいずれか1つのノードでのみ動作します。
- ライセンスサーバーのクラスター化には、Microsoftが推奨する一般的なハードウェアおよびクラスター化の要件に加えて、次の要件を満たす必要があります。
- クラスター環境へのライセンスサーバーのインストールは、インストーラーCitrixLicensing.exeを使用する必要があります。
- クラスター内にCitrixライセンスをインストールするとき、ライセンスサーバーの名前を入力する画面が表示されたら、ク

クライアントアクセスポイントの名前を入力します。

- クラスター内の各ノードに、同じハードウェアを使用することをお勧めします。各ノード上に2つのネットワークアダプターを取り付け、共有ドライブとして1つのドライブを設定します。
- 各ノードに2つのネットワークアダプターが必要です。これらのアダプターは、パブリックネットワーク、およびノード間のプライベートなクラスターネットワークへの接続に使用します。1つのネットワークアダプターによる両方のネットワークへの接続はサポートされません。
- クラスターサービスでは、サブネットごとに1つのネットワークインターフェイスしか認識しないため、パブリックIPアドレスとプライベートIPアドレスは、それぞれ別のサブネット上に設定します。
- クライアントアクセスポイント名を解決するために、DNS、WINS、HOSTS、LMHOSTSなどによる名前解決が必要です。
- クラスターを構成する各サーバーを同じドメインに設置します。
- プライベートネットワークのコネクタ用に静的なIPアドレスを設定します。
- ビルド20104以降のライセンスサーバーをインストールした場合、クラスターへの割り当てには、Citrix Licensing Managerとお持ちのライセンスアクセスコードを使用することを推奨します。
- citrix.comでライセンスファイルを生成するときに、ホストIDとしてクライアントアクセスポイント名を入力します。
- ライセンスファイルをダウンロードしたら、ライセンスサーバー上のF:\Program Files\Citrix\Licensing\MyFilesフォルダー（Fはクラスター用共有ドライブ）にコピーして、再読み込みします。または、ライセンス管理コンソールを使用してダウンロード、コピー、および再読み込みを実行します。

## Important

クラスター内のプライベートおよびパブリックネットワークのすべてのアダプターで、静的なIPアドレスを設定することをお勧めします。IPアドレスの取得にDHCP (Dynamic Host Configuration Protocol) を使用すると、DHCPサーバーが停止したときに、クラスターノードにアクセスできなくなります。パブリックネットワークアダプターにDHCPを使用しなければならない場合は、DHCPサービスが一時的に停止しても動的に割り当てられたアドレスが有効に保たれるように、リース期間を長く設定するか、アドレスを予約してください。

## クラスター化プロセスの概要

クラスター化されたサーバーにCitrixライセンスをインストールし設定する手順の概要は次のとおりです。ここでは、ライセンスサーバーをインストールするハードウェアがクラスター化済みであることを前提としています。

1. クラスターリソースグループを作成します。そのリソースグループにクライアントアクセスポイントと共有ストレージを割り当てます。クラスター内のリソースが1次ノードにより制御されていることと、作成したリソースグループが1次ノードを参照していることを確認します。
2. 1次ノードで管理者としてコマンドプロンプトを開き、CitrixライセンスサーバーのインストーラーCitrixLicensing.exeを実行して、クラスター用共有ドライブにライセンスサーバーをインストールします（クォーラムドライブにインストールしないでください）。[クラスターの最後のノード]チェックボックスがオフになっていることを確認します。
3. リソースを、クラスター内のアクティブノードから2次ノードに移動します。
4. 2次ノードで、1次ノードと同じ共有ドライブにライセンスサーバーをインストールします。クラスターには2つ以上のノードを追加できます。
5. クラスターの最後のノードにライセンスサーバーをインストールするときは、必ず[クラスターの最後のノード]チェックボックスをオンにしてください。
6. ホスト名としてライセンスサーバーのクライアントアクセスポイント名を指定して、ライセンスファイルを取得します。ライセンスファイルを取得したら、ライセンスサーバーにコピーして、再読み込みします。
7. Citrix製品のライセンスサーバー設定で、ノード名ではなくクライアントアクセスポイント名を接続先として指定します。

## Important

クラスター化されたライセンスサーバーがフェールオーバーすると、クラスターサービスによってImgrd\_debug.logがそれまでサービスをホストしていたノードの名前に変更されます。そして新しいアクティブノードでサービスが開始され、新しいImgrd\_debug.logが作成されます。

# インストール、アップグレード、およびアンインストール

Dec 19, 2017

クラスター化されたサーバーへのCitrixライセンスサーバーのインストール

この手順で使用するドライブ文字、パス、および変数は次のとおりです。

- Dは、製品メディアのドライブです。
- Cは、指定したノードのローカルハードドライブです。
- Fは、クラスターの共有ドライブリソースです（これがインストール先ドライブです。つまり、各ノードで使用されるインストールファイルを格納する場所です）。

## Important

NetBiosの制限により、クライアントのアクセスポイント名は15文字以上にできません。

1. 別個の非コアクラスターリソースグループを作成する必要があります。リソースグループには、ドライブ文字およびライセンスファイルの取得時に使用されるのと同じホスト名のクライアントアクセスポイントを割り当てられた接続ストレージが必要です。フェールオーバークラスターマネージャーを使い、またWindows 2008の [サービスとアプリケーション] またはWindows 2012の [役割] でメニューから別のサーバーの種類を選択して、これを作成します。すべてのクラスターリソースがクラスターの1次ノードにより所有されていることを確認します。
2. ライセンスサーバーのインストーラー (CitrixLicensing.exe) を管理者として実行します。
3. [インストールの場所] ページで、クラスターの共有ドライブのドライブ文字を指定します。デフォルトのインストール場所は、F:\Program Files\Citrix\Licensingです。
4. 1次ノードへのインストールでは、[クラスターの最後のノード] チェックボックスがオフになっていることを確認します。
5. 手順1.で作成したリソースグループのリソースを2次ノードに移動します。
6. 2次ノードで、CitrixLicensing.exeを管理者として実行します。
7. 手順3.を行います。クラスターには3つ以上のノードをインストールできます。クラスターには3つ以上のノードをインストールできます。追加する各ノードで手順3.を行います。
8. クラスターの最後のノードにライセンスサーバーをインストールするときに、[クラスターの最後のノード] チェックボックスをオンにします。最後のノードでポートを構成します。
9. ビルド20104以降のライセンスサーバーをインストールした場合、Citrix Licensing Managerを使用してライセンスファイルをインポートします。それ以外の場合は、コンソールで次の手順に従ってライセンスファイルをインポートします。詳しくは、「[ライセンスのインストール](#)」を参照してください。
  1. http://:を指定してライセンス管理コンソールを開きます。ここで、はクライアントアクセスポイント名を示し、は管理コンソールのWebサービスポート（デフォルトで8082）を示します。

2. [管理] をクリックし、[ベンダーデーモン構成] タブをクリックします。
  3. [ライセンスのインポート] をクリックします。
  4. citrix.comのリンクをクリックします。
  5. My Accountのページが開いたら、ユーザーIDとパスワードを入力します。
  6. [All Licensing Tools] を選択します。
  7. メインメニューから、[割り当て] を選択します。
  8. 画面の指示に従って、ライセンスを割り当ててライセンスファイルを生成します。ダウンロードするライセンスを選択して [Download] をクリックし、生成されたライセンスファイルをクラスターの共有ドライブF:\Program Files\Citrix\Licensing\MyFiles\に保存します。
  9. ライセンス管理コンソールの [ライセンスファイルのインポート] ページに戻り、[参照] をクリックしてライセンスファイルを指定します。
  10. [ライセンスサーバー上のライセンスファイルを上書きする] チェックボックスをオンにします。
  11. [ライセンスのインポート] をクリックします。
- 10.ライセンスファイルを再読み込みします。
1. [ベンダーデーモン構成] タブをクリックします。
  2. CITRIXベンダーデーモン行の [管理] をクリックします。
  3. [ライセンスファイルの再読み込み] をクリックします。

## 管理コンソールやコマンドの使用

通常環境で使用するライセンス管理コンソールやコマンドの機能は、クラスター環境でも使用可能です。

ライセンス管理コンソールを開くには、Webブラウザで次のアドレスを指定します。

`https://client access point name:web service port`

ここで、client access point nameはクラスターの名前を示し、web service portはコンソール通信で使用されるポート番号（デフォルトポートは8082）を示します。

ライセンス管理コマンドでは、クラスター環境でのライセンスファイルの場所をc @client access point nameように引数を使用して指定します。次に例を示します。

```
Imreread -c @client access point name -all
```

## クラスター化されたライセンスサーバーのアップグレード

Version 11.12.1よりも古いライセンスサーバーがインストールされている場合は、それをアンインストールしてから最新のバージョンをインストールします。古いバージョンのライセンスサーバーはMicrosoft社のクラスターガイドラインに準拠していません。新しいバージョンのライセンスサーバーは、Windows Server 2008以降で正しく動作するための要件を満たして

います。

## クラスター化されたライセンスサーバーのアンインストール

クラスター環境で動作するライセンスサーバーをアンインストールするには、アクティブノードで[コントロールパネル]の[プログラムと機能]を使用します。

1次ノードにすべてのリソースが含まれていることを確認します。

1. クラスターの1次ノードで [コントロールパネル]、 [プログラムと機能] の順に選択します。
2. Citrixライセンスサーバーを削除します。
3. フェールオーバークラスターマネージャーを使用して、Citrix Licensingリソースグループのリソースを2次ノードに移動します。
4. 2次ノードからCitrixライセンスサーバーを削除します。残りの各ノードについて手順3と4を繰り返し、手順5に進みます。
5. 共有ドライブから残りのファイルを削除します。

注：ライセンスサーバーをアンインストールしても、共有ドライブ上のライセンスファイルおよびオプションファイルは削除されません。

トラブルシューティングについては、「[トラブルシューティング](#)」を参照してください。

# バックアップと冗長性

Aug 18, 2017

Citrix製品を重要な基幹業務で使用する場合は、バックアップ用のライセンスサーバーを設定した方がよい場合があります。Citrixからライセンスのバックアップコピーを取得することも可能ですが、多くのライセンスをダウンロードするには時間がかかることがあります。ライセンスサーバーの障害時に備えて、ライセンスのコピーをネットワーク上の共有フォルダーに保存したり、バックアップ用のライセンスサーバーを設定したりできます。

## 冗長性の設定

基幹業務に使用される環境でなければ、通常は冗長性の設定は不要です。小規模や、業務への影響が少ない環境では、ネットワーク上またはネットワーク外に格納されているライセンスサーバーのコピーを作成して、ライセンスサーバーをバックアップすることができます。

基幹業務環境でのライセンスサーバーの冗長性は、次の方法で確保できます。

- クラスター化されたライセンスサーバーを作成します。クラスター化とライセンスの設定について詳しくは、[ライセンスサーバーのクラスター化](#)を参照してください。
- XenServer 5.6以降の高可用性機能を使用します。
- ライセンスサーバーおよびライセンスサーバー上のファイルを複製します。バックアップ用のライセンスサーバーに元のライセンスサーバーと同じ名前を付けて、ネットワークに接続せずに保管します。
- バックアップ用のライセンスサーバーに別の名前を付けて、ネットワーク内に保管します。この場合、アクティブなライセンスサーバーの障害時にバックアップ用のライセンスサーバーを使用するには、サーバー名を元のライセンスサーバーの名前に変更する必要があります。
- ネットワークアプライアンスを使用します。単一のライセンスサーバーでライセンス要求を処理する場合は、サーバーやネットワークの障害を検出するネットワークアプライアンスを使用してバックアップライセンスサーバーにトラフィックが転送されるように構成します。

どの方法を採用しても、**猶予期間内にバックアップ用のライセンスサーバーに切り替えれば**、ユーザーは製品の使用を継続できます。猶予期間について詳しくは、「[製品の技術概要](#)」の「**猶予期間**」を参照してください。

次の重要事項に気をつけてください。

- ライセンスファイルは、割り当て時に指定したサーバー名を参照するため、同じバインド情報を持つサーバー以外のサーバーでは使用できません。同じバインド情報とは、元のライセンスサーバーと同じサーバー名や完全修飾ドメイン名またはMACアドレス（ポータルではイーサネットアドレスと表示される場合があります）を指します。
- 同じ名前のライセンスサーバーを、同一ネットワーク内で同時にアクティブにすることはできません。
- ライセンスを追加するときは、元のライセンスサーバーとバックアップ用のライセンスサーバーの両方にライセンスファイルをコピーしてください。

# トラブルシューティング

Dec 19, 2017

## ライセンスサーバーVFXとActive Directoryの統合の問題

ライセンスサーバーVFXをActive Directoryに統合する場合に最も発生しやすいエラーは、以下のとおりです。

- **エラー：ユーザーが見つかりません**  
使用されているドメインユーザーアカウントが対象ドメインに見つかりません。  
信頼されたドメインはサポートされません。ユーザーが任意の信頼されたドメイン/親ドメインに属し、対象ドメインの一部ではない場合、このエラーが表示されることがあります。
- **エラー：ユーザーにアクセス権がありません**  
ドメインユーザーがマシンをActive Directoryに参加させるための適切な権限を持っていることを確認してください。  
詳しくは、次の記事を参照してください。 <https://support.microsoft.com/en-us/help/932455/error-message-when-non-administrator-users-who-have-been-delegated-con>
- **エラー：ドメインにアクセスできません**  
ドメイン名を修正するか、ドメインがライセンスサーバーVFXからアクセスできるかどうかを確認し、ネットワーク関連の問題を修正してください。
- **エラー：ユーザーにドメインに参加させるための権限がありません**  
アカウントにマシンをActive Directoryに参加させるために必要な権限があることを確認してください。  
詳しくは、次の記事を参照してください： <https://github.com/BeyondTrust/pbis-open/issues/51>。

その他のエラーについては、 <https://github.com/BeyondTrust/pbis-open/issues> の記事を参照してください。

## ライセンスサーバーVFXでのkeytabの作成に関する問題

keytabの作成中に問題が発生した場合は、以下の手順に従って再試行してください。

1. ktpass.exeコマンドを実行する場合、昇格された権限があることを確認してください。管理者としてコマンドプロンプトを実行します。
2. ユーザーアカウント制御 (UAC) の制限が最小限であることを確認します。
3. パスワードのすべての要件が満たされていることを確認します。例えば、パスワードフィルターが対象ドメインのパスワード文字を禁止していないかや、サポートされている文字数内で指定しているかを確認する必要があります。
4. **-mapuser** 引数で使用されるアカウントにドメインを追加して、コマンドを再試行します。ユーザープリンシパル名 (account@domain.com) または下位レベルのログオン名 (domain\username) を使用します。
5. 使用されているアカウントが、信頼されたドメインまたは親ドメインではなく、対象ドメインのメンバーであることを確認します。
6. **-target** 引数をコマンドに追加し、ドメイン名を渡します。
  1. **-mapuser** 引数で使用されるアカウントが、この目的のためだけに作成されたサービスアカウントであることを確認してください。
  2. アカウントの名、姓、サービスアカウント名に間違いがないことを確認します。
  3. マッピング中に一意性が確認できるように、アカウント名をライセンスサーバーVFX名と同じ名前にすることをお勧めします。

詳しくは、Microsoft ktpassコマンドの記事を参照してください。 [https://technet.microsoft.com/en-us/library/cc753771\(v=ws.11\).aspx](https://technet.microsoft.com/en-us/library/cc753771(v=ws.11).aspx)。

## クラスター化されたライセンスサーバーのトラブルシューティング



## Important

ライセンスサービスのいずれかが起動に失敗すると、クラスターはライセンスサーバーがオフライン状態であることを検出して、サービスの再起動をデフォルトで3回試行します。3回とも再起動に失敗すると、2次ノードにフェールオーバーして、2次ノード上でサービスの起動を試行します。2次ノードでも再起動に失敗した場合、このプロセスが無限ループに陥ることがあります。この問題が発生すると、Citrix製品が動作するコンピューターは猶予期間に入ります。猶予期間中、クライアントユーザーからの接続は影響を受けません。

クラスター化されたライセンスサーバーのトラブルシューティングには、次のことを行います。

- リソースをほかのノードに移動しても、同様の問題が発生するかどうかを確認します。
  - Microsoftクラスターサーバーの [ネットワーク名をコンピューター名として使う] チェックボックスがオンになっていることを確認します。詳しくは、<http://support.microsoft.com/kb/198893>を参照してください。
  - インストールに失敗した場合、クラスター環境でのインストール時にユーザーアカウント制御 (UAC) を有効にしないようにします。
  - Windows Server 2008、Windows Server 2008 R2、Windows Server 2012、およびWindows Server 2016の場合。
1. [フェールオーバークラスターの管理] ウィンドウの左ペインでクラスターを選択します。中央ペインにクラスターの概要情報が表示されます。
  2. [クラスターコアリソース] をクリックしてセクションを展開します。
  3. クラスターリソースがすべてオンラインであることを確認します (緑色の矢印が表示されます)。

# ライセンスについてよく寄せられる質問

Feb 26, 2018

ここでは、ライセンスに関する一般的な問題について説明します。

ライセンスサーバーの名前は変更できますか？

ライセンスファイルは、そのファイルが作成されたときに指定されたライセンスサーバー上でのみ機能します。ライセンスファイルには、ライセンスを割り当てるときに指定したライセンスサーバーのホスト名またはそのほかの識別情報が含まれています。生成したライセンスファイルには特定のライセンスサーバー名または（アプライアンスの場合は）MACアドレスが指定されており、ほかの名前のライセンスサーバーまたはアプライアンスで使用することはできません。

citrix.comでライセンスを再割り当てして新しいファイルを生成することで、新しいサーバー名またはMACアドレスを参照するライセンスファイルを作成します。

ライセンスサーバーをアップグレードすると、ライセンスファイルに影響がありますか。

いいえ。ライセンスサーバーとすべての製品ライセンスは完全に後方互換性があり、シトリックス製品の運用環境に問題が与えることはありません。

異なるエディションの製品を使用して異なるサーバーに接続するユーザーに、単一のライセンスサーバーでライセンスを提供できますか？

はい。1つのライセンスサーバーに、複数のエディションのシトリックス製品のライセンスを配置できます。製品サーバーで設定されているエディションに対応する種類のライセンスがチェックアウトされます。製品サーバーは特定のエディションのライセンスを使用するように設定され、そのエディションのライセンスをチェックアウトします。

次に例を示します。

製品サーバーAはEnterprise Editionのライセンスをチェックアウトするように設定されています。

製品サーバーBはPlatinum Editionのライセンスをチェックアウトするように設定されています。

ライセンスサーバー1にはEnterprise EditionとPlatinum Editionの両方のライセンスが配置されています。

- 製品サーバーAに接続するユーザーのためにライセンスサーバー1からチェックアウトされるのは、Enterprise Editionのライセンスのみです。ライセンスサーバー1でEnterprise Editionのライセンスがすべてチェックアウトされると、Enterprise Editionのライセンスが解放されるまで、製品サーバーAのユーザーからの新しい要求は拒否されます。
- 製品サーバーBに接続するユーザーのためにライセンスサーバー1からチェックアウトされるのは、Platinum Editionのライセンスのみです。ライセンスサーバー1でPlatinum Editionのライセンスがすべてチェックアウトされると、Platinum Editionのライセンスが解放されるまで、製品サーバーBのユーザーからの新しい要求は拒否されます。

## 注意

多くのユーザーが使用する多くの製品サーバーが同じライセンスサーバーと同時に通信する場合は、ライセンスのチェックアウトにかかる時間が長くなる場合があります。1つのライセンスサーバーが同時に処理できるTCP/IP着信要求は10,000件までです。同時に接続するCitrixの製品サーバー（XenApp、XenDesktop、Delivery Controller、Appliance）が10,000台を超える場合は、複数のライセンスサーバーを使用することをお勧めします。

展開例：

シナリオ1：2つのファーム

- ファームAにはEnterprise Editionに設定された製品サーバーがあります。
- ファームBにはPlatinum Editionに設定された製品サーバーがあります。
- 1つのライセンスサーバー（共有）
- ユーザー1、ユーザー2、ユーザー3、ユーザー4... ユーザー5000はファームAにのみ接続します。
- ユーザー5001、ユーザー5002、ユーザー5003... ユーザー10000はファームBにのみ接続します。

シナリオ2：1つのファーム

- 1つのファームで2組の公開アプリケーションがあります。
- 1つはEnterprise Editionに設定された製品サーバーでホストされています。
- もう1つはPlatinum Editionに設定された製品サーバーでホストされています。
- 1つのライセンスサーバー（共有）
- ユーザー1、ユーザー2、ユーザー3、ユーザー4... ユーザー5000は、1目のアプリケーションセットがホストされている製品サーバーにのみ接続します。
- ユーザー5001、ユーザー5002、ユーザー5003... ユーザー10000は、2目のアプリケーションセットがホストされている製品サーバーにのみ接続します。

ライセンスサーバーのバージョン番号の違い

注：この問題はビルド22103で修正されました。以前のビルドのライセンスサーバーでのみ表示されます。

ライセンス管理コンソールおよびWindowsのプログラムと機能での識別で、異なるバージョン番号が表示されますが、表示されるビルド番号は同じです。



Citrixのライセンステクノロジーでは、2つの異なるバージョン管理システムを使用します。

- ライセンス管理コンソールおよびレジストリのバージョンキーは、ライセンスサーバーのバージョンと内部ビルド番号（上の図の**11.13.1 build 16002**）を使用します。
- 内部用とMSI用に、ライセンスSDKのバージョンとCitrixのビルド番号（上の図の**11.1.0.1 build 16002**）を使用します。

混同しないように、Citrix Licensing Manager、ライセンス管理コンソールまたはレジストリを使用して、正しいバージョン番号を特定することをお勧めします。ライセンスサーバーのバージョンを画面の一番上のバーに表示します。

詳細については、「はじめに」の記事の「最新のライセンスサーバーがあることを確認する」を参照してください。